

海老名市地域福祉に関する 住民アンケート調査 報告書

令和 7 年 3 月

海老名市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	3
4. 調査結果を見る上での注意事項	3
第2章 調査回答者の属性	5
1. 基本属性	7
第3章 調査結果	9
1. 地域での暮らし・つながりについて	11
（1）地域での暮らしについての感じ方	11
（2）地域で見たり聞いたりしたことがあること	12
（3）孤立感の感じ方	15
（4）普段のとなり近所との関わり	17
（5）となり近所の人に手助けしてほしいこと	19
（6）となり近所の助け合いとしてできると思うこと	22
（7）近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援	25
（8）悩みごとの相談先	28
2. 地域での暮らし・つながりについて	31
（1）ボランティア・市民活動をした経験	31
（2）ボランティア・市民活動の活動内容	33
（3）ボランティア・市民活動のきっかけ	36
（4）ボランティア・市民活動への参加意向	39
（5）ボランティア・市民活動をしたくない・できない理由	41
3. 福祉サービスについて	44
（1）これまでに利用したことがある市の福祉サービス	44
（2）福祉サービスの利用にあたり困ったこと	46
（3）市の福祉に関する情報の入手先	49
（4）地域福祉活動の組織や拠点の認知度	52
4. 防災について	53
（1）住まいの地域の災害時の避難場所の認知度	53
（2）住まいの地域の防災訓練の参加の有無	55
（3）災害時の避難や対応について不安に思うこと	57
（4）避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度	60
5. 成年後見制度について	62
（1）成年後見制度に関する認知度	62

(2) 市民後見人になるための養成講座の受講意向	63
6. 生活困窮者自立制度について	65
(1) 生活困窮者自立支援制度の認知度	65
(2) 生活困窮者	67
(3) 生活に困っている人への支援	69
7. 再犯防止対策について	72
(1) 「社会を明るくする運動」の認知度	72
(2) 市が力を入れていくべき再犯防止施策	74
(3) 再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について	77
8. 自由意見	80
(1) 地域福祉に関するご意見・ご要望	80

第4章 調査票	83
---------------	----

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

この調査は、「海老名市地域福祉計画」の改定にあたり、社会環境の変化に伴い多様化・複雑化している福祉ニーズに対応するため、市民のみなさまの身近な生活課題や地域での支えあいに関するお考えを把握したうえで検討を進めることを目的として実施しました。

2. 調査方法と回収状況

- (1) 調査地域：海老名市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の個人1,400人
- (3) 抽出方法：海老名市住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (4) 調査方法：【配布】郵送
【回収】郵送及び回答用ウェブサイト
- (5) 調査期間：令和6年6月26日（水）～8月19日（月）
- (6) 回収状況

方法	配布数（件） 【A】	有効回収数（件） 【B】	有効回収率（%） 【B/A】
全体	1,400	630	45.0
郵送	1,400	391	27.9
WEB	1,400	239	17.1
前回	1,300	491	37.8

※有効回収率は、小数点第2位以下を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。

3. 調査項目

- 1. 地域との交流について
- 2. ボランティア・市民活動について
- 3. 福祉サービスについて
- 4. 防災について
- 5. 成年後見制度について
- 6. 生活困窮者自立支援制度について
- 7. 再犯防止対策について
- 8. あなた自身について
- 9. 自由意見

4. 調査結果を見る上での注意事項

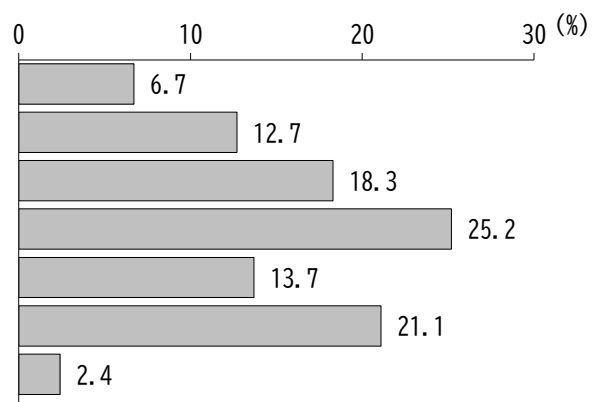
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査回答者の属性

1. 基本属性

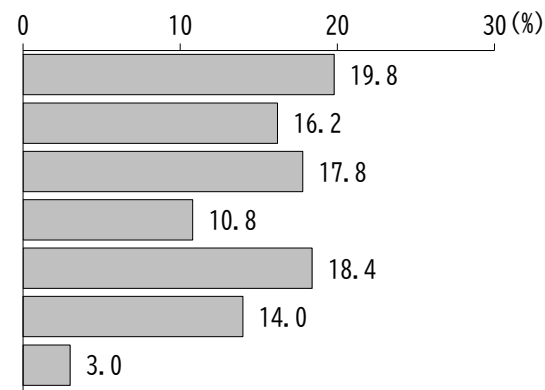
【年齢（問 30）】 n = 630

	構成比
20～29 歳	6.7%
30～39 歳	12.7%
40～49 歳	18.3%
50～64 歳	25.2%
65～74 歳	13.7%
75 歳以上	21.1%
無回答	2.4%



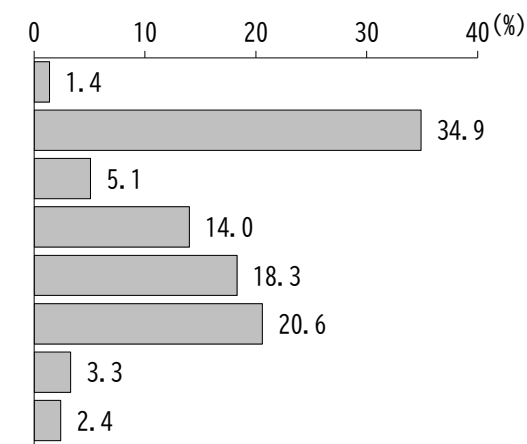
【居住地区（問 31）】 n = 630

	構成比
北部地区	19.8%
東部地区	16.2%
中央地区	17.8%
中部地区	10.8%
南部地区	18.4%
西部地区	14.0%
無回答	3.0%



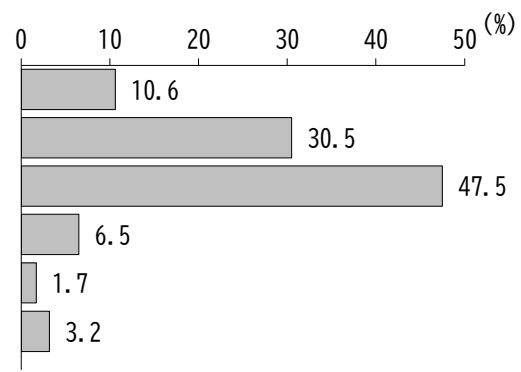
【職業（問 32）】 n = 630

	構成比
学生	1.4%
会社員	34.9%
自営業	5.1%
パート・アルバイト	14.0%
専業主婦・主夫	18.3%
無職	20.6%
その他	3.3%
無回答	2.4%



【家族構成（問 33）】 n = 630

	構成比
ひとり暮らし	10.6%
夫婦だけ	30.5%
親と子（2世代）	47.5%
親と子と孫（3世代）	6.5%
その他	1.7%
無回答	3.2%



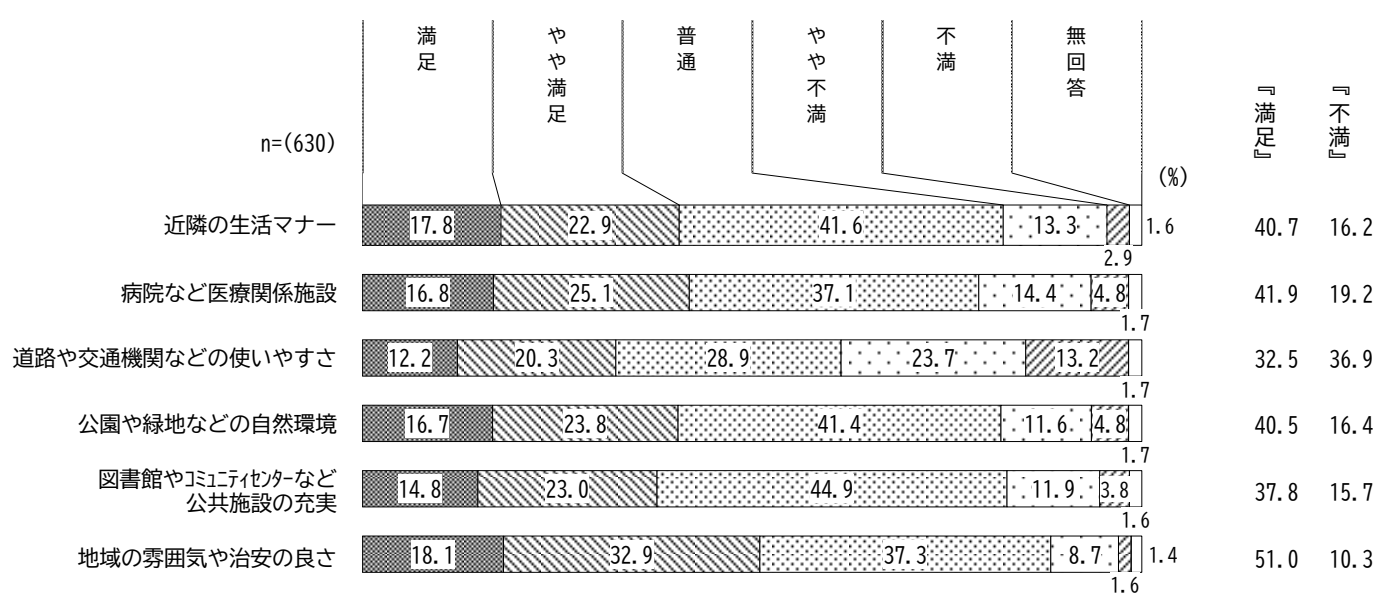
第3章 調査結果

1. 地域での暮らし・つながりについて

(1) 地域での暮らしについての感じ方

問1 あなたはお住いの地域での暮らしについてどう思われますか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図1-1-1 地域での暮らしについての感じ方 全体

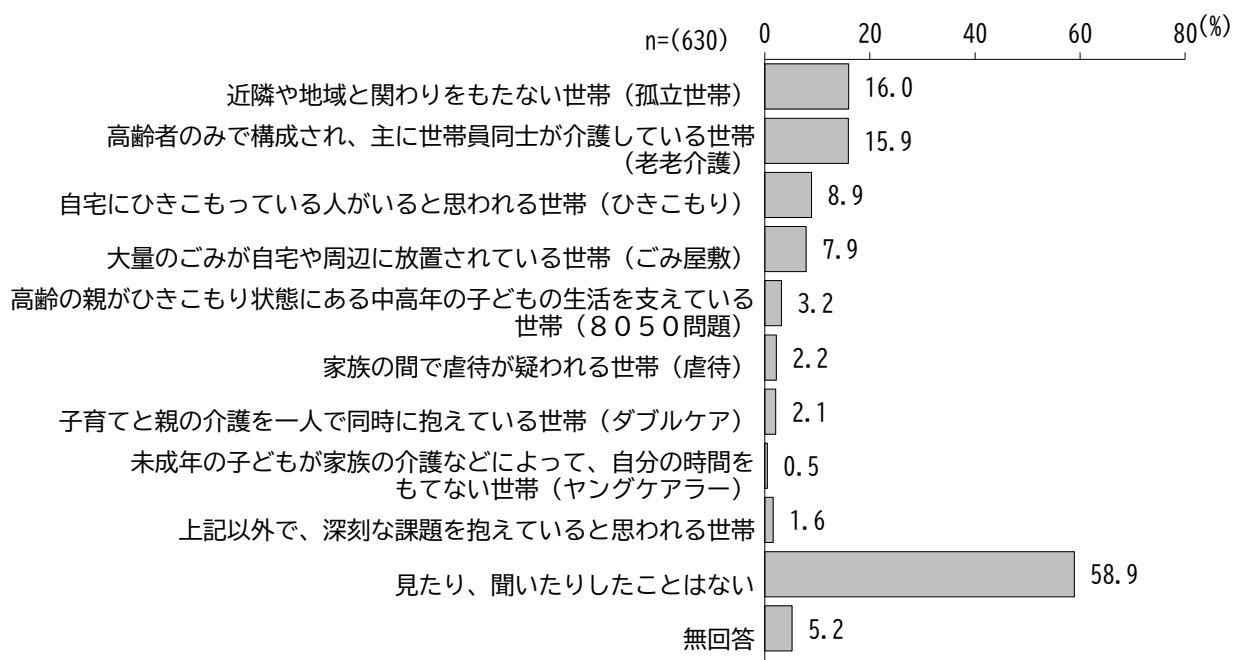


地域での暮らしについての満足度を聞いたところ、『満足』では「地域の雰囲気や治安の良さ」が51.0%と最も高く、次いで「病院など医療関係施設」が41.9%、「近隣での生活マナー」が40.7%となっている。一方、『不満』では、「道路や交通機関の使いやすさ」が36.9%と最も高く、次いで「病院など医療関係施設」が19.2%、「公園や緑地などの自然環境」が16.4%となっている。

(2) 地域で見たり聞いたりしたことがあること

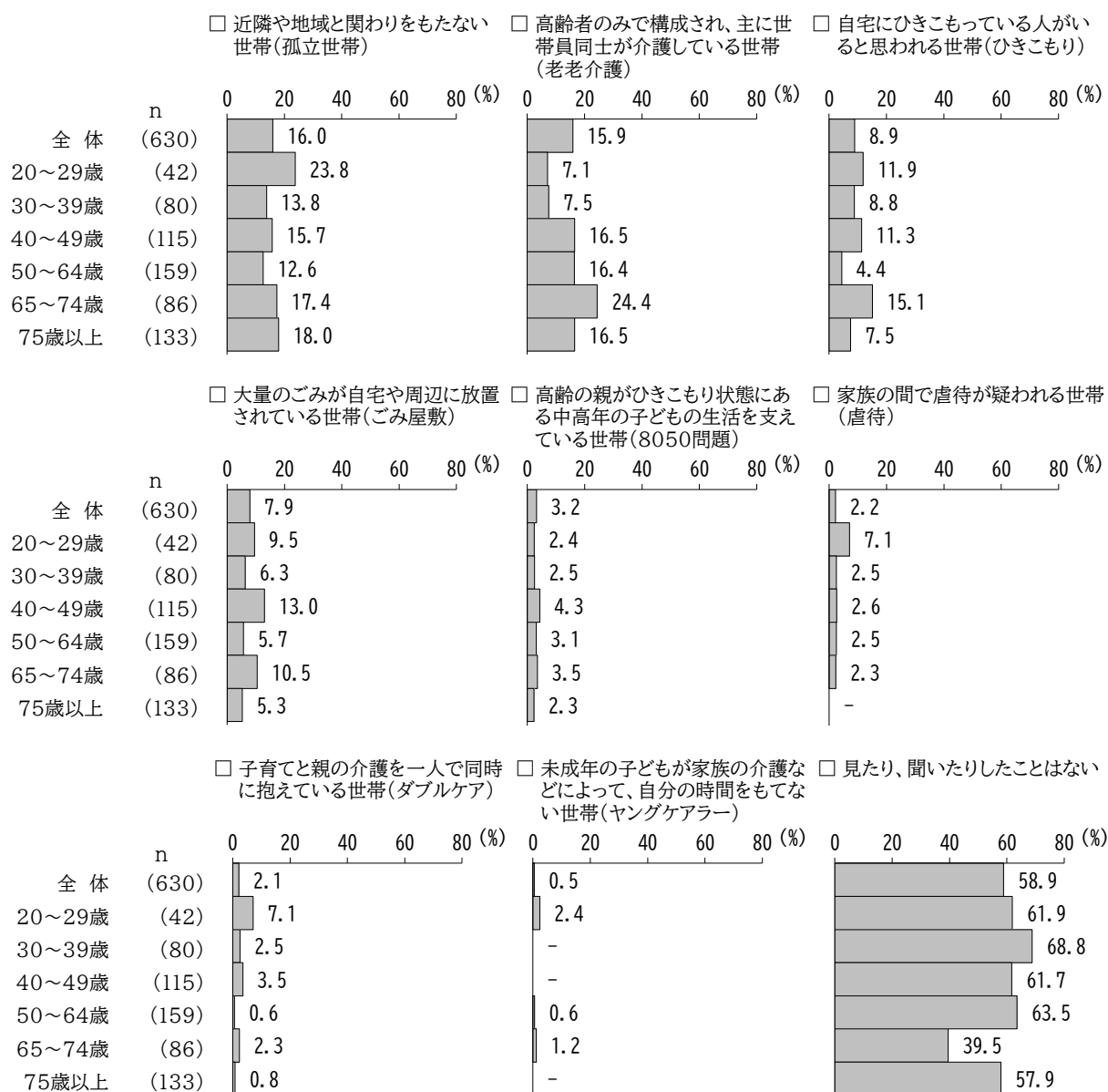
問2 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図1-2-1 地域で見たり聞いたりしたことがあること 全体



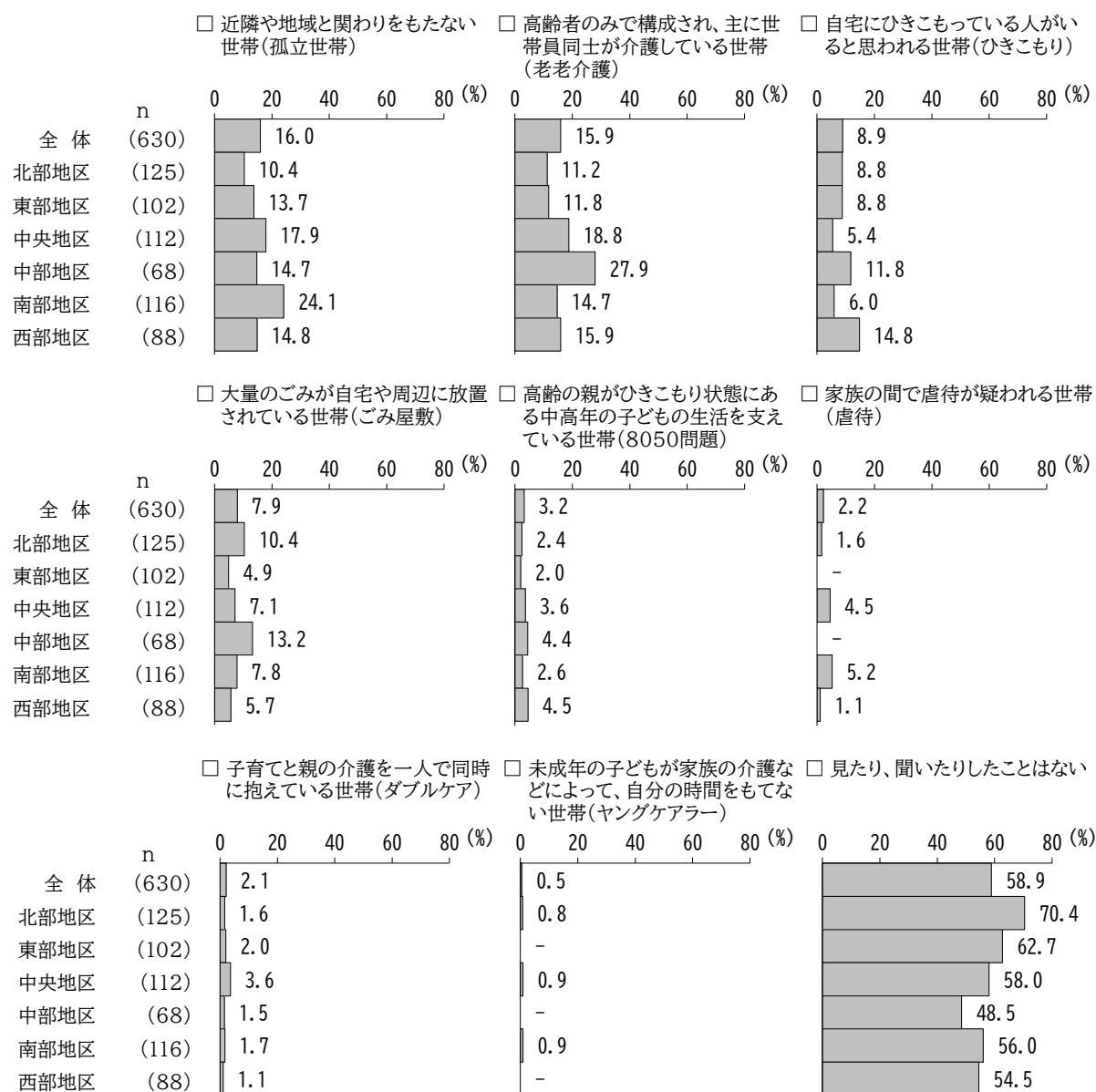
地域で見たり聞いたりしたことがあることについて聞いたところ、「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」が16.0%で最も高かった。以下、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）」（15.9%）、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」（7.9%）の順になっている。一方で、「見たり、聞いたりしたことはない」は58.9%を占めている。

図 1-2-2 地域で見たり聞いたりしたことがあること 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)」については20～29歳(23.8%)が全体に比べて高くなっている。また、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)」については65～74歳(24.4%)、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯(ひきこもり)」については65～74歳(15.1%)、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯(ごみ屋敷)」については40～49歳(13.0%)が高くなっている。

図 1-2-3 地域で見たり聞いたりしたことがあること 地区別(上位9項目)

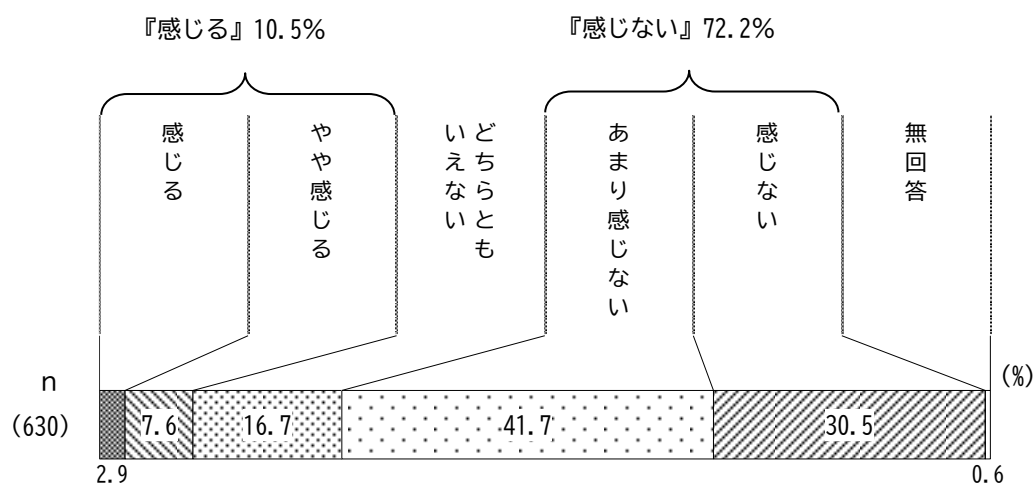


地区別でみると、「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」については南部地区（24.1%）が全体に比べて高くなっている。また、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）」については中部地区（27.9%）、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）」については西部地区（14.8%）、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」については中部地区（13.2%）、「見たり、聞いたりしたことはない」については北部地区（70.4%）が高くなっている。

(3) 孤立感の感じ方

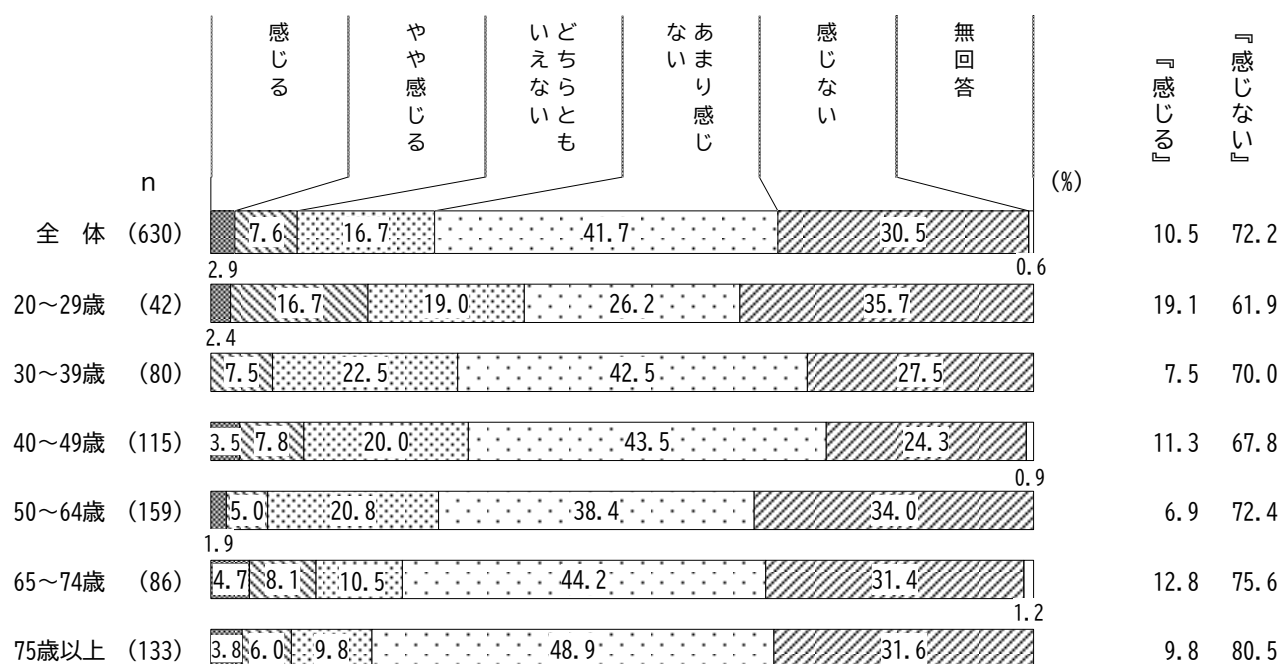
問3 あなたはお住いの地域で孤立感を感じることがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図1-3-1 孤立感の感じ方 全体



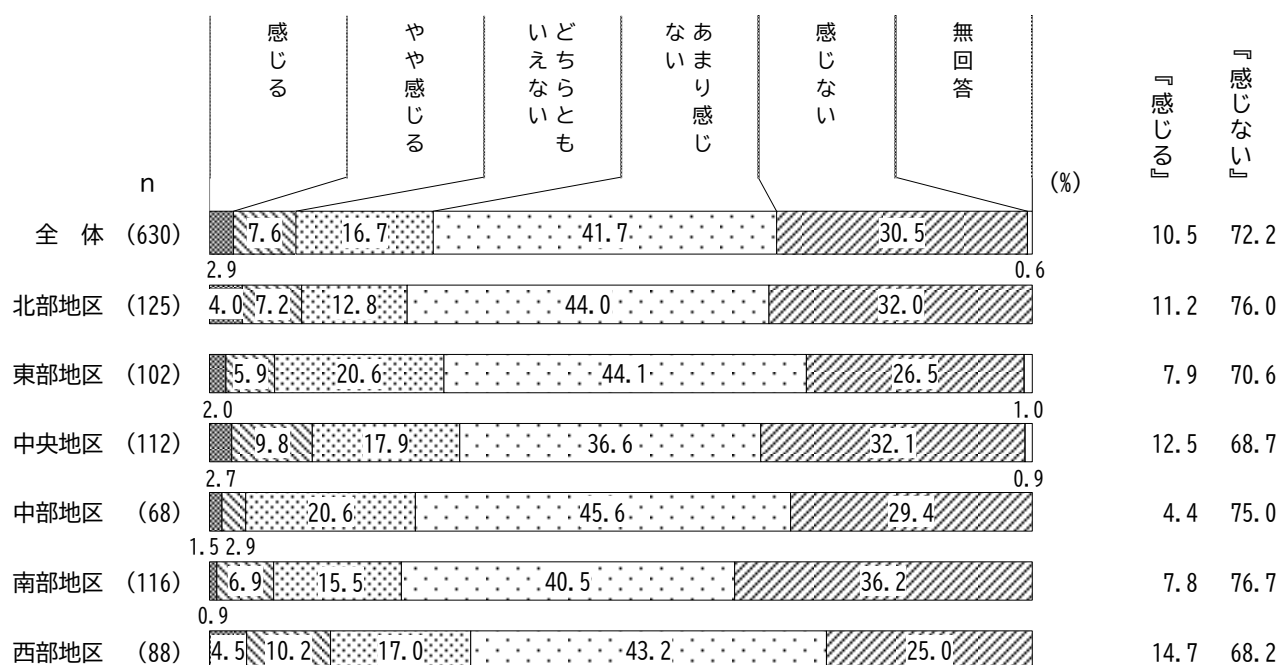
地域での孤立感について聞いたところ、「感じる」(2.9%)と「やや感じる」(7.6%)を合わせた『感じる』は10.5%であった。一方、「あまり感じない」(41.7%)と「感じない」(30.5%)と合わせた『感じない』は72.2%であった。

図1-3-2 孤立感の感じ方 年齢別



年齢別でみると、『感じる』については20～29歳（19.1%）が高くなっている。一方、『感じない』については75歳以上（80.5%）で全体に比べて高くなっている。

図1-3-3 孤立感の感じ方 地区別

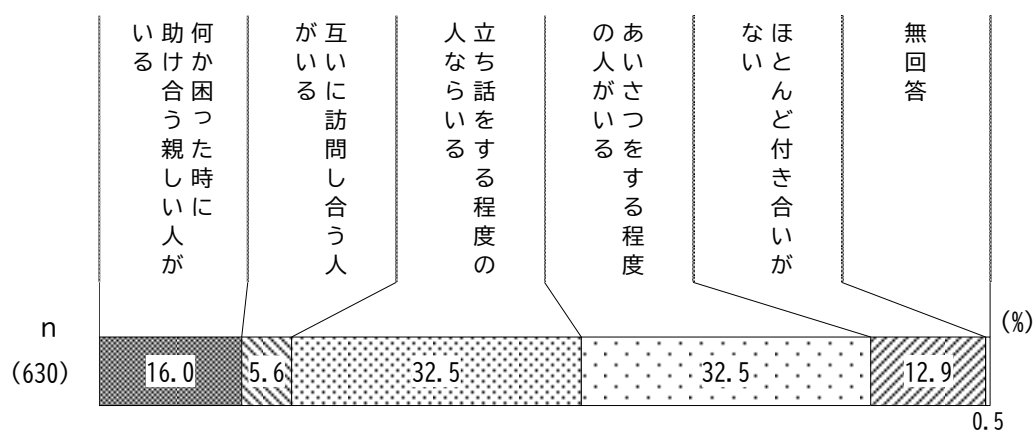


地区別でみると、『感じる』については西部地区（14.7%）と中央地区（12.5%）が全体に比べて高くなっている。一方、『感じない』については南部地区（76.7%）が高くなっている。

(4) 普段のとなり近所との関わり

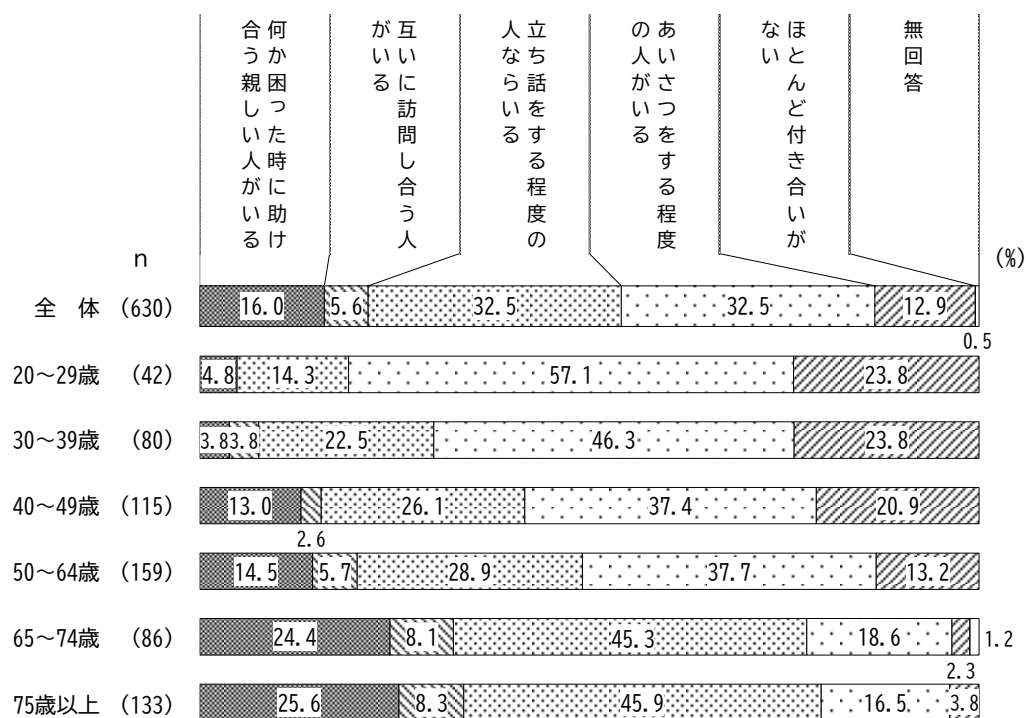
問4 あなたは普段、となり近所の人とどの程度お付き合いをしていますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図1-4-1 普段のとなり近所との関わり 全体



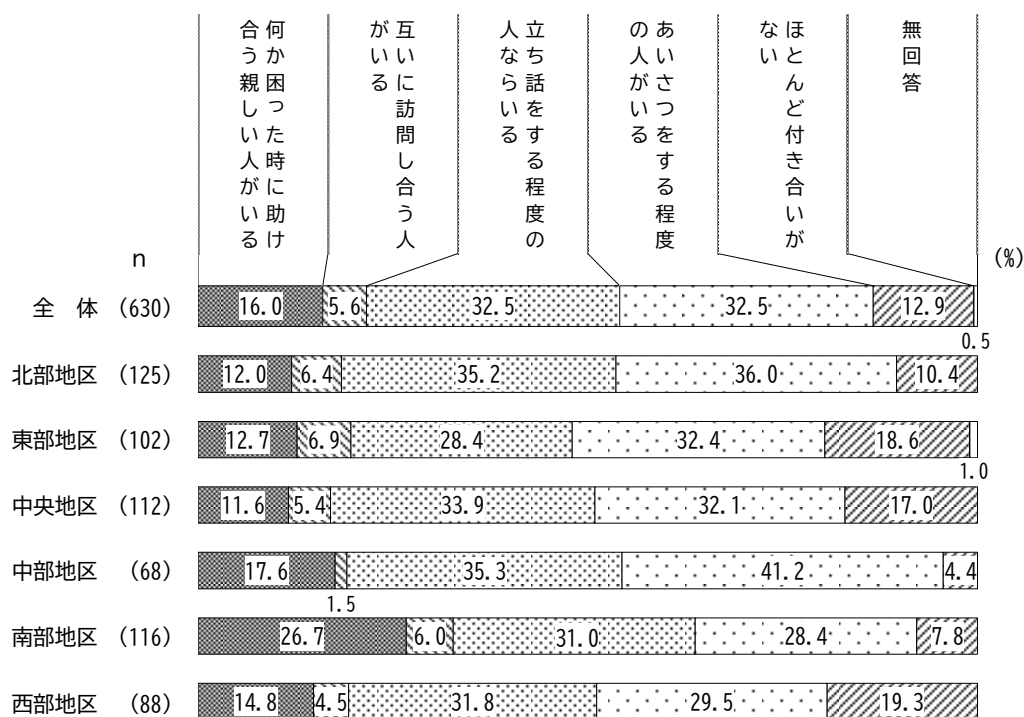
となり近所との付き合いの程度について聞いたところ、「立ち話をする程度の人ならいる」と「あいさつをする程度の人がある」がともに32.5%で最も高かった。以下、「何か困った時に助ける人がある」(16.0%)、「ほとんど付き合いがない」(12.9%)の順になっている。

図1-4-2 普段のとなり近所との関わり 年齢別



年齢別でみると、「あいさつをする程度の人がいる」については20～29歳（57.1%）が全体に比べて高くなっている。また、「立ち話をする程度の人がいる」については75歳以上（45.9%）と65～74歳（45.3%）、「ほとんど付き合いがない」については20～29歳と30～39歳ともに（23.8%）、40～49歳（20.9%）が高くなっている。

図1-4-3 普段のとなり近所との関わり 地区別

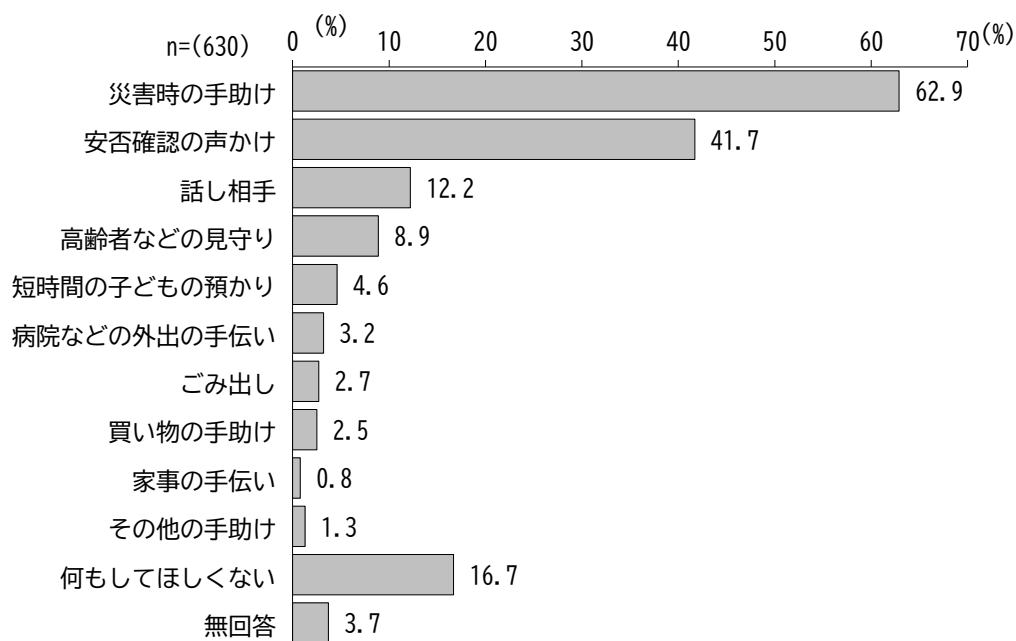


地区別でみると、「あいさつをする程度の人がいる」については中部地区（41.2%）が全体に比べて高くなっている。また、「何か困った時に助け合う親しい人がいる」については南部地区（26.7%）が高くなっている。

(5) とおり近所の人に手助けしてほしいこと

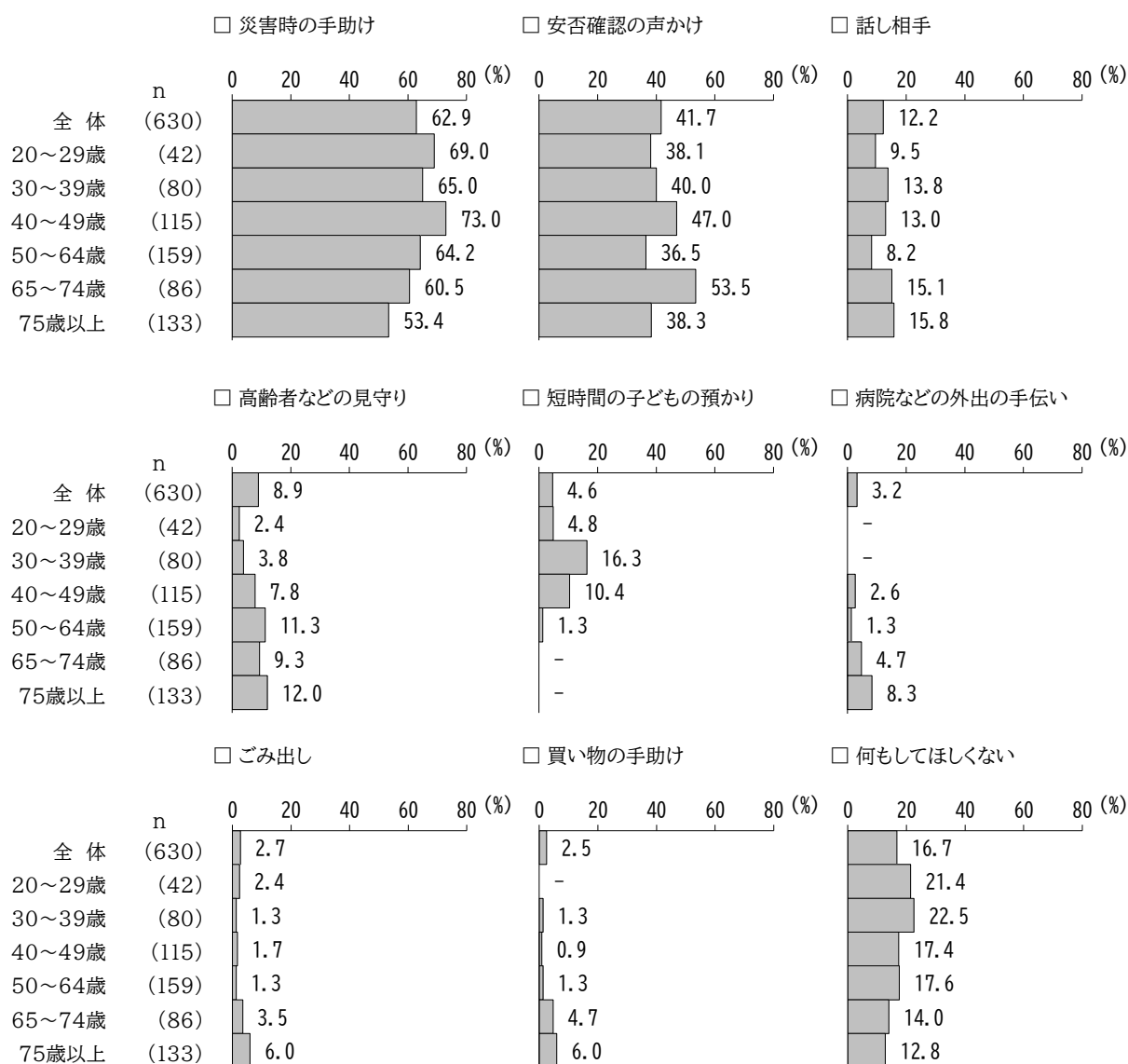
問5 あなたは、とおり近所の人に手助けしてもらおうとしたら、どんなことをしてほしいですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図1-5-1 とおり近所の人に手助けしてほしいこと 全体



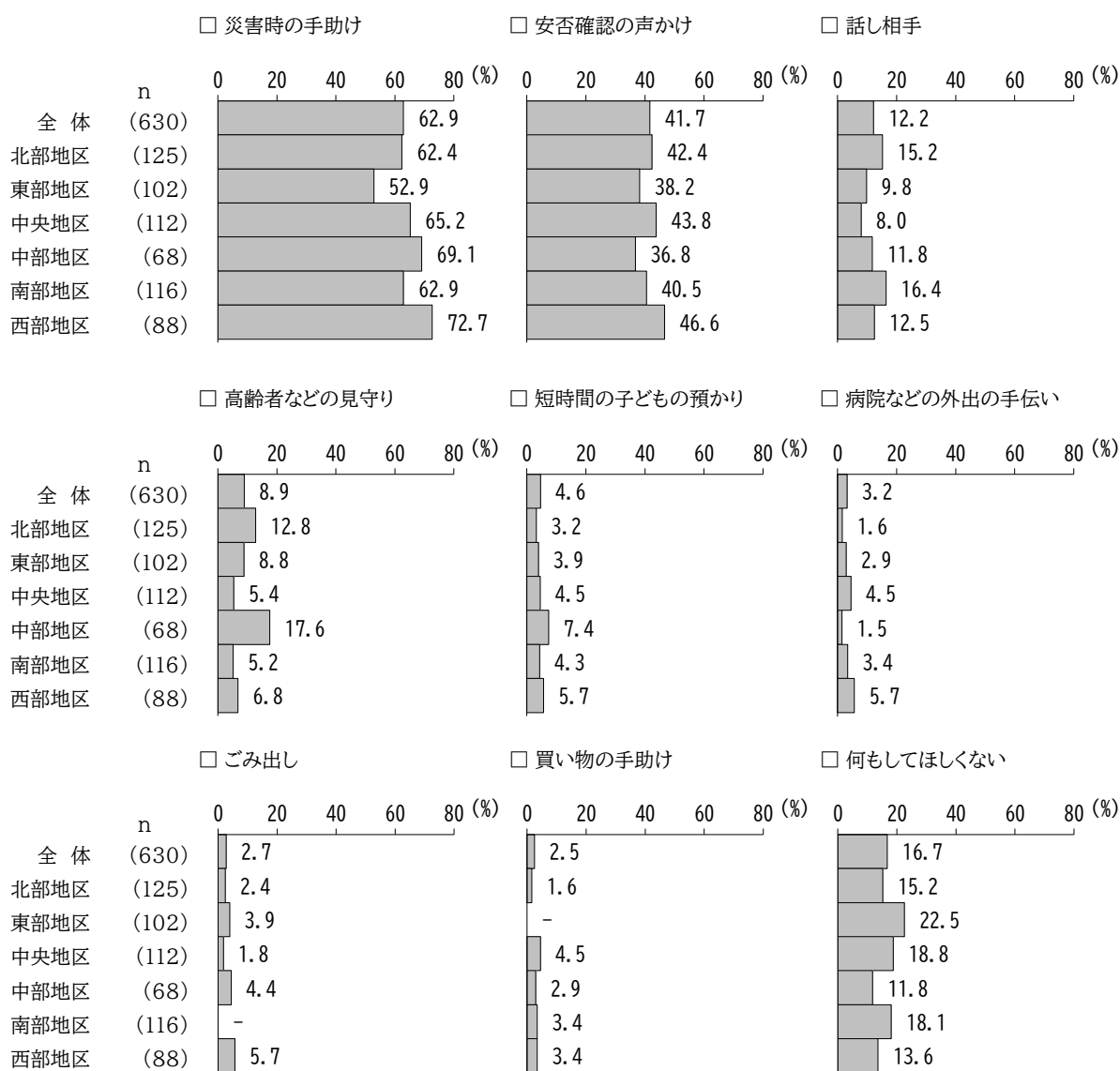
近所付き合いとして、してほしいことについて聞いたところ、「災害時の手助け」が62.9%で最も高かった。以下、「安否確認の声かけ」(41.7%)、「話し相手」(12.2%)の順になっている。

図1-5-2 となり近所の人に手助けしてほしいこと 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「災害時の手助け」については40~49歳（73.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「安否確認の声掛け」については65~74歳（53.5%）、「話し相手」については75歳以上（15.8%）と65~74歳（15.1%）、「高齢者などの見守り」については75歳以上（12.0%）、「短時間の子どもの預かり」については30~39歳（16.3%）が高くなっている。

図1-5-3 となり近所の人に手助けしてほしいこと 地区別(上位9項目)

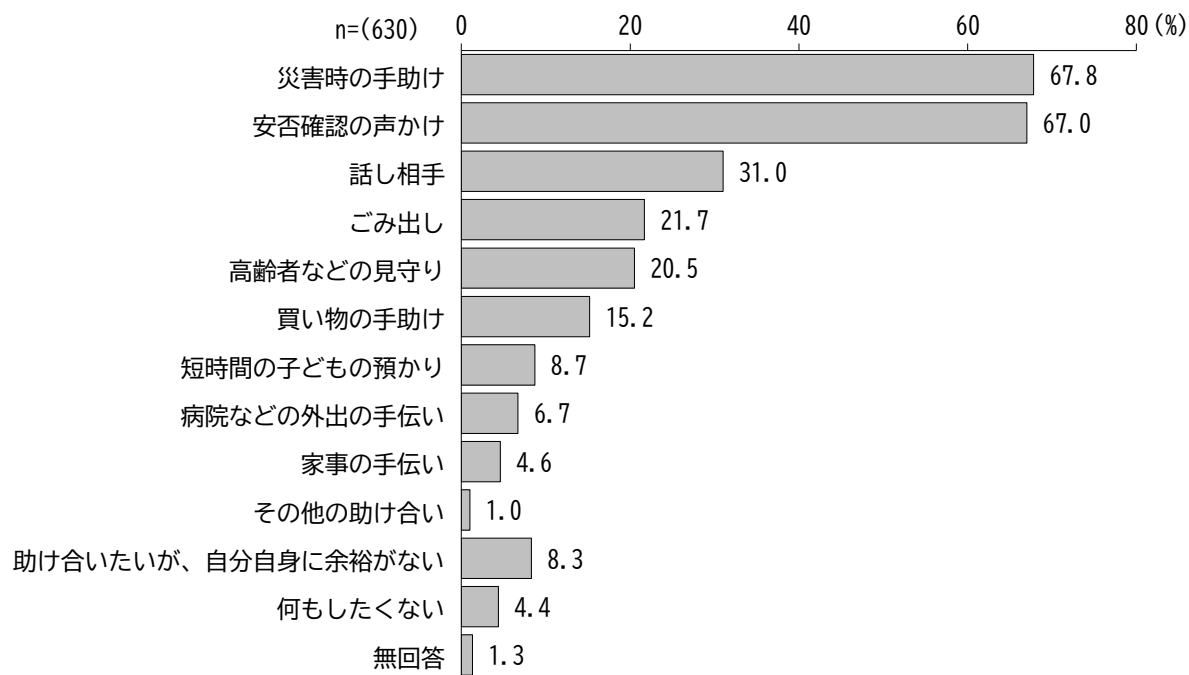


地区別でみると、「災害時の手助け」については西部地区（72.7%）が全体に比べて高くなっている。また、「安否確認の声掛け」については西部地区（46.6%）、「話し相手」については南部地区（16.4%）、「高齢者などの見守り」については中部地区（17.6%）、「何もしてほしくない」については東部地区（22.5%）が高くなっている。

(6) となり近所の助け合いとしてできると思うこと

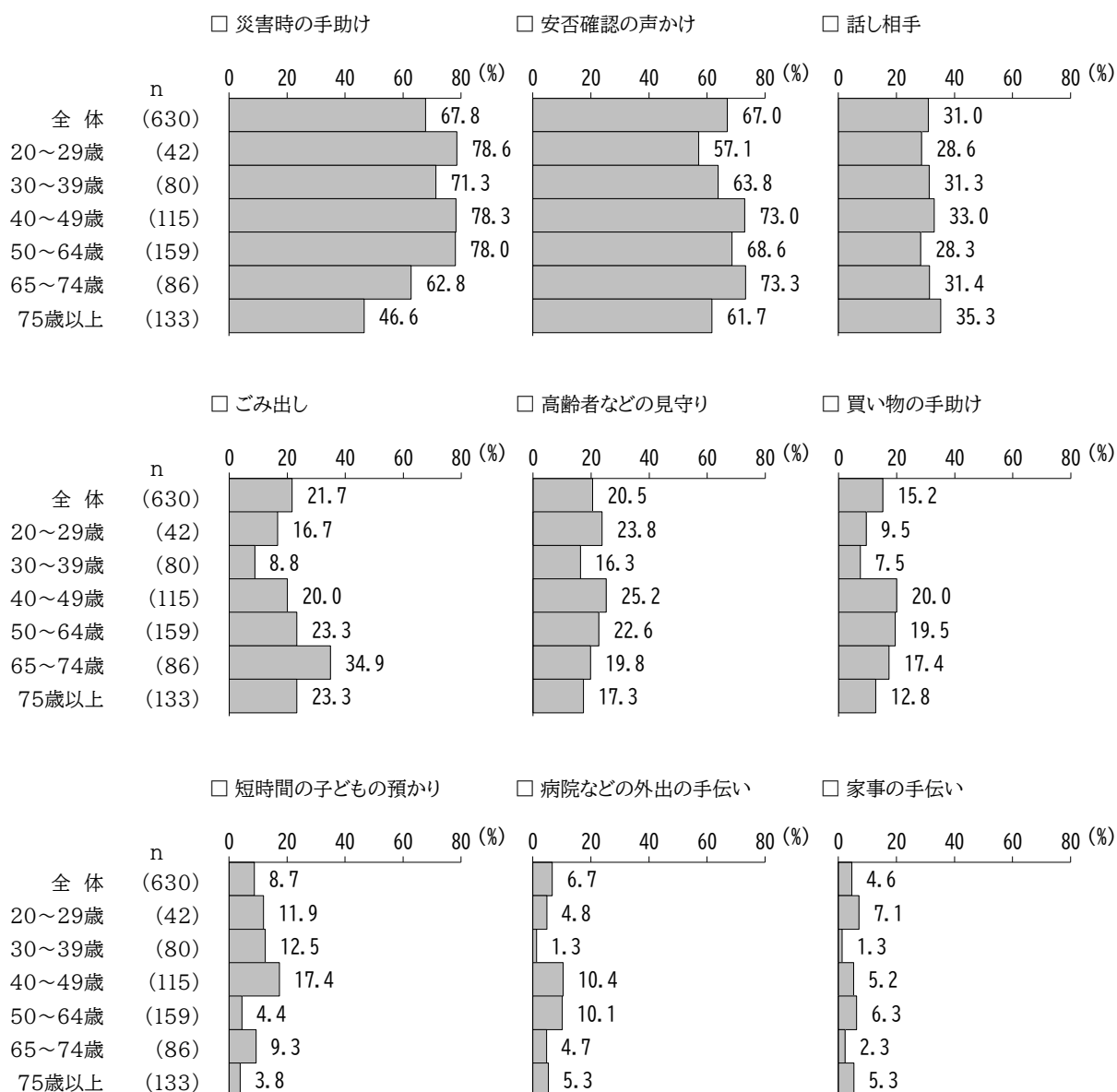
問6 あなたは、となり近所の助け合いとして、何ができると思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図1-6-1 となり近所の助け合いとしてできると思うこと 全体



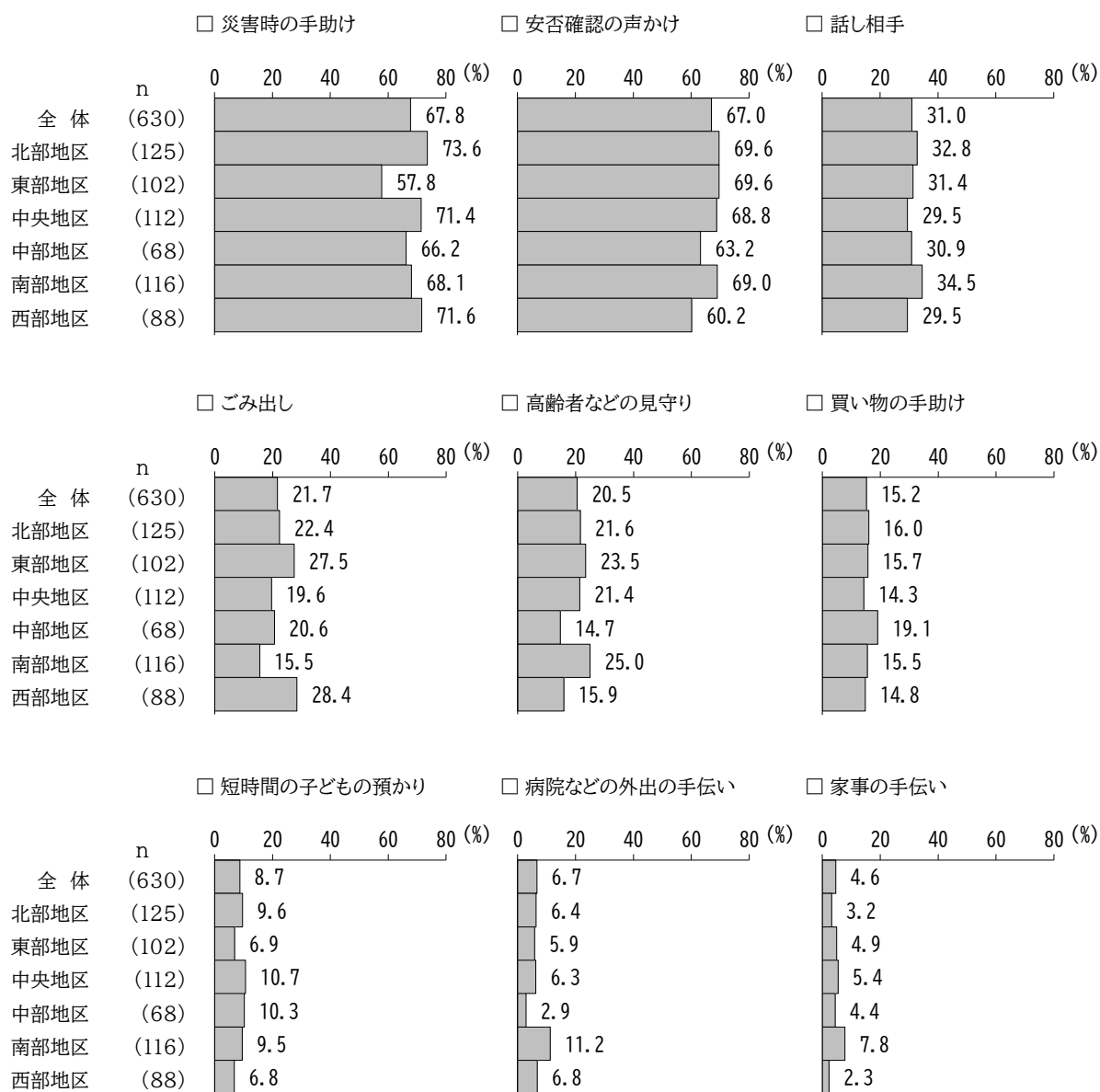
近所付き合いとしてできると思うことについて聞いたところ、「災害時の手助け」が67.8%、「安否確認の声かけ」が67.0%で特に高かった。以下、「話し相手」(31.0%)、「ごみ出し」(21.7%)の順になっている。

図1-6-2 となり近所の助け合いとしてできると思うこと 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、各年齢において「災害時の手助け」については20～29歳（78.6%）、40～49歳（78.3%）、50～64歳（78.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「安否確認の声かけ」については65～74歳（73.3%）と40～49歳（73.0%）、「話し相手」については75歳以上（35.3%）、「ごみ出し」については65～74歳（34.9%）、「高齢者などの見守り」については40～49歳（25.2%）、「買い物の手助け」については40～49歳（20.0%）が高くなっている。

図1-6-3 となり近所の助け合いとしてできると思うこと 地区別(上位9項目)

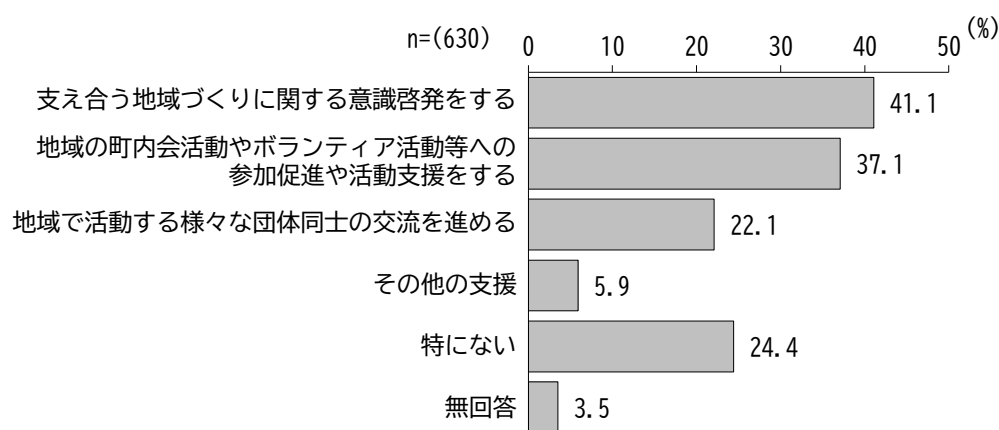


地区別でみると、各地区において「災害時の手助け」については北部地区（73.6%）、西部地区（71.6%）、中央地区（71.4%）が全体に比べて高くなっている。また、「話し相手」については南部地区（34.5%）、「ごみ出し」については西部地区（28.4%）、東部地区（27.5%）、「高齢者などの見守り」については南部地区（25.0%）、「買い物の手助け」については中部地区（19.1%）が高くなっている。

(7) 近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援

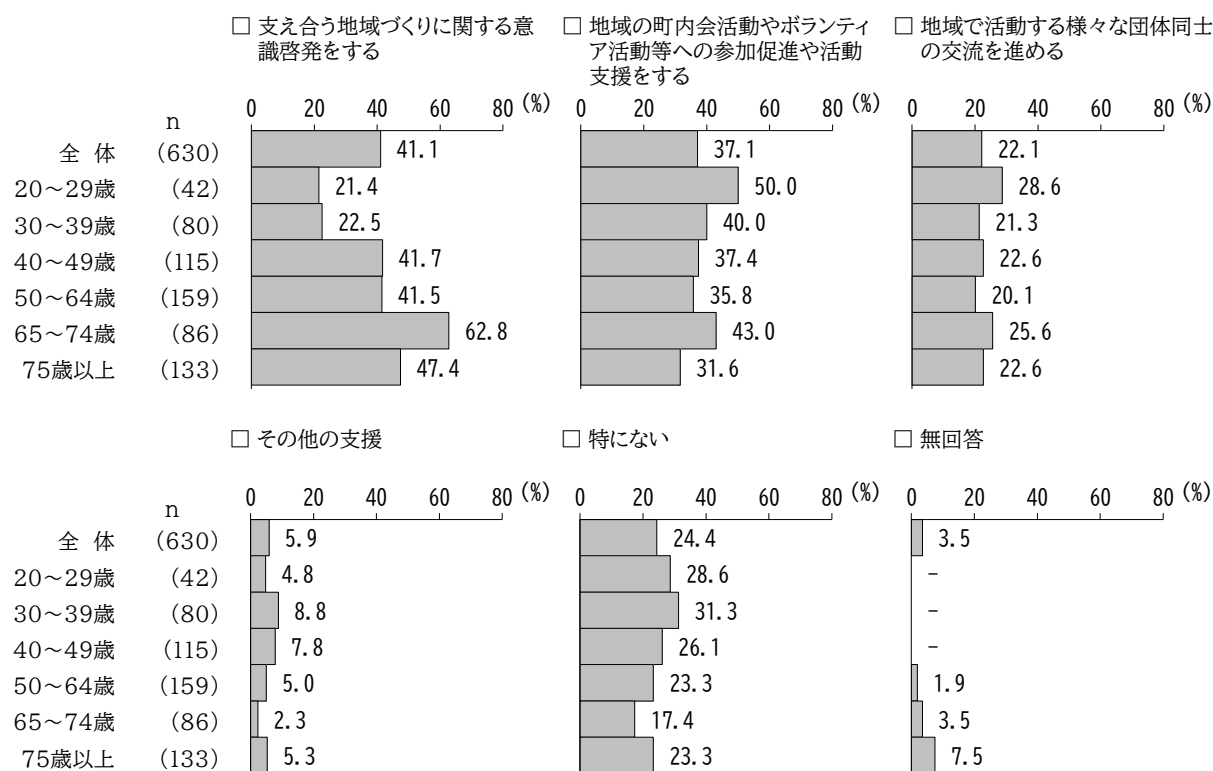
問7 近隣住民同士がともに支え合う地域づくりのために、市としてはどのような支援を行う必要があると思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図1-7-1 近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援 全体



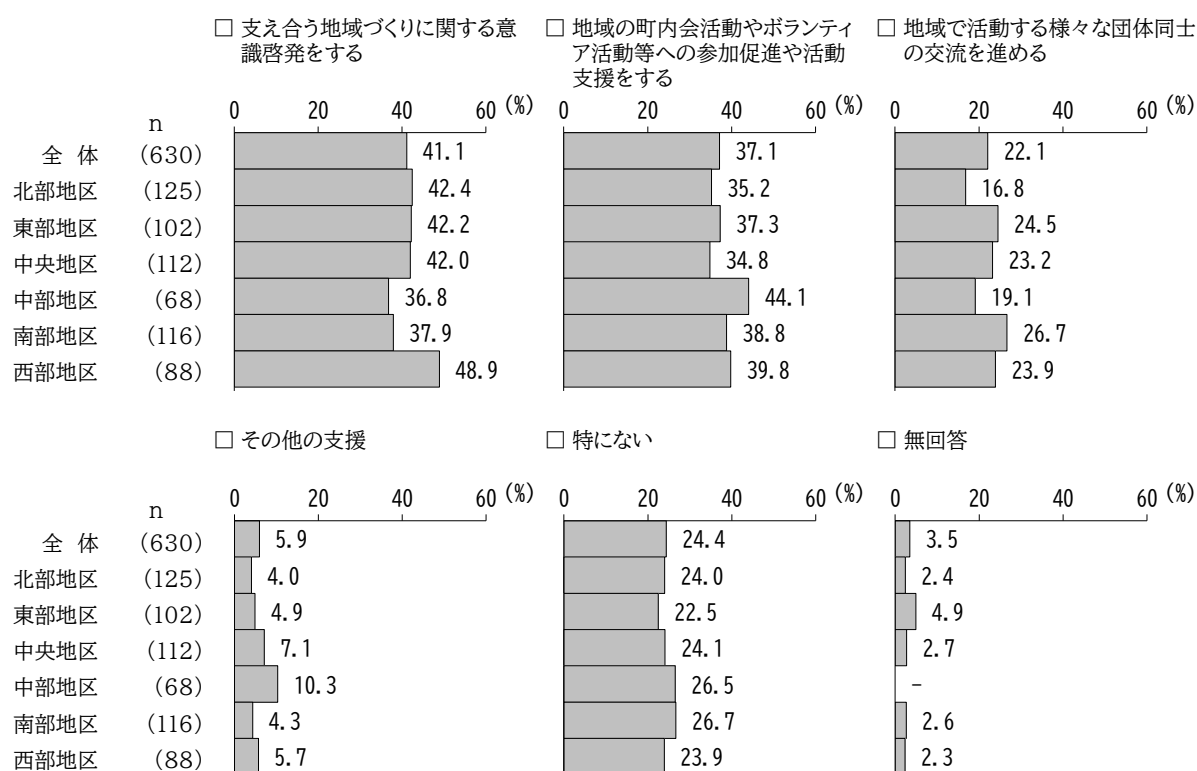
近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援について聞いたところ、「支え合う地域づくりに関する意識啓発をする」が41.1%で特に高かった。以下、「地域の町内会活動やボランティア活動等への参加促進や活動支援をする」(37.1%)、「地域で活動する様々な団体同士の交流を進める」(22.1%)の順になっている。

図1-7-2 近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援 年齢別



年齢別でみると、「支え合う地域づくりに関する意識啓発をする」については65～74歳（62.8％）が全体に比べて高くなっている。また、「地域の町内会活動やボランティア活動等への参加促進や活動支援をする」については20～29歳（50.0％）、65～74歳（43.0％）、「地域で活動する様々な団体同士の交流を進める」については20～29歳（28.6％）と65～74歳（25.6％）が高くなっている。

図1-7-3 近隣住民同士が支え合う地域づくりに必要だと思う市の支援 地区別

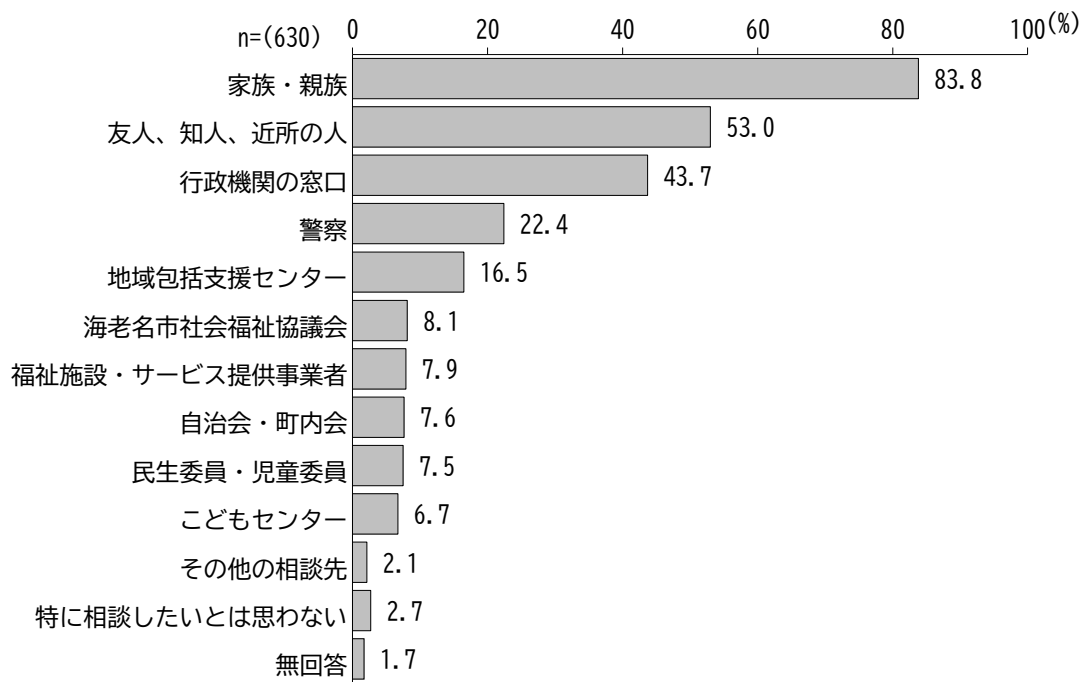


地区別でみると、「支え合う地域づくりに関する意識啓発をする」については西部地区（48.9%）が全体に比べて高くなっている。また、「地域の町内会活動やボランティア活動等への参加促進や活動支援をする」については中部地区（44.1%）、「地域で活動する様々な団体同士の交流を進める」については南部地区（26.7%）が高くなっている。

(8) 悩みごとの相談先

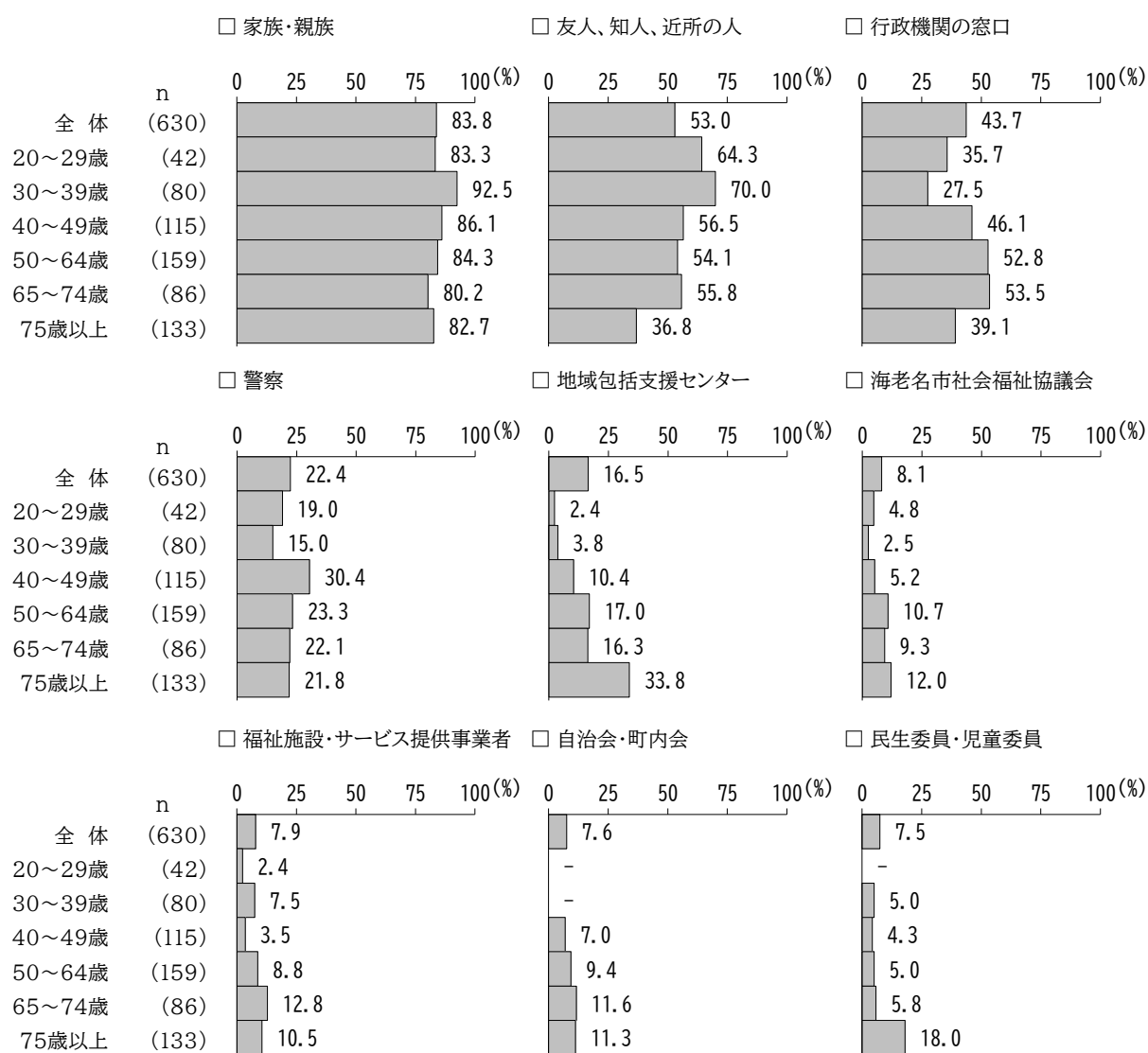
問8 あなたは、くらしの中で困りごとや悩みごとが生じた場合、誰に（どこに）相談したいと思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図1-8-1 悩みごとの相談先 全体



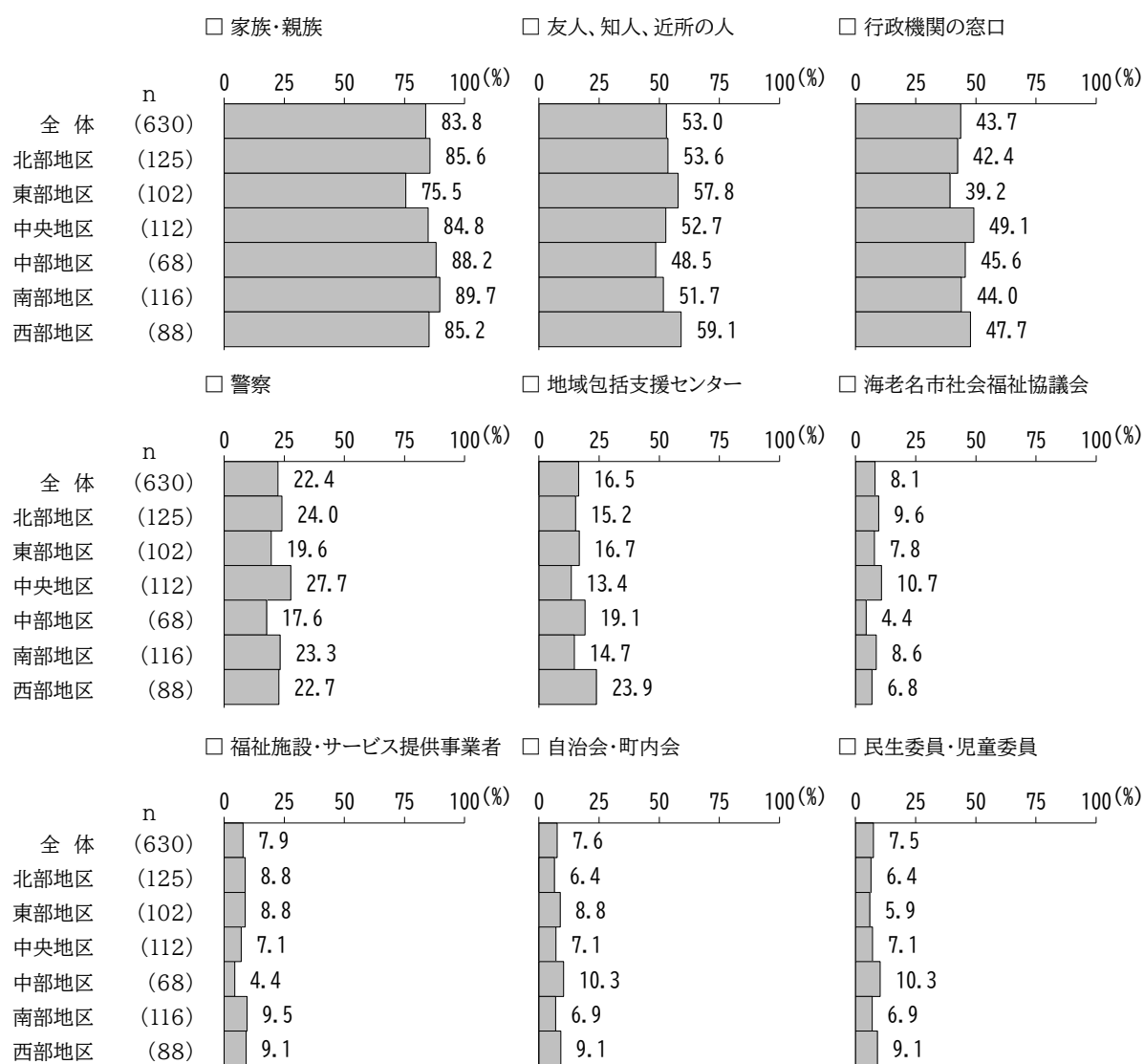
暮らしの中の困り事や悩みごとの相談先について聞いたところ、「家族・親族」が83.8%で最も高かった。以下、「友人、知人、近所の人」(53.0%)、「行政機関の窓口」(43.7%)の順になっている。

図1-8-2 悩みごとの相談先 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「家族・親族」については30～39歳（62.5%）が全体に比べて高くなっている。また、「友人、知人、近所の人」については30～39歳（70.0%）、「行政機関の窓口」については65～74歳（53.5%）と50～64歳（52.8%）、「警察」については40～49歳（30.0%）、「地域包括支援センター」については75歳以上（33.8%）が高くなっている。

図1-8-3 悩みごとの相談先 地区別(上位9項目)



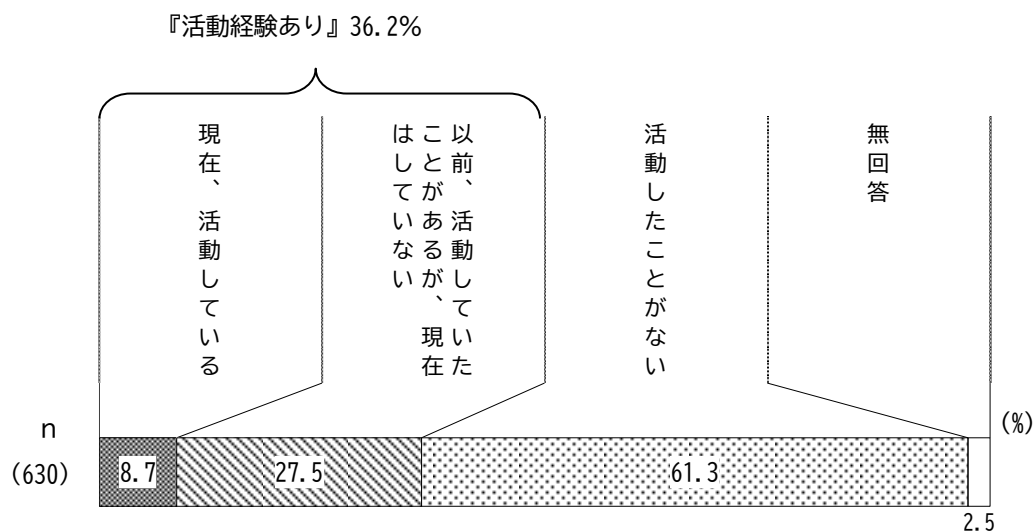
地区別でみると、「家族・親族」については南部地区（89.7%）、中部地区（88.2%）が全体に比べて高くなっている。また、「友人、知人、近所の人」については西部地区（59.1%）、「行政機関の窓口」については中央地区（49.1%）と西部地区（47.7%）、「警察」については中央地区（27.7%）、「地域包括支援センター」については西部地区（23.9%）が高くなっている。

2. 地域での暮らし・つながりについて

(1) ボランティア・市民活動をした経験

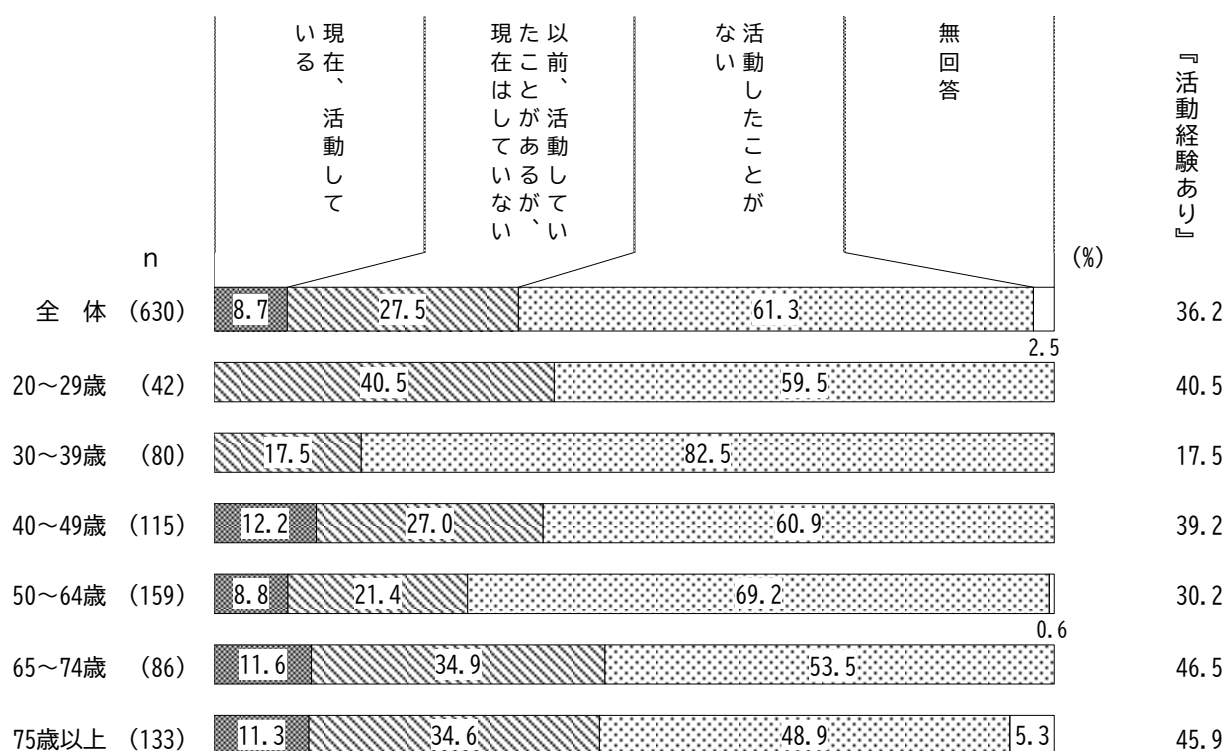
問9 あなたは、これまでにボランティア・市民活動をしたことがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図2-1-1 ボランティア・市民活動をした経験 全体



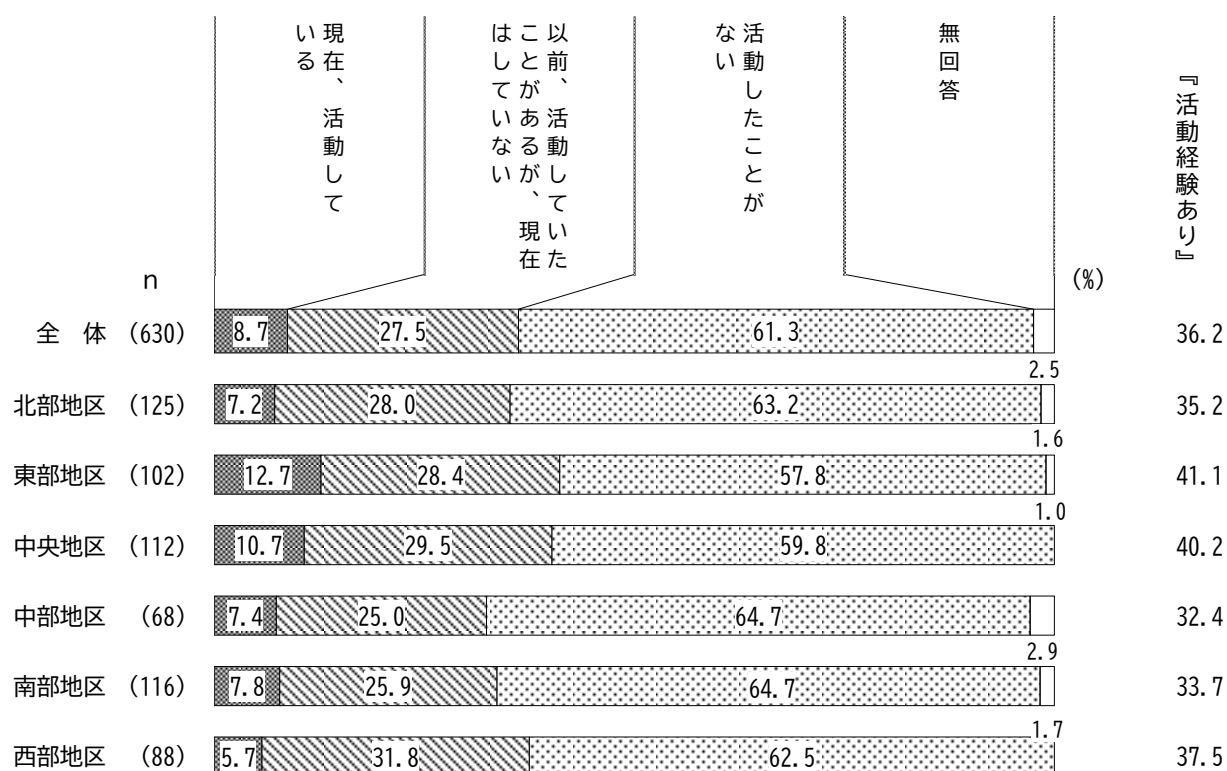
ボランティア・市民活動経験の有無について聞いたところ、「現在、活動している」(8.7%)と「以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」(27.5%)を合わせた『活動経験あり』が36.2%であった。一方、「活動したことがない」は61.3%を占めている。

図2-1-2 ボランティア・市民活動をした経験 年齢別



年齢別でみると、『活動経験あり』については65～74歳（46.5%）と75歳以上（45.9%）が全体に比べて高くなっている。

図2-1-3 ボランティア・市民活動をした経験 地区別

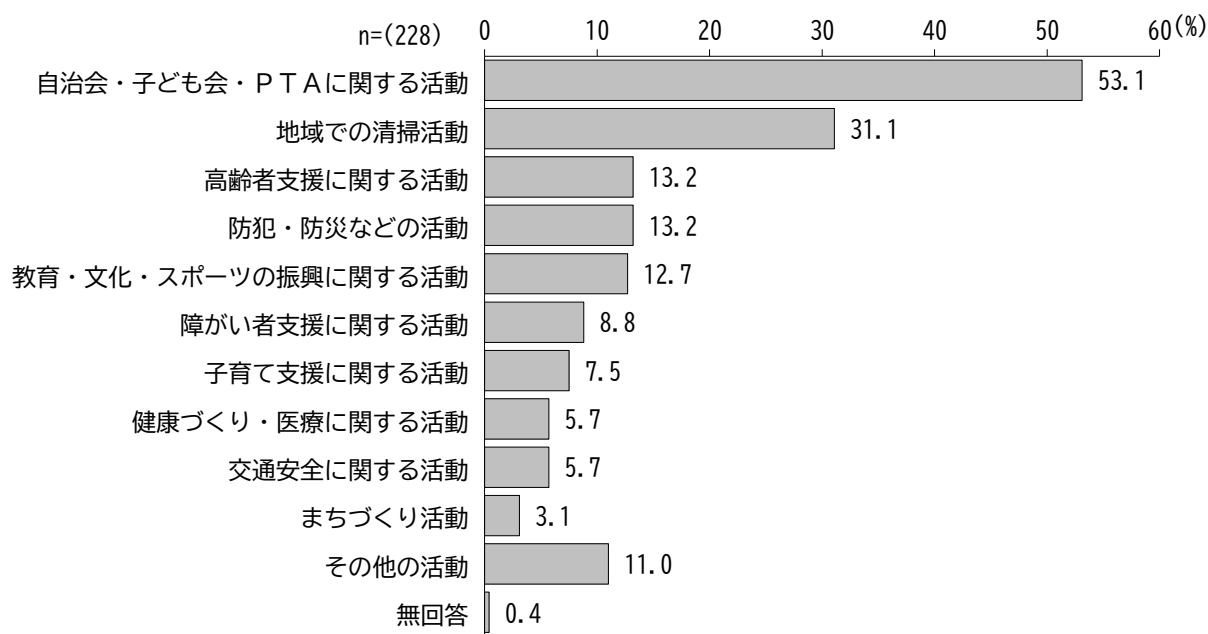


地区別でみると、『活動経験あり』については東部地区（41.1%）と中央地区（40.2%）が全体に比べて高くなっている。

(2) ボランティア・市民活動の活動内容

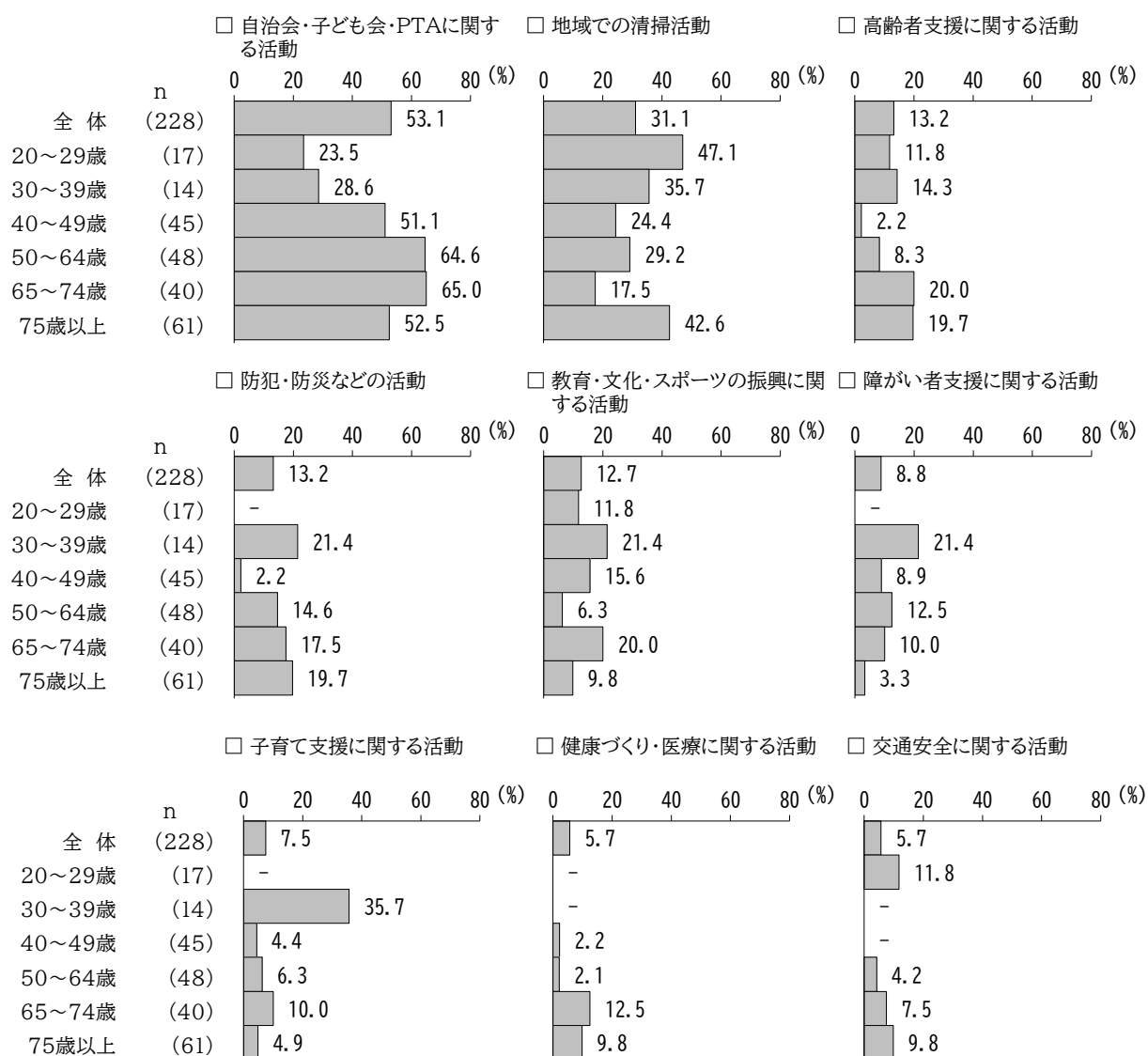
問10 どのような活動をしていますか。(していましたか)。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図2-2-1 ボランティア・市民活動の活動内容 全体



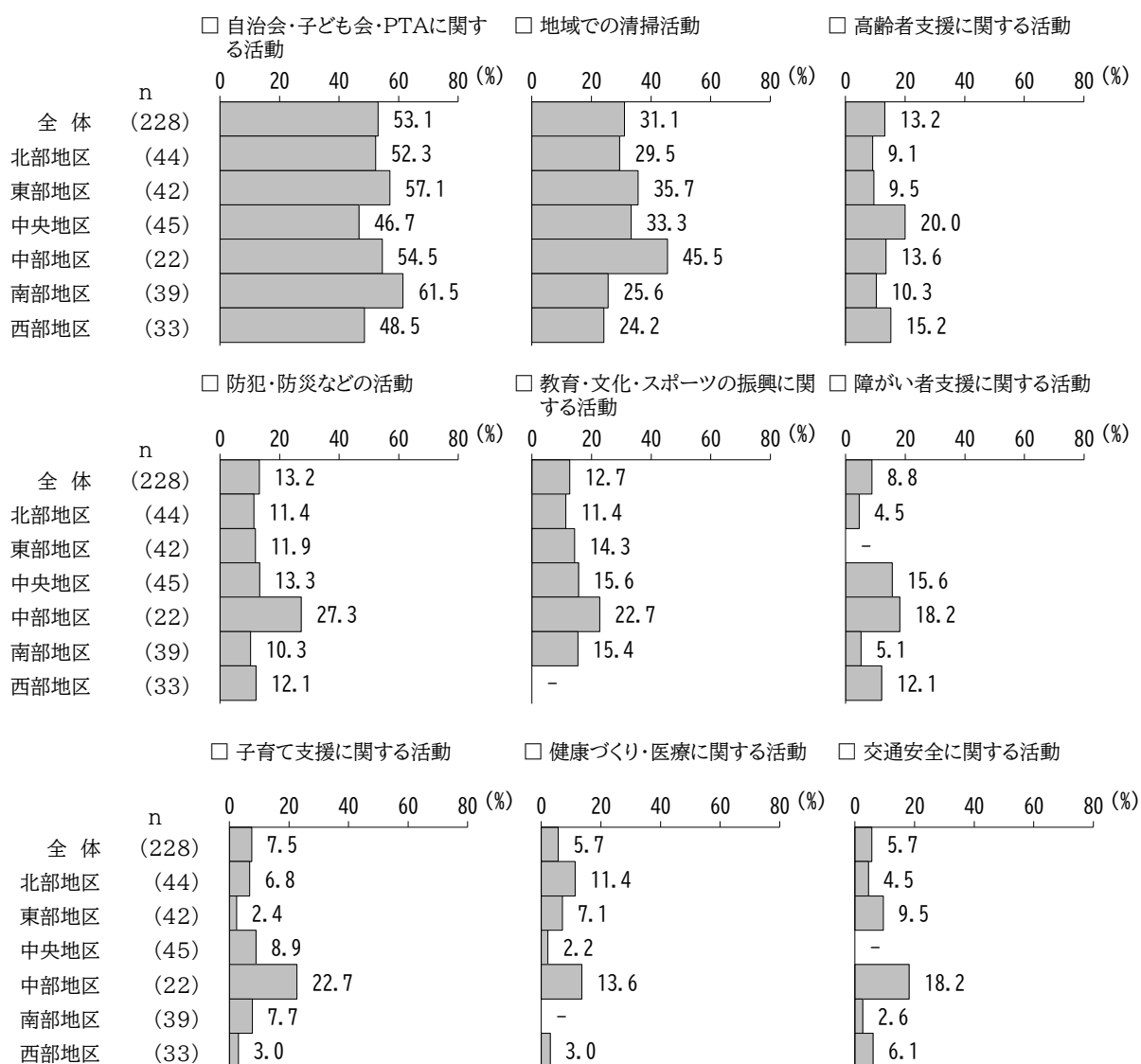
参加したボランティア・市民活動の内容について聞いたところ、「自治会・子ども会・PTAに関する活動」が53.1%で最も高かった。以下、「地域での清掃活動」(31.1%)、「高齢者支援に関する活動」と「防犯・防災などの活動」がともに(13.2%)の順になっている。

図2-2-2 ボランティア・市民活動の活動内容 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「子育て支援に関する活動」については30~39歳（35.7%）が全体に比べて高くなっている。また、「高齢者支援に関する活動」については65~74歳（20.0%）と75歳以上（19.7%）が高くなっている。

図2-2-3 ボランティア・市民活動の活動内容 地区別(上位9項目)



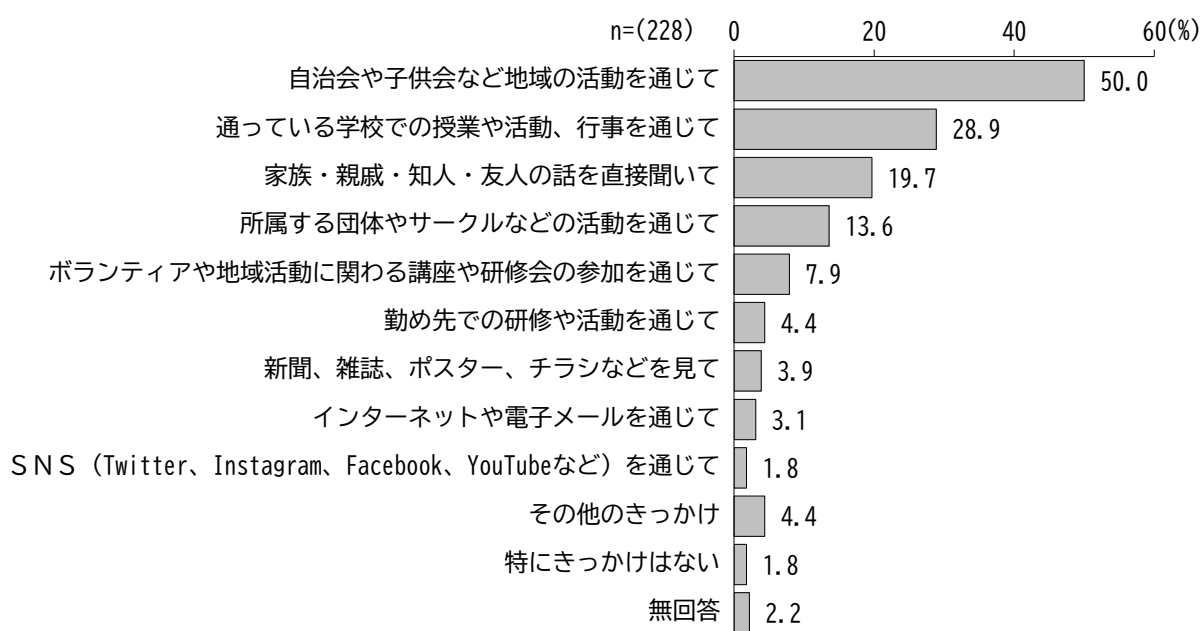
地区別でみると、「自治会・子ども会・PTAに関する活動」については南部地区（61.5%）が全体に比べて高くなっている。また、「高齢者支援に関する活動」については中央地区（20.0%）、「障がい者支援に関する活動」については中部地区（18.2%）が高くなっている。

(3) ボランティア・市民活動のきっかけ

問9で「1. 現在、活動している」、「2. 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方はお答えください。

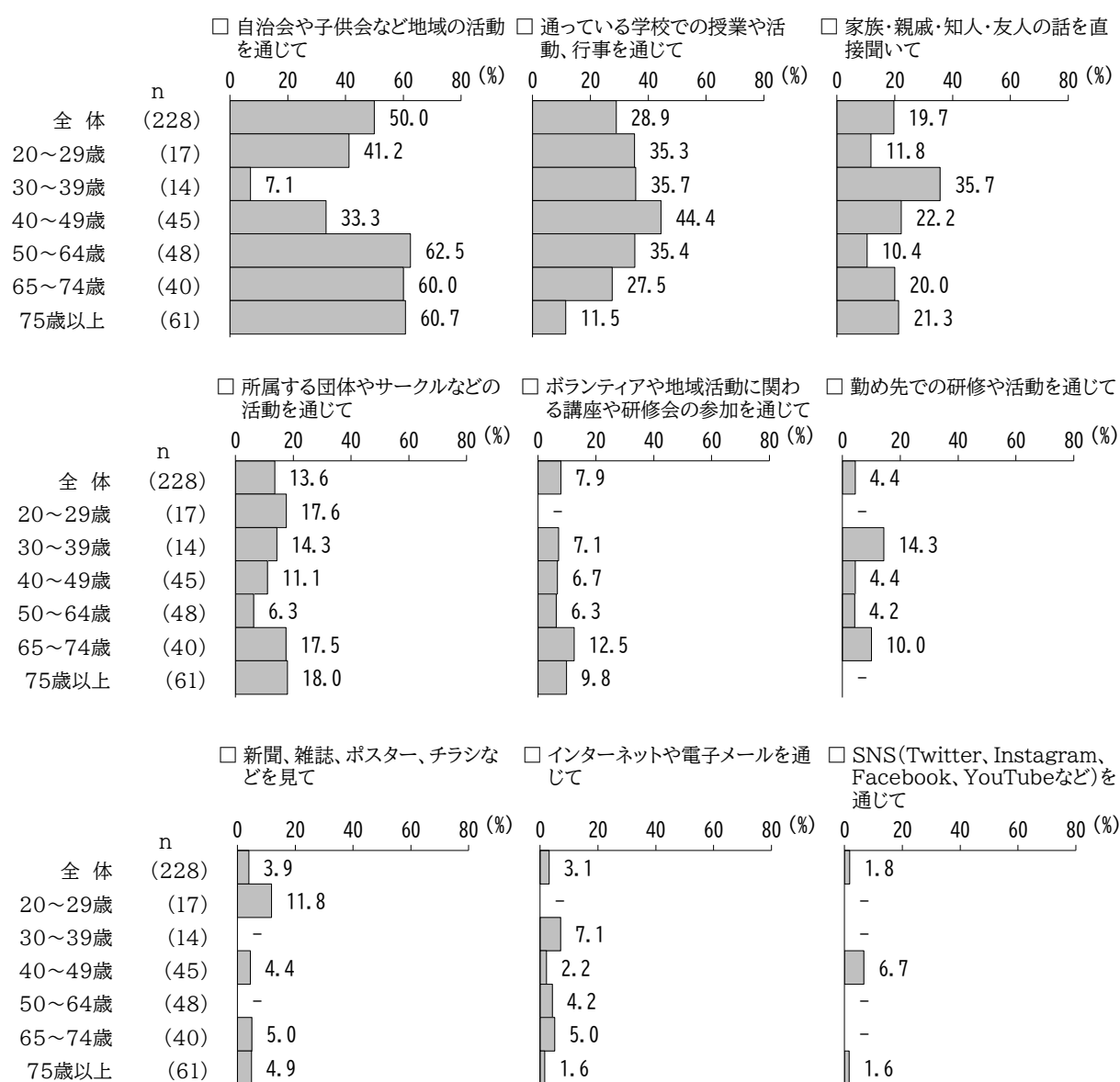
問11 活動のきっかけはなんですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図2-3-1 ボランティア・市民活動のきっかけ 全体



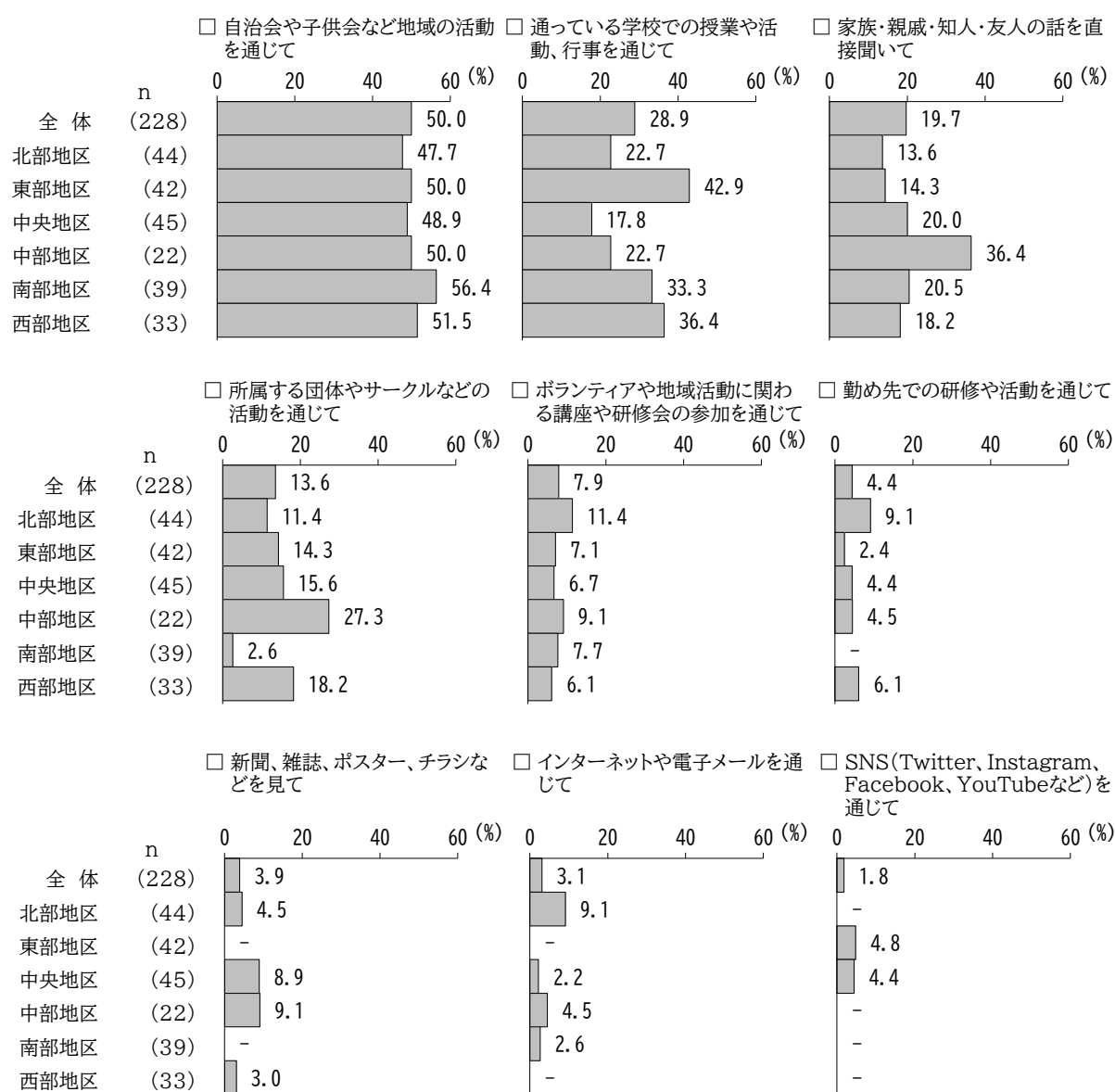
ボランティア・市民活動に参加したきっかけについては、「自治会や子供会など地域の活動を通じて」が50.0%で最も高かった。以下、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」(28.9%)、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」(19.7%)の順になっている。

図2-3-2 ボランティア・市民活動のきっかけ 年齢別(上位9項目)



年齢別にみると、「自治会や子供会など地域の活動を通じて」については50～64歳（62.5%）、75歳以上（60.7%）、65～74歳（60.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」については40～49歳（44.4%）が高くなっている。

図2-3-3 ボランティア・市民活動のきっかけ 地区別(上位9項目)

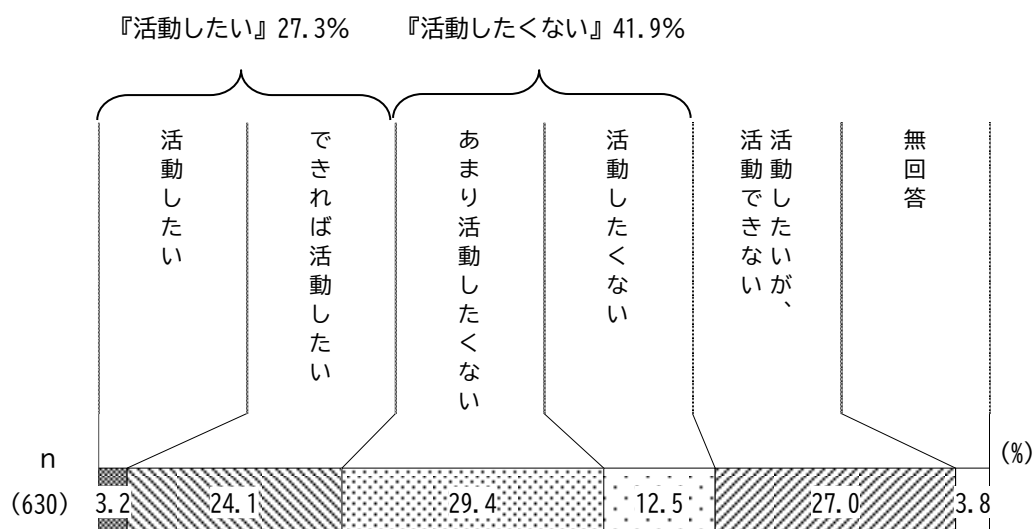


地区別にみると、「自治会や子供会など地域の活動を通じて」については南部地区（56.4％）が全体に比べて高くなっている。また、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」については東部地区（42.9％）、西部地区（36.4％）、南部地区（33.3％）、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」については中部地区（36.4％）、「所属する団体やサークルなどの活動を通じて」については中部地区（27.3％）が高くなっている。

(4) ボランティア・市民活動への参加意向

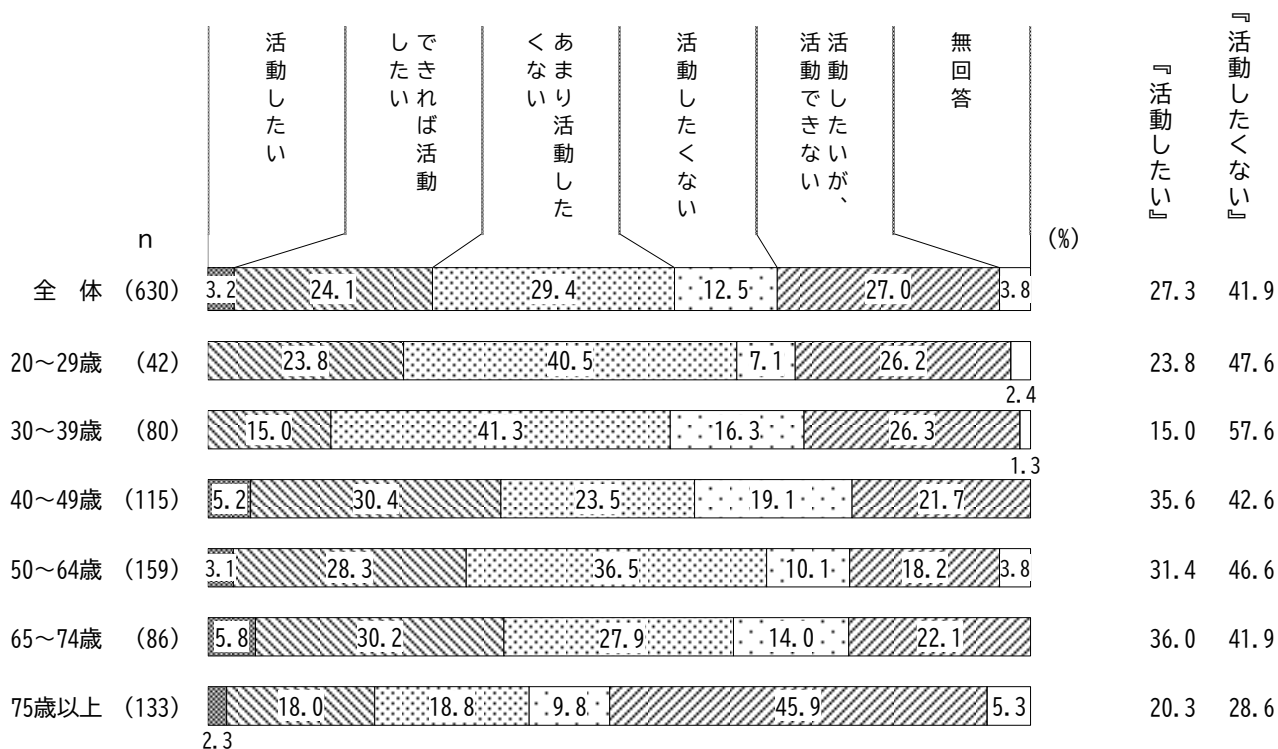
問12 あなたは、今後ボランティア・市民活動に参加したい、あるいは続けたいと思いますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図2-4-1 ボランティア・市民活動への参加意向 全体



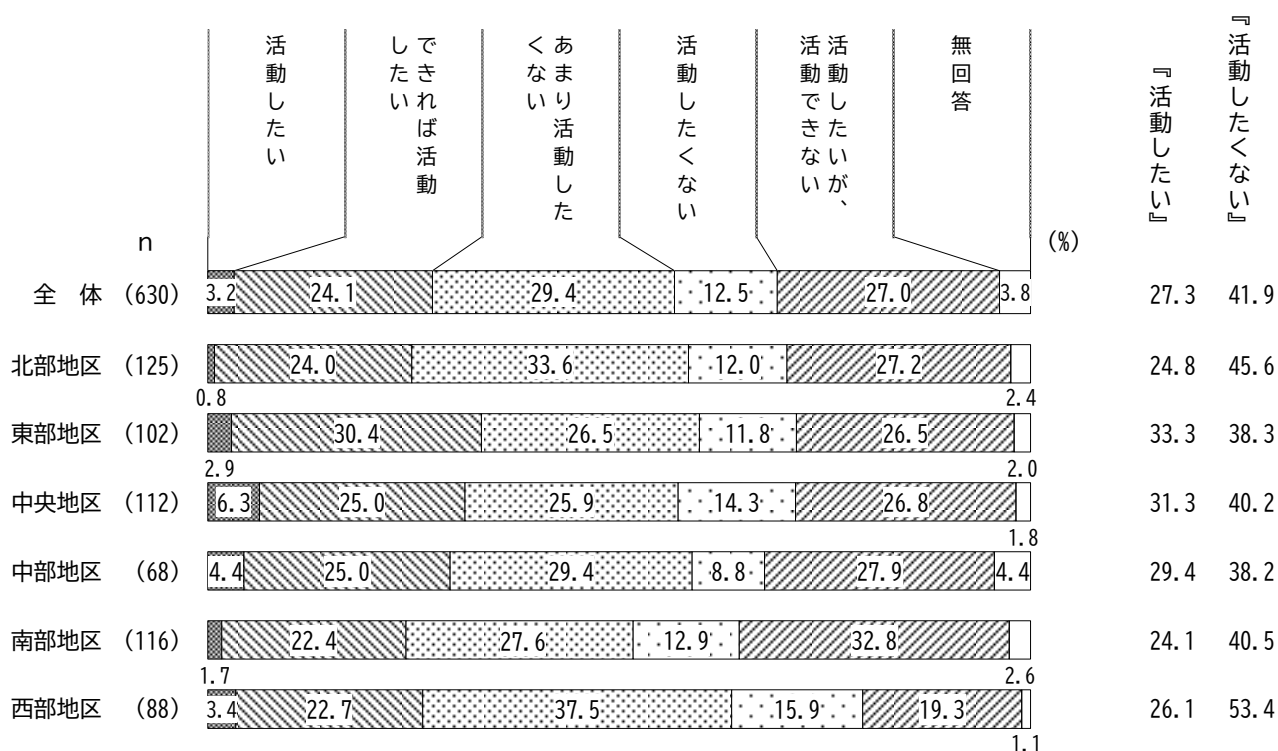
ボランティア・市民活動への今後の参加意向について聞いたところ、「活動したい」(3.2%)と「できれば活動したい」(24.1%)を合わせた『活動したい』は27.3%であった。一方、「あまり活動したくない」(29.4%)と「活動したくない」(12.5%)を合わせた『活動したくない』は41.9%となっている。

図2-4-2 ボランティア・市民活動への参加意向 年齢別



年齢別でみると、『活動したい』については65～74歳（36.0％）が全体に比べて高くなっている。一方で、『活動したくない』については30～39歳（57.6％）が高くなっている。

図2-4-3 ボランティア・市民活動への参加意向 地区別



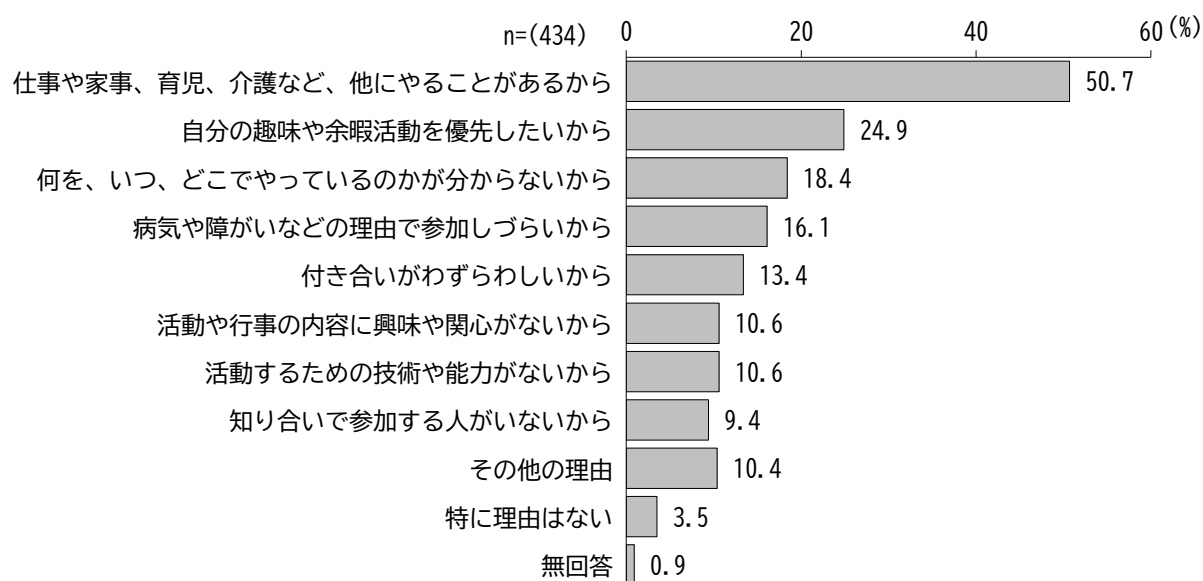
地区別でみると、『活動したい』については東部地区（33.3％）が全体に比べて高くなっている。一方で、『活動したくない』については西部地区（53.4％）が高くなっている。

(5) ボランティア・市民活動をしたくない・できない理由

問12で「3. あまり活動したくない」、「4. 活動したくない」、「5. 活動したいが、活動できない」と回答した方はお答えください。

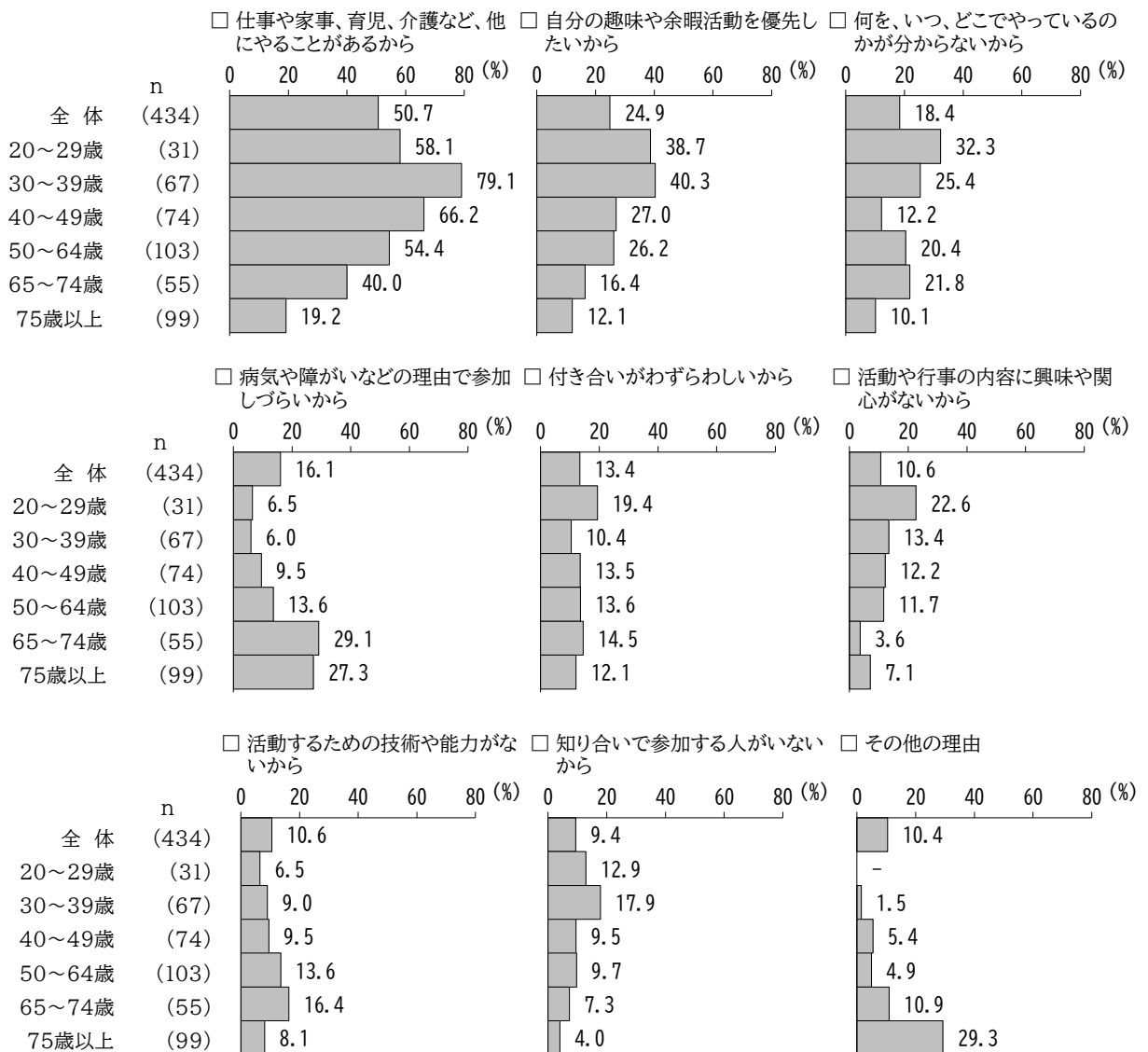
問13 あなたがボランティア・市民活動をしたくない・できない理由は何ですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図2-5-1 ボランティア・市民活動をしたくない・できない理由 全体



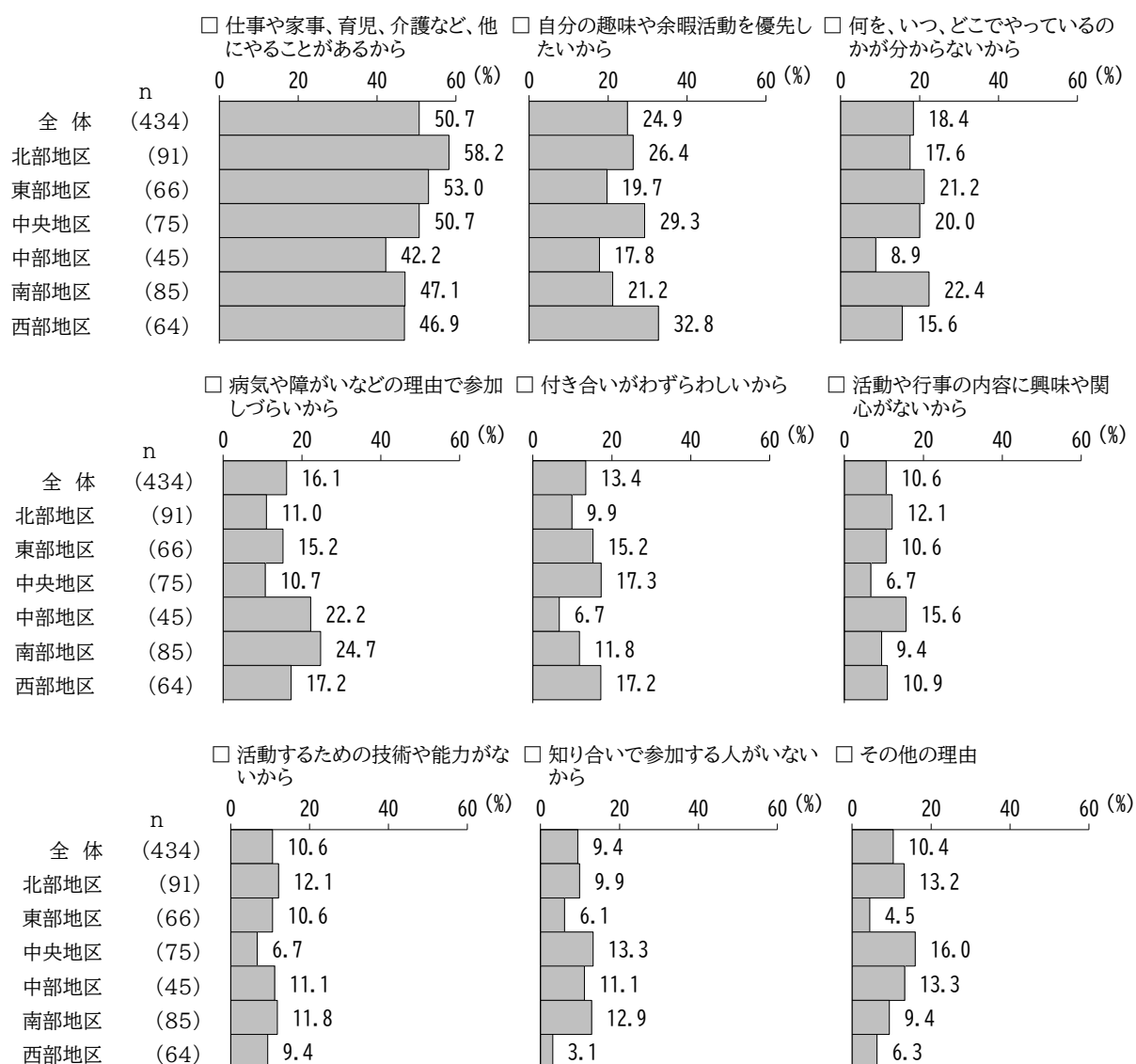
ボランティア、市民活動をしたくない・できない理由について聞いたところ、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」が50.7%で最も高かった。以下、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」(24.9%)、「何を、いつ、どこでやっているのかが分からないから」(18.4%)の順になっている。

図2-5-2 ボランティア・市民活動をしたくない・できない理由 年齢別



年齢別でみると、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」については30～39歳（79.1%）が全体に比べて高くなっている。また、「自分の趣味や余暇活動を優先したから」については30～39歳（40.3%）、「何を、いつ、どこでやっているのかが分からないから」については20～29歳（32.3%）、「病気や障がいなどの理由で参加しづらいから」については65～74歳（29.1%）と75歳以上（27.3%）、「付き合いがわずらわしいから」については20～29歳（19.4%）、「活動や行事の内容に興味や関心がないから」については20～29歳（22.6%）で高くなっている。

図2-5-3 ボランティア・市民活動をしたくない・できない理由 地区別



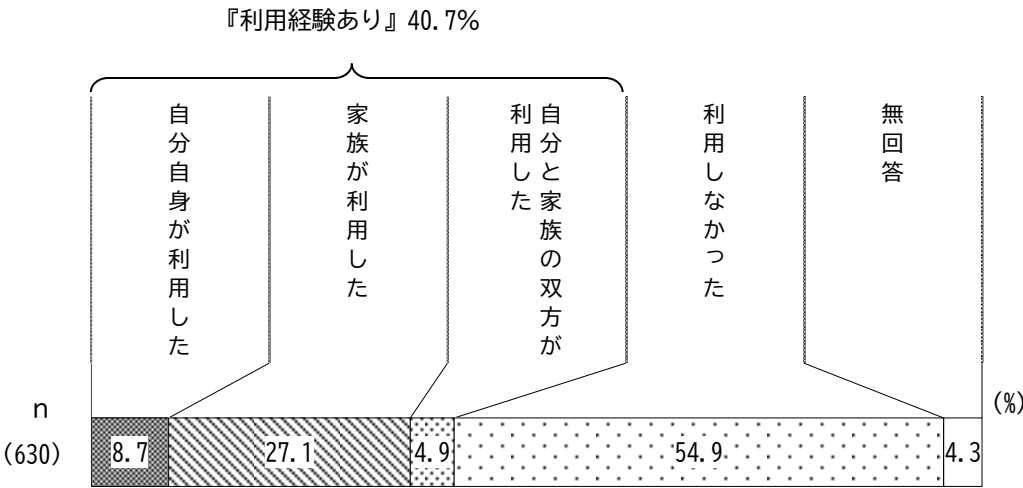
地区別でみると、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」については北部地区（58.2%）が全体に比べて高くなっている。また、「自分の趣味や余暇活動を優先したから」については西部地区（32.8%）、中央地区（29.3%）、「何を、いつ、どこでやっているのかが分からないから」については南部地区（22.4%）、「病気や障がいなどの理由で参加しづらいから」については南部地区（24.7%）と中部地区（22.2%）、「付き合いがわずらわしいから」については中央地区（17.3%）と西部地区（17.2%）、「活動や行事の内容に興味や関心がないから」については中部地区（15.6%）で高くなっている。

3. 福祉サービスについて

(1) これまでに利用したことがある市の福祉サービス

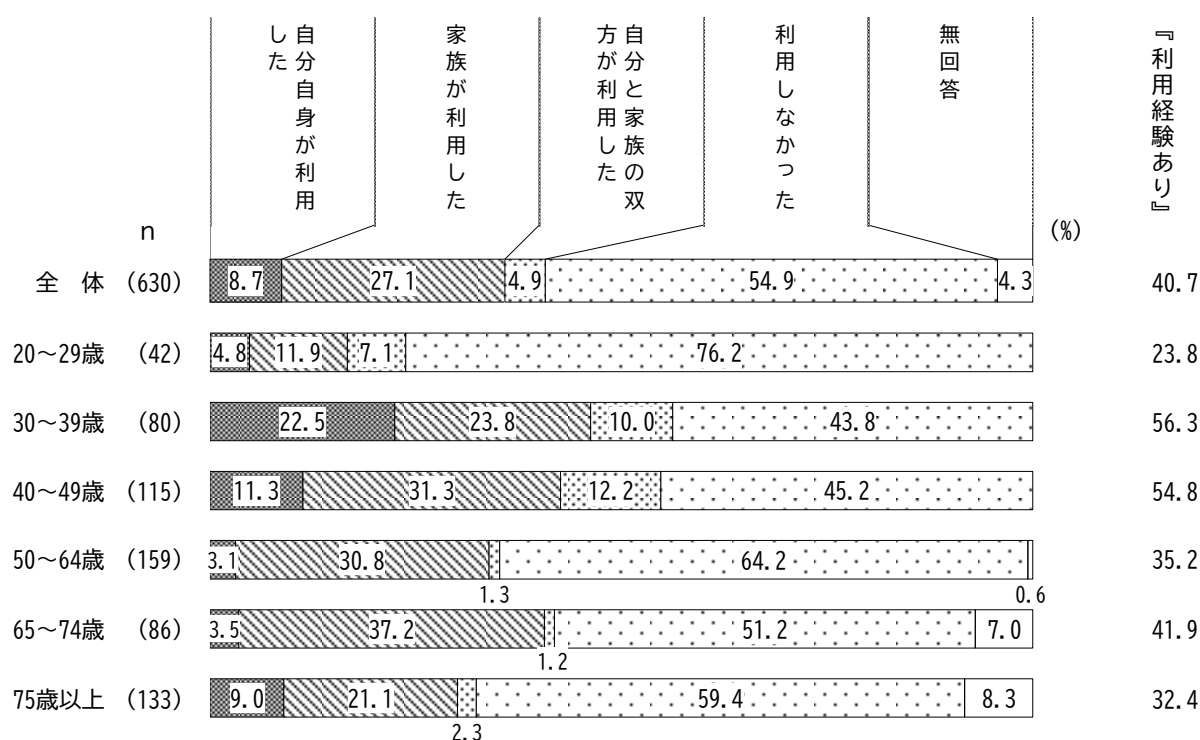
問14 高齢者・障がい者・子育て支援などに関する市の福祉サービス※について、あなたを含め家族の中で、これまでに福祉サービスを利用したことがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図3-1-1 これまでに利用したことがある市の福祉サービス 全体



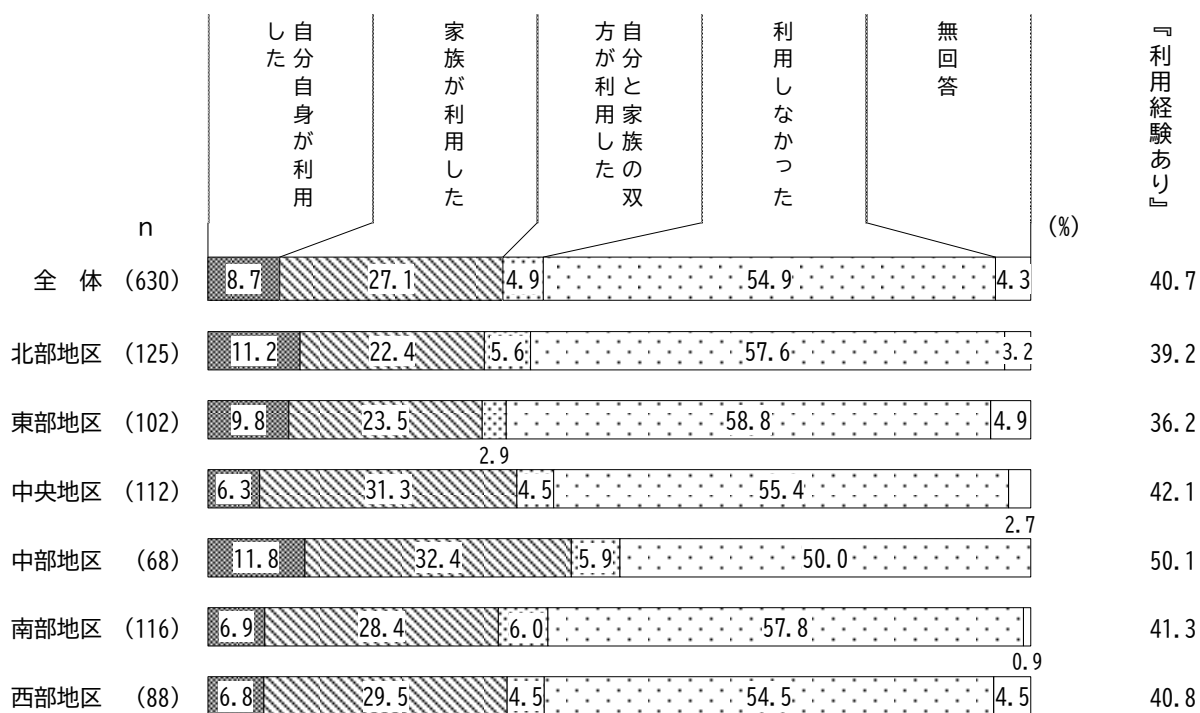
福祉サービス利用経験の有無について聞いたところ、「自分自身が利用した」（8.7％）と「家族が利用した」（27.1％）、「自分と家族の双方が利用した」（4.9％）を合わせた『利用経験あり』は40.7％であった。一方、「利用しなかった」は54.9％となっている。

図3-1-2 これまでに利用したことがある市の福祉サービス 年齢別



年齢別でみると、『利用経験あり』については30～39歳（56.3%）と40～49歳（54.8%）が全体に比べて高くなっている。また、「自分自身が利用した」については30～39歳（22.5%）、「家族が利用した」については65～74歳（37.2%）が高くなっている。

図3-1-3 これまでに利用したことがある市の福祉サービス 地区別



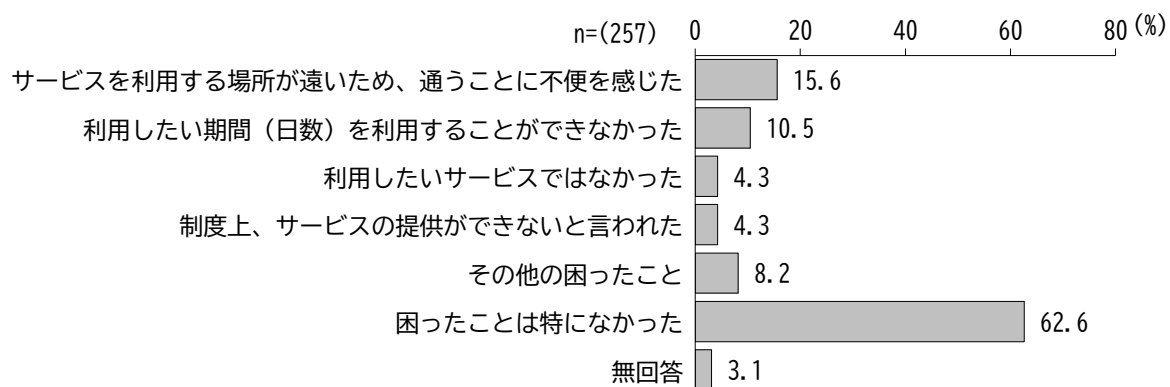
地区別でみると、『利用経験あり』については中部地区（50.1%）が全体に比べて高くなっている。

(2) 福祉サービスの利用にあたり困ったこと

問14で「1. 自分自身が利用した」、「2. 家族が利用した」、「3. 自分と家族の双方が利用した」と回答した方はお答えください。

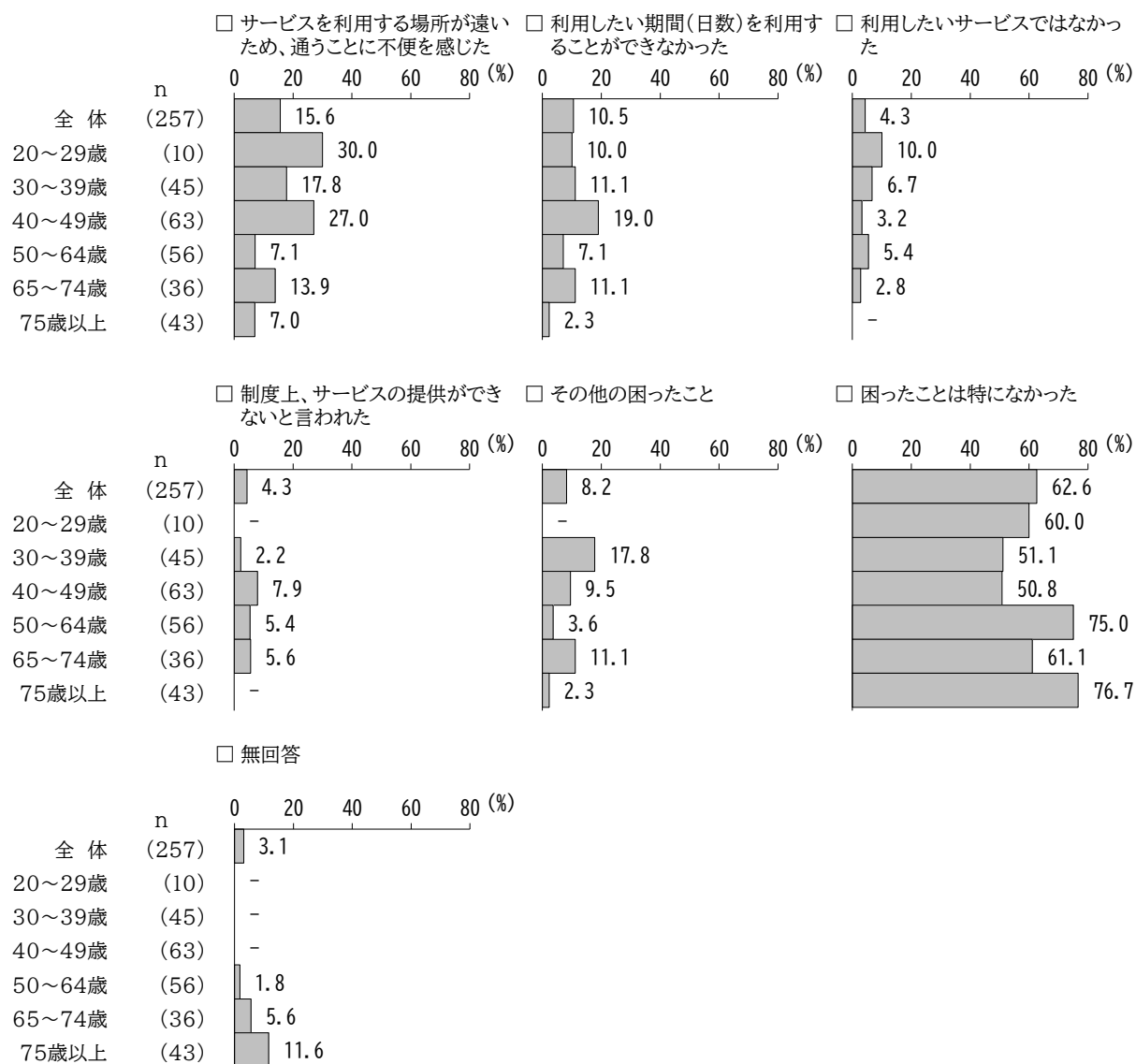
問15 福祉サービスの利用にあたって、困ったことは何ですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図3-2-1 福祉サービスの利用にあたり困ったこと 全体



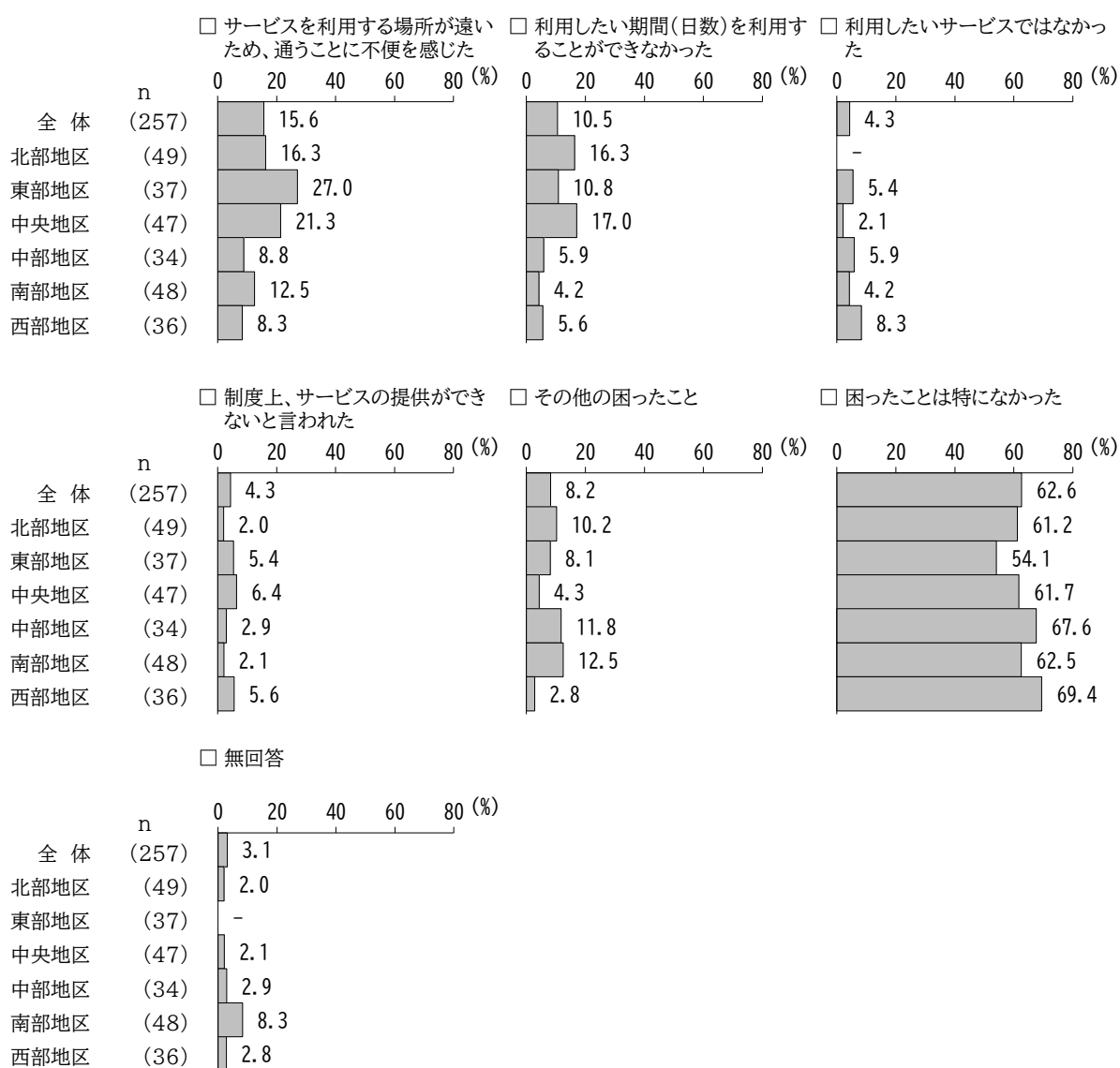
福祉サービスの利用にあたって困ったことについて聞いたところ、「サービスを利用する場所が遠いため、通うことに不便を感じた」が15.6%で最も高かった。次いで、「利用したい期間(日数)を利用することができなかった」(10.5%)となっている。一方で、「困ったことは特になかった」は62.6%を占めている。

図3-2-2 福祉サービスの利用にあたり困ったこと 年齢別



年齢別でみると、「特に困ったことはなかった」については75歳以上（76.7%）と50～64歳（75.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「サービスを利用する場所が遠いため、通うことに不便を感じた」については20～29歳（30.0%）、「利用したい期間（日数）を利用することができなかった」については40～49歳（19.0%）が高くなっている。

図3-2-3 福祉サービスの利用にあたり困ったこと 地区別

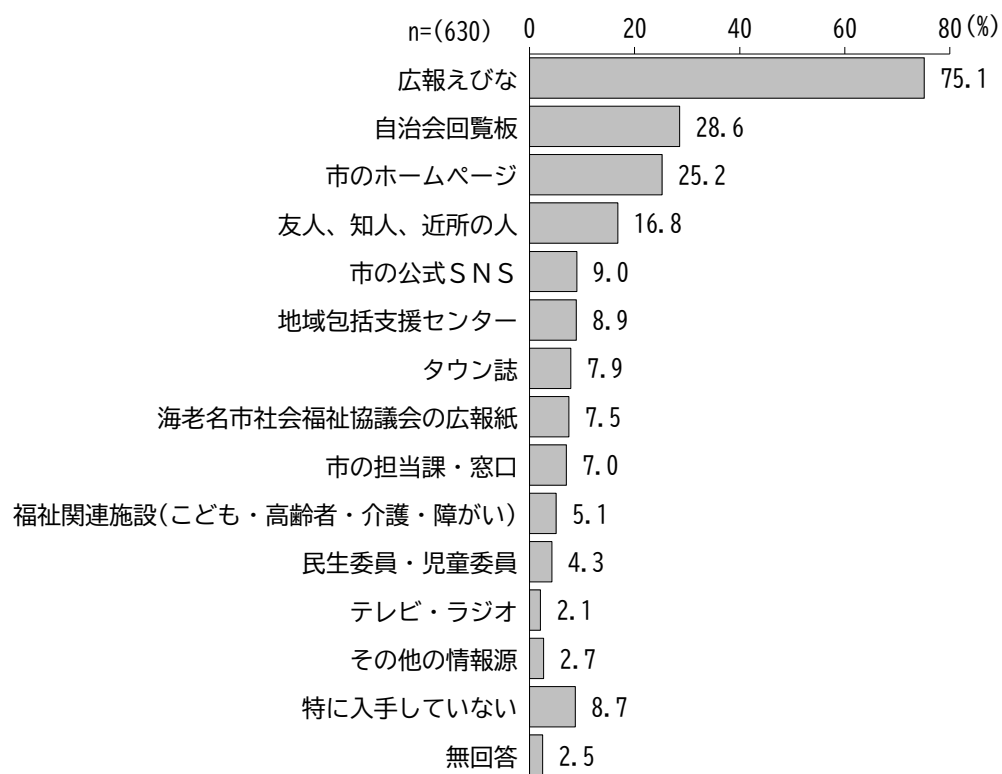


地区別でみると、「特に困ったことはなかった」については西部地区（69.4％）と中部地区（67.6％）が全体に比べて高くなっている。また、「サービスを利用する場所が遠いため、通うことに不便を感じた」については東部地区（27.0％）、中央地区（21.3％）、「利用したい期間（日数）を利用することができなかった」については中央地区（17.0％）、北部地区（16.3％）が高くなっている。

(3) 市の福祉に関する情報の入手先

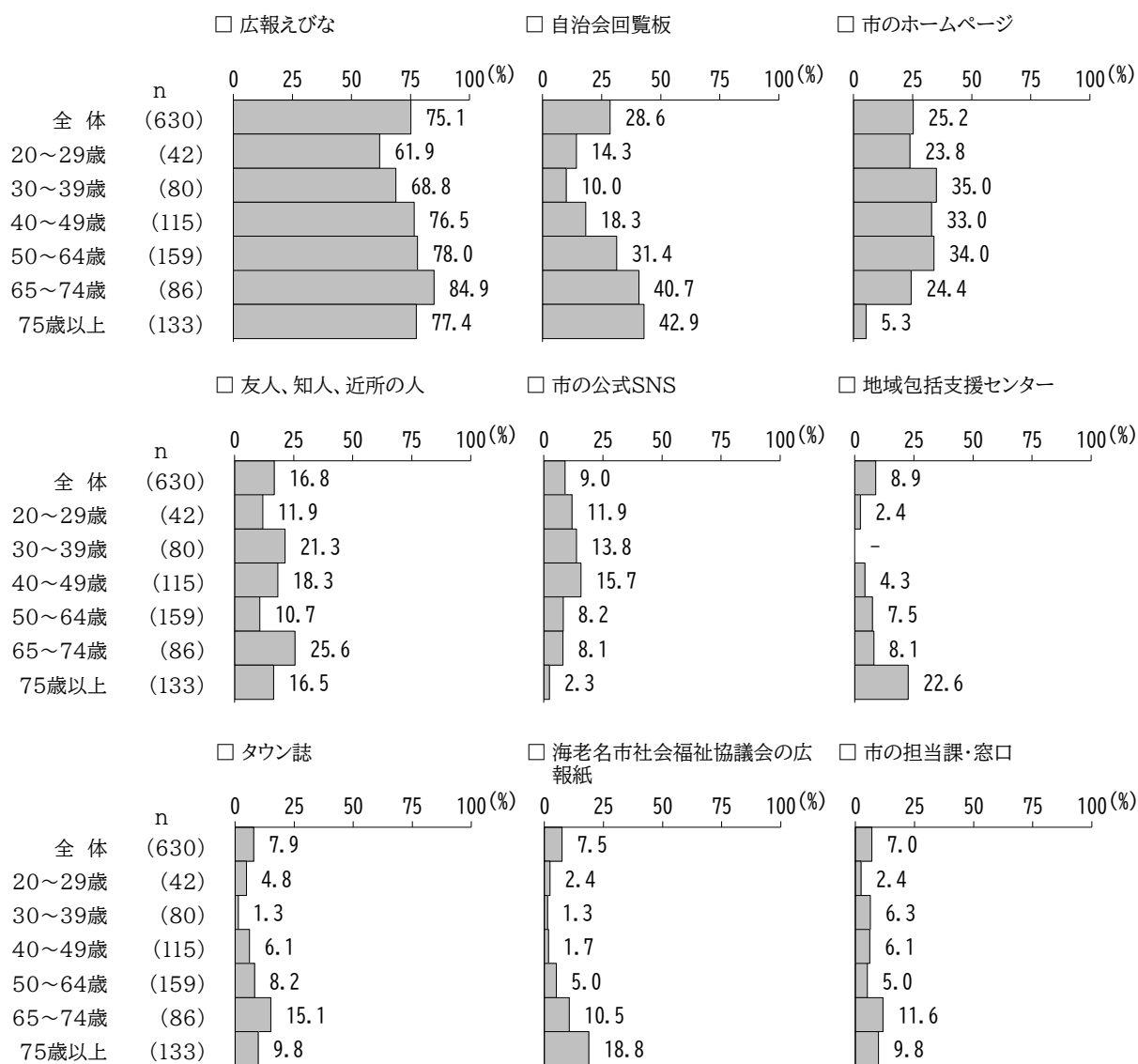
問16 あなたは、市の福祉に関する情報を主にどこから入手していますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図3-3-1 市の福祉に関する情報の入手先 全体



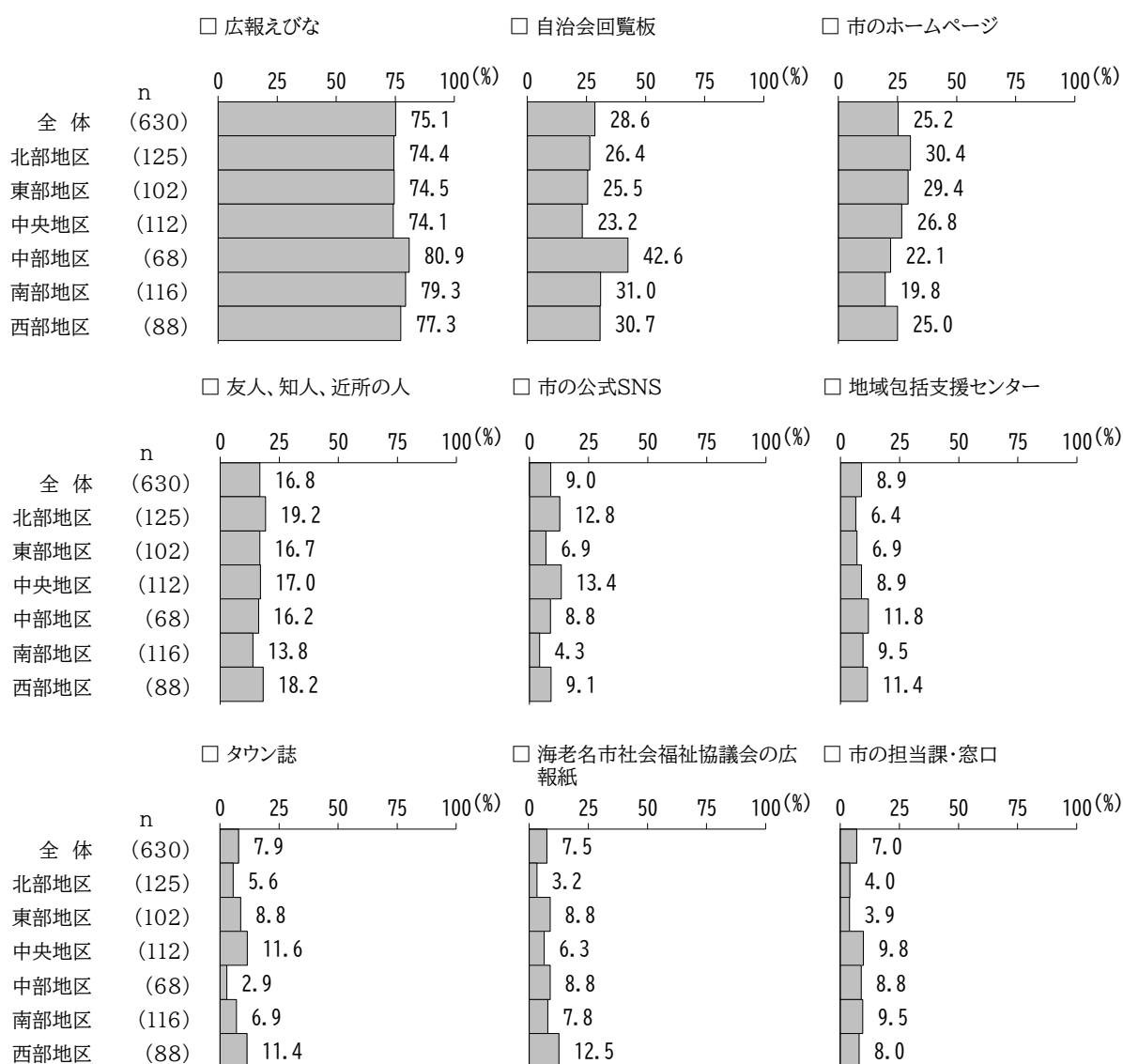
福祉に関する情報の入手先について聞いたところ、「広報えびな」が75.1%で最も高かった。以下、「自治会回覧板」(28.6%)、「市のホームページ」(25.2%)の順になっている。

図3-3-2 市の福祉に関する情報の入手先 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「広報えびな」については65~74歳（84.9%）が全体に比べて高くなっている。また、「自治会回覧板」については75歳以上（42.9%）と65~74歳（40.7%）、「市のホームページ」については30~39歳（35.0%）と50~64歳（34.0%）、40~49歳（33.0%）、「友人、知人、近所の人」については65~74歳（25.6%）、「市の公式SNS」については40~49歳（15.7%）、「地域包括支援センター」については75歳以上（22.6%）が高くなっている。

図3-3-3 市の福祉に関する情報の入手先 地区別(上位9項目)

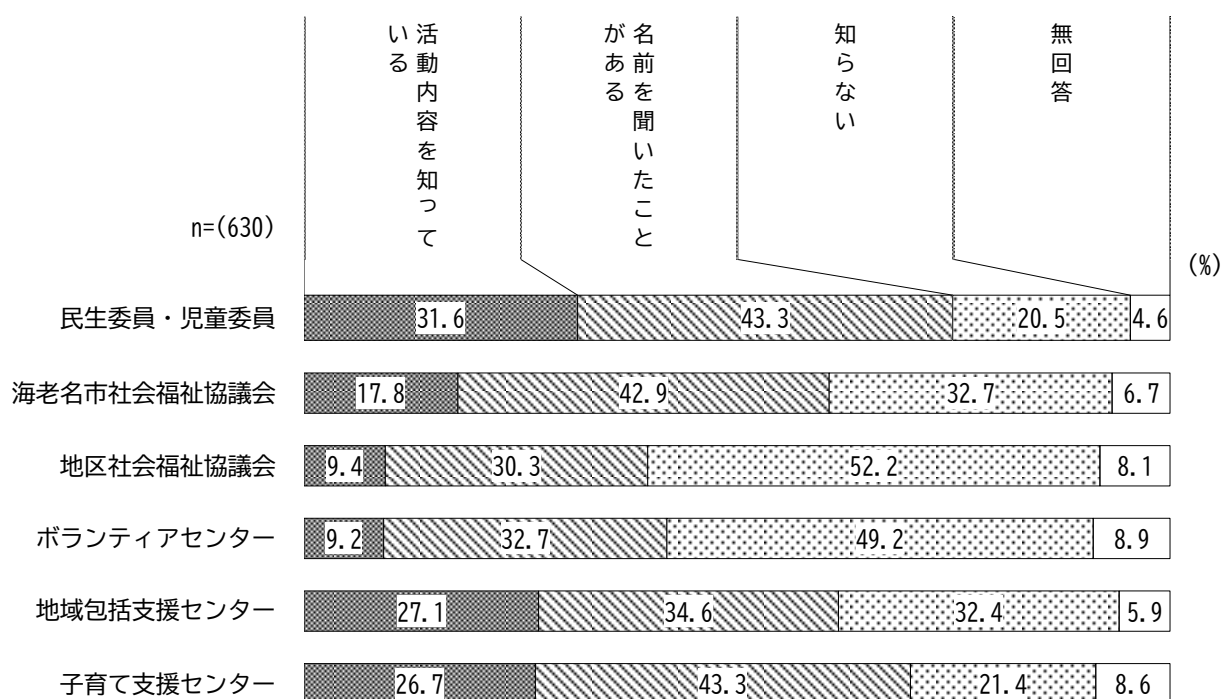


地区別でみると、「広報えびな」については中部地区（80.9%）、南部地区（79.3%）が全体に比べて高くなっている。また、「自治会回覧板」については中部地区（42.6%）、「市のホームページ」については北部地区（30.4%）と東部地区（29.4%）、「市の公式SNS」については中央地区（13.4%）、「海老名市社会福祉協議会の広報紙」については西部地区（12.5%）が高くなっている。

(4) 地域福祉活動の組織や拠点の認知度

問17 あなたは、次のような地域福祉活動の組織や拠点をご存知ですか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図3-4-1 地域福祉活動の組織や拠点の認知度 全体



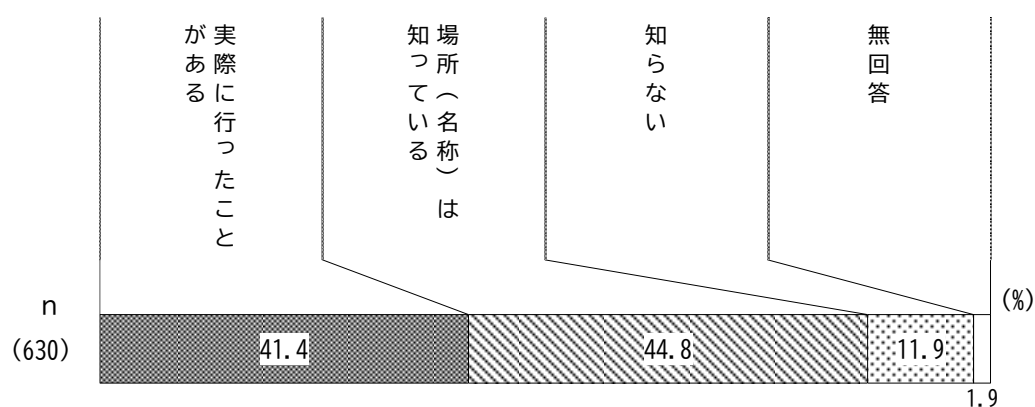
地域福祉活動の組織や拠点の認知度について、「活動内容を知っている」は「民生委員・児童委員」が31.6%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」が27.1%、「子育て支援センター」が26.7%と続いた。一方で「知らない」は「地区社会福祉協議会」が52.2%、「ボランティアセンター」が49.2%と半数が「知らない」という回答であった。

4. 防災について

(1) 住まいの地域の災害時の避難場所の認知度

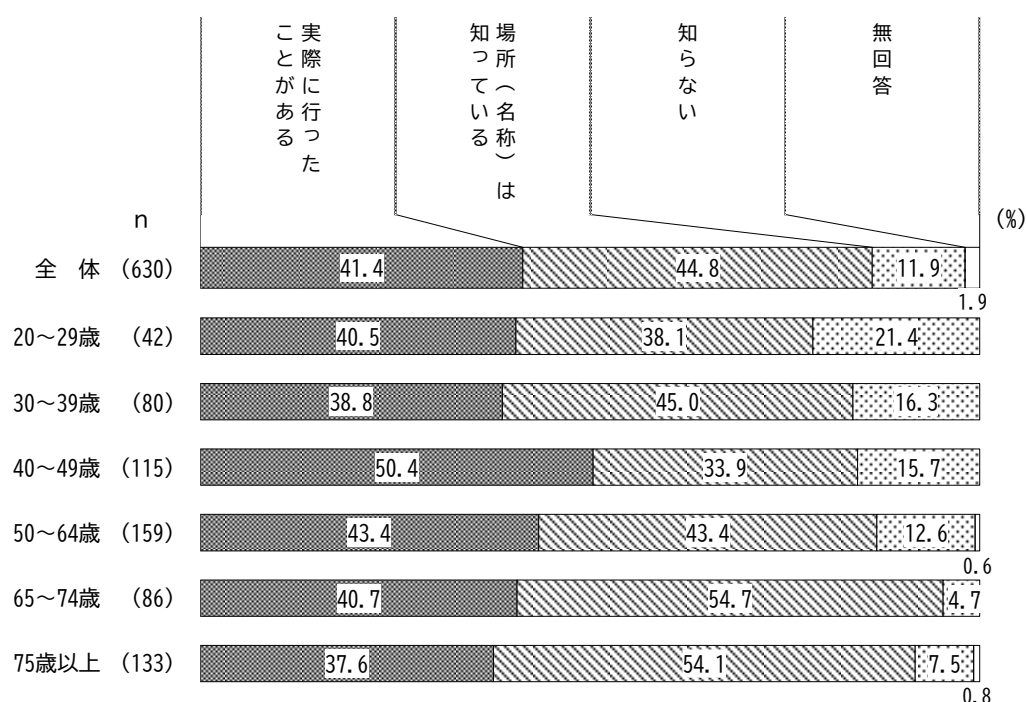
問18 あなたは、お住まいの地域の災害時の避難場所を知っていますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図4-1-1 住まいの地域の災害時の避難場所の認知度 全体



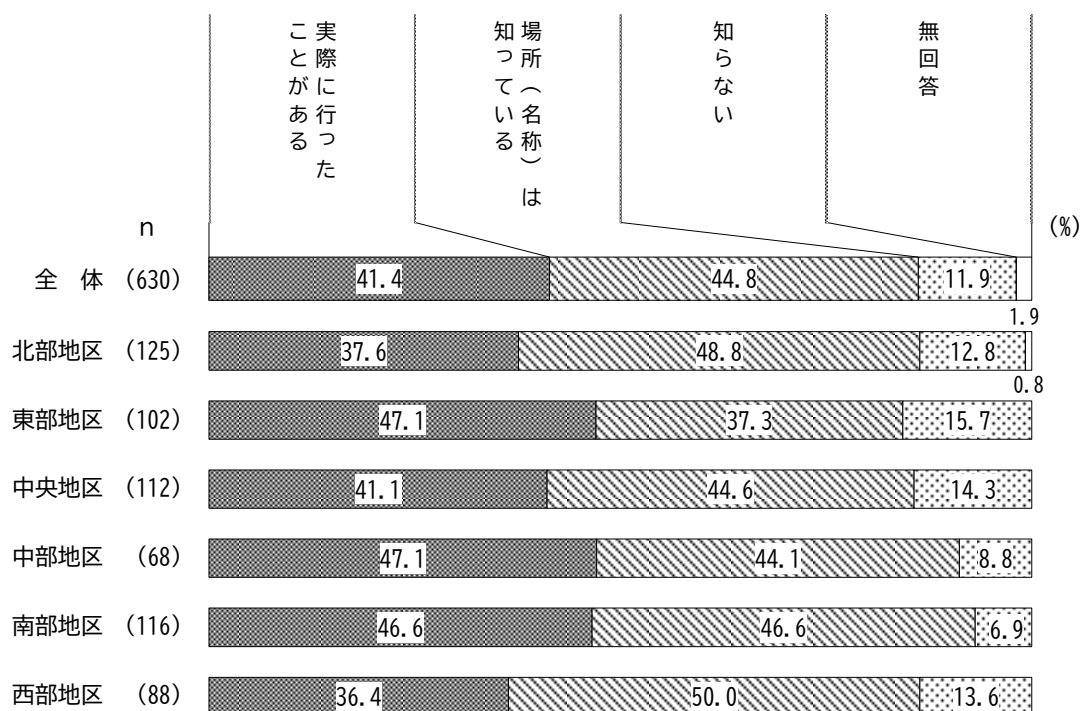
災害時の避難場所の認知度については、「場所(名称)は知っている」が44.8%で最も高かった。以下、「実際にいったことがある」(41.4%)、「知らない」(11.9%)の順になっている。

図4-1-2 住まいの地域の災害時の避難場所の認知度 年齢別



年齢別でみると、「場所（名称）は知っている」については75歳以上（54.1%）が全体に比べて高くなっている。また、「実際に行ったことがある」については40～49歳（50.4%）、「知らない」は20～29歳（21.4%）が高くなっている。

図4-1-3 住まいの地域の災害時の避難場所の認知度 地区別



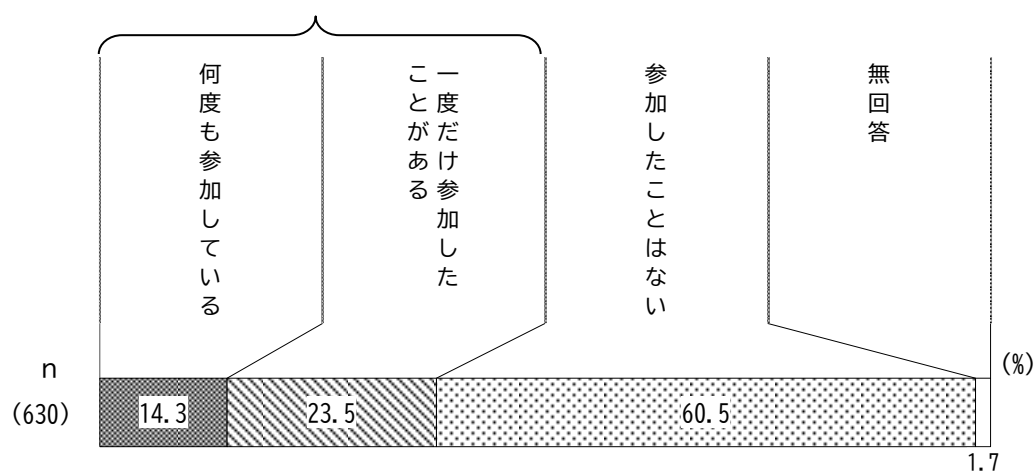
地区別でみると、「場所（名称）は知っている」については西部地区（50.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「実際に行ったことがある」については東部地区、中部地区ともに（47.1%）と南部地区（46.6%）が高くなっている。

(2) 住まいの地域の防災訓練の参加の有無

問19 あなたは、日頃からお住まいの地域の防災訓練に参加していますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

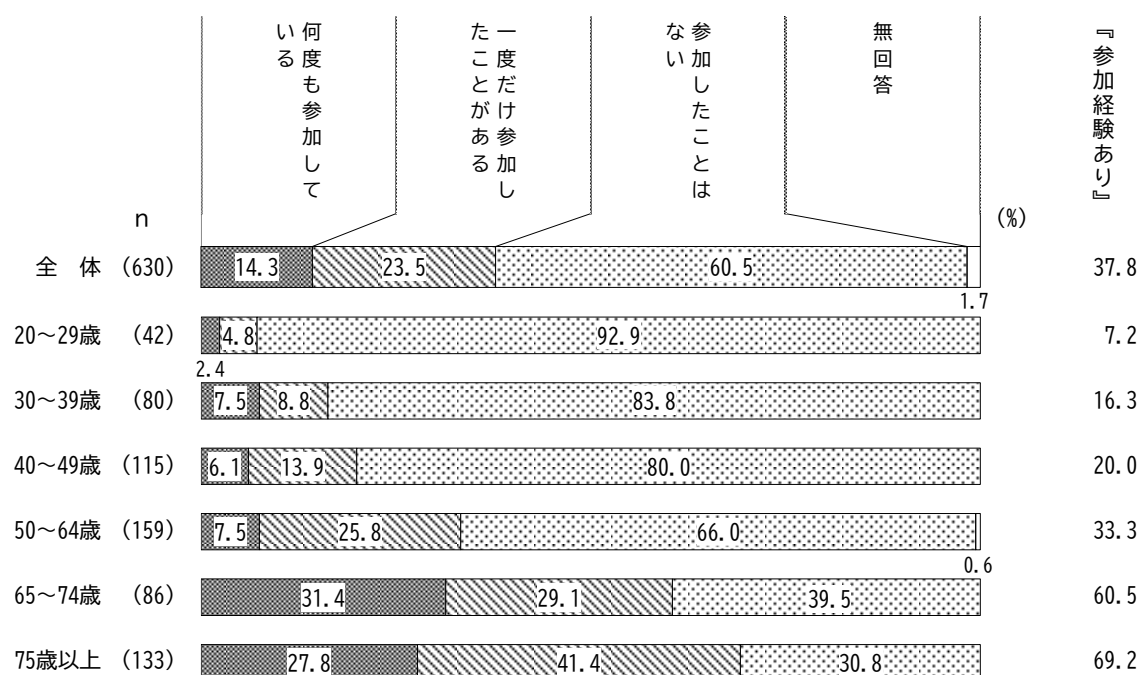
図4-2-1 住まいの地域の防災訓練の参加の有無 全体

『参加経験あり』37.8%



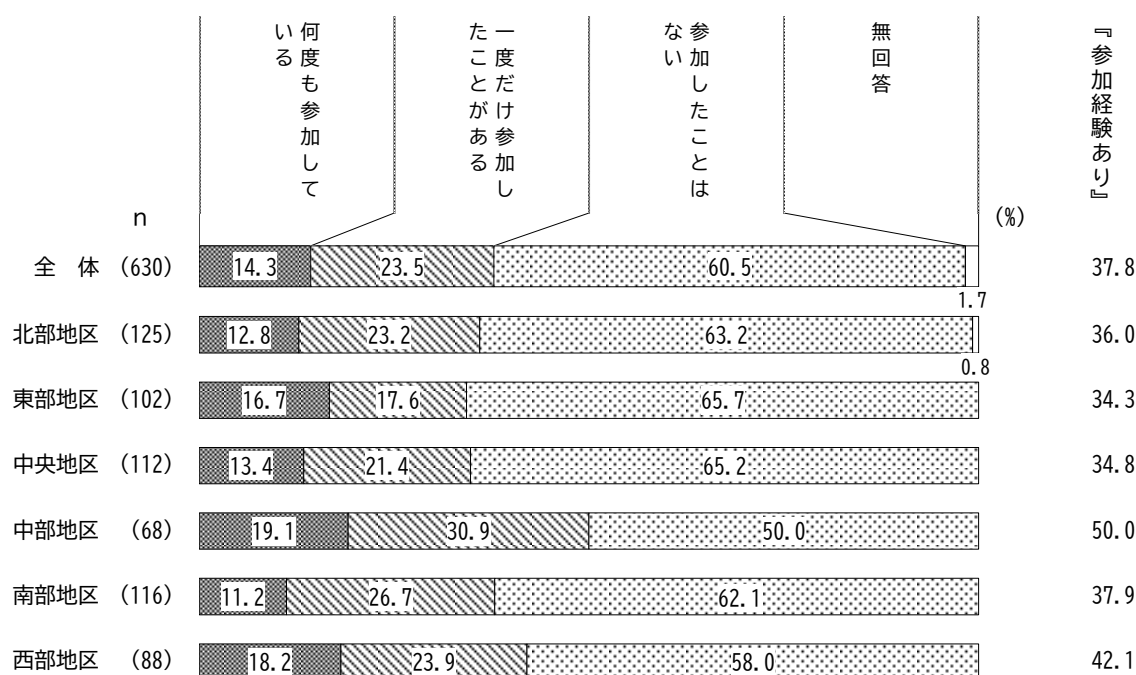
防災訓練への参加経験については、「何度も参加している」(14.3%)と「一度だけ参加したことがある」(23.5%)を合わせた『参加経験あり』は37.8%となっている。一方、「参加したことはない」は60.5%を占めている。

図4-2-2 住まいの地域の防災訓練の参加の有無 年齢別



年齢別でみると、「参加したことはない」については20～29歳（92.9%）が全体に比べて高くなっている。また、『参加経験あり』については75歳以上（69.2%）が高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向がうかがえる。

図4-2-3 住まいの地域の防災訓練の参加の有無 地区別

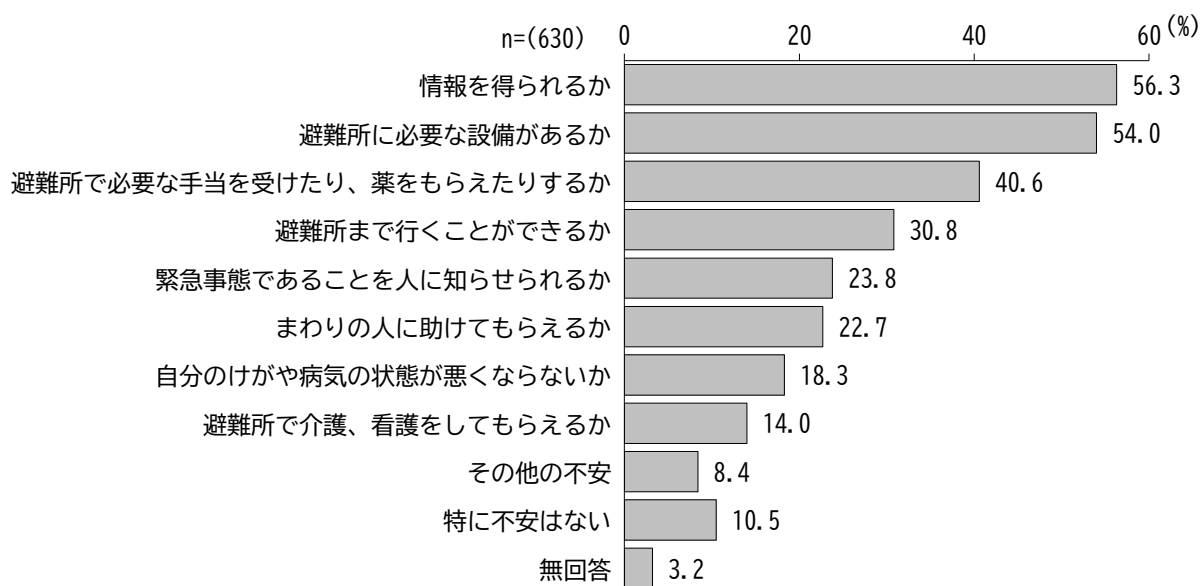


地区別でみると、『参加経験あり』については中部地区（50.0%）が高くなっている。

(3) 災害時の避難や対応について不安に思うこと

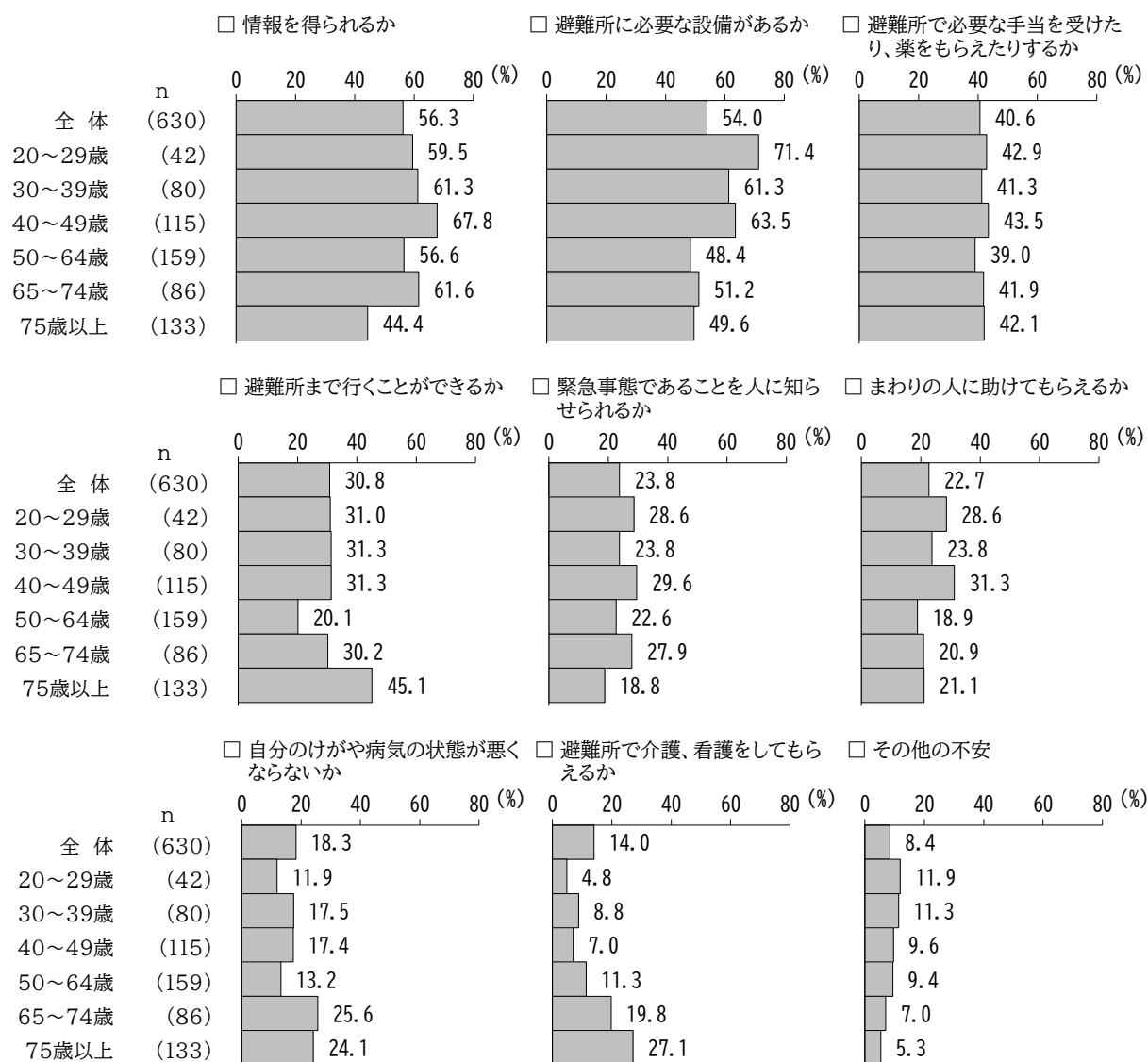
問20 あなたは、災害時の避難や対応について不安に思うことはありますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図4-3-1 災害時の避難や対応について不安に思うこと 全体



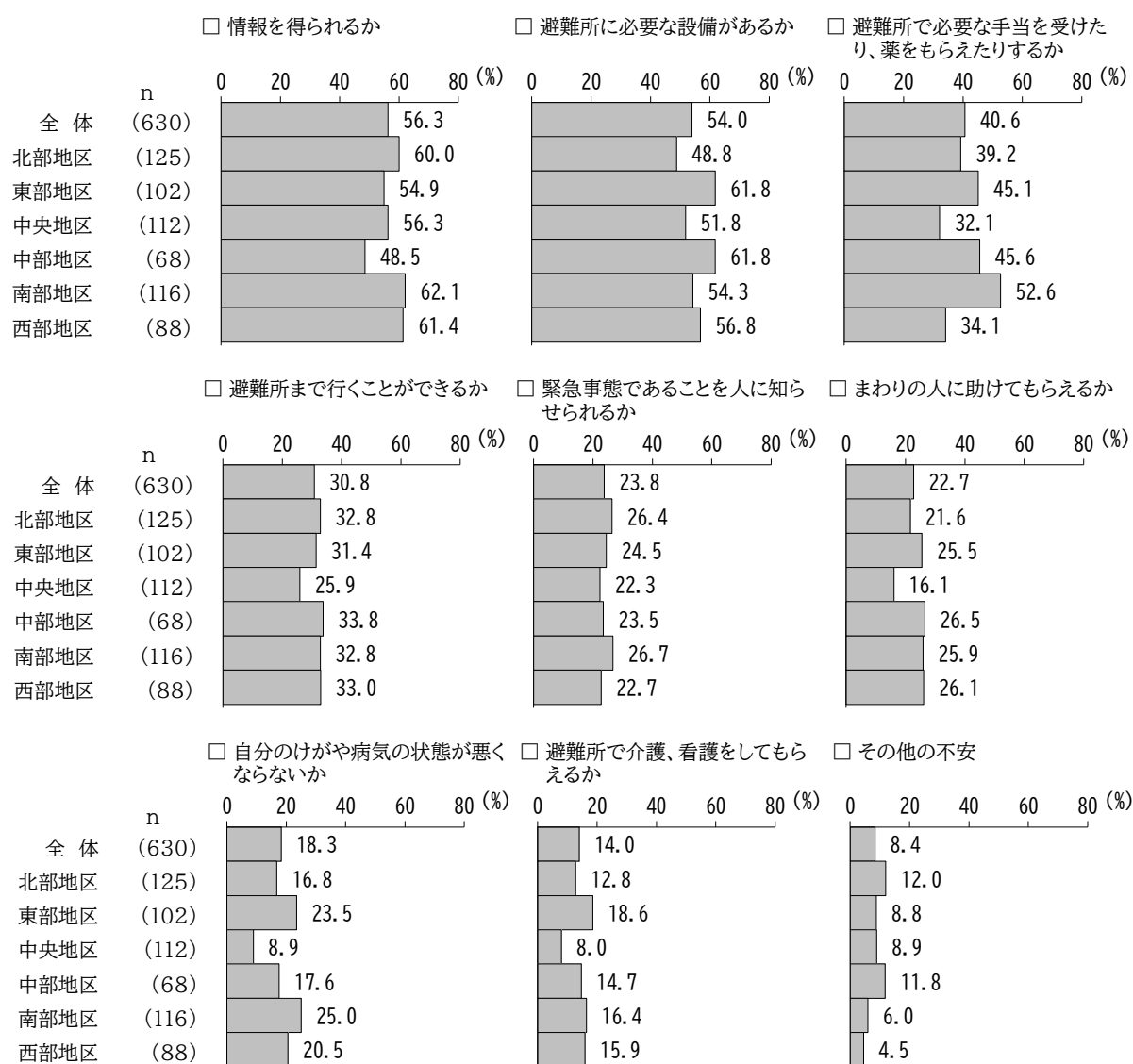
災害時の避難や対応について不安に思うことについては、「情報を得られるか」が56.3%で最も高かった。以下、「避難所に必要な設備があるか」(54.0%)、「避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか」(40.6%)の順になっている。

図4-3-2 災害時の避難や対応について不安に思うこと 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「情報を得られるか」については40～49歳（67.8%）が全体に比べて高くなっている。また、「避難所に必要な設備があるか」については20～29歳（71.4%）、「避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか」については40～49歳（43.5%）と20～29歳（42.9%）、75歳以上（42.1%）、「避難所まで行くことができるか」については75歳以上（45.1%）、「緊急事態であることを人に知らせられるか」については40～49歳（29.6%）、「まわりの人に助けてもらえるか」については40～49歳（31.3%）、「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」については65～74歳（25.6%）と75歳以上（24.1%）、「避難所で介護、看護をしてもらえるか」については75歳以上（27.1%）が高くなっている。

図4-3-3 災害時の避難や対応について不安に思うこと 地区別(上位9項目)



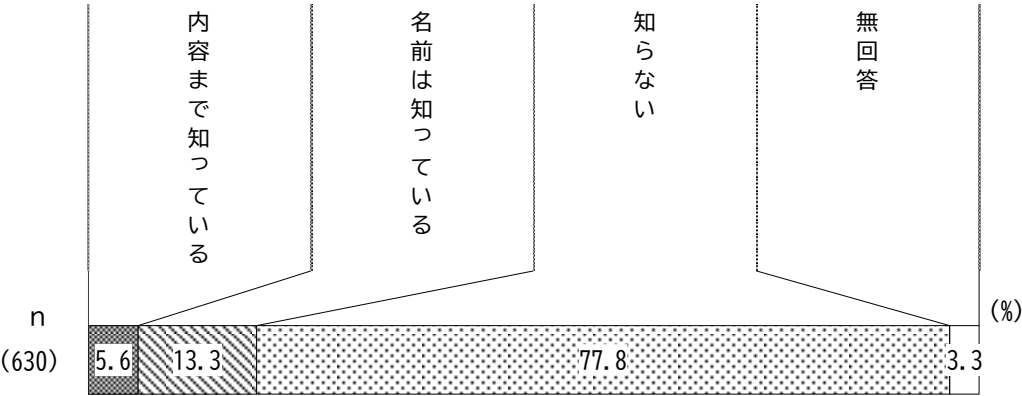
地区別でみると、「情報を得られるか」については南部地区（62.1%）、西部地区（61.4%）が全体に比べて高くなっている。また、「避難所に必要な設備があるか」については東部地区と中部地区（61.8%）、「避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか」については南部地区（52.6%）、中部地区（45.6%）、東部地区（45.1%）、「まわりの人に助けてもらえるか」については中部地区（26.5%）、西部地区（26.1%）、南部地区（25.9%）、「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」については南部地区（25.0%）と東部地区（23.5%）、「避難所で介護、看護をしてもらえるか」については東部地区（18.6%）が高くなっている。

(4) 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度

問21 あなたは、避難行動要支援者登録制度（登録名簿）※をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

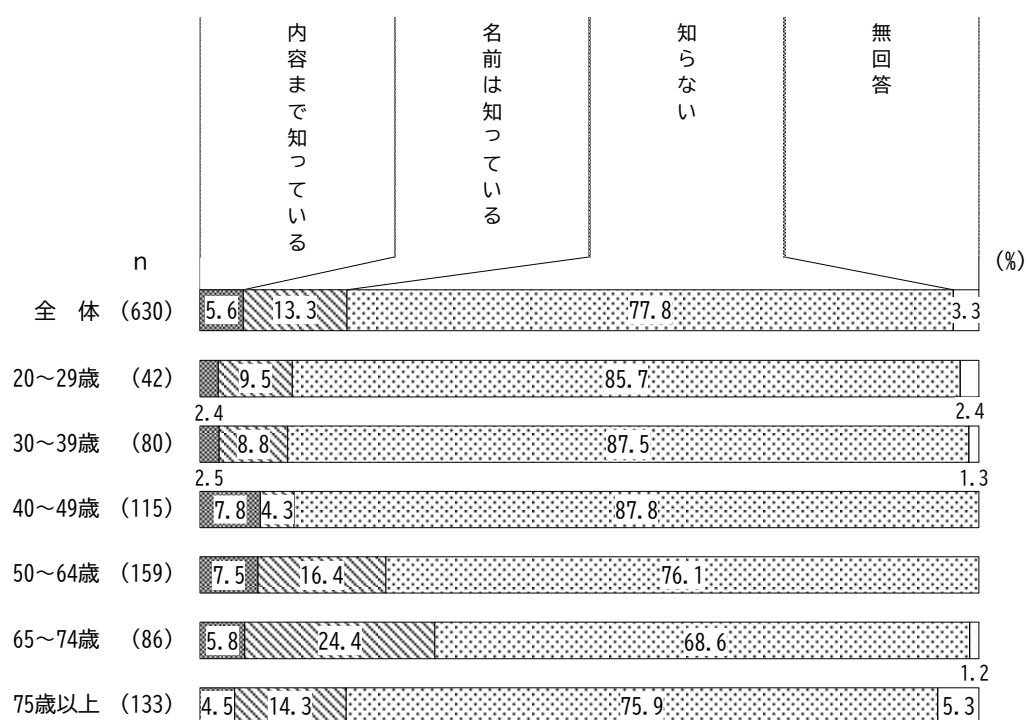
※避難行動要支援者登録制度（登録名簿）とは
災害が発生した時に、ひとりで避難することが困難（要介護認定を受けている方や障害のお手帳をお持ちの方など）、かつ在宅で生活をしている方の名簿を作成し、関係者に提供することで、必要な支援を実施すること目的とした制度です。

図4-4-1 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度 全体



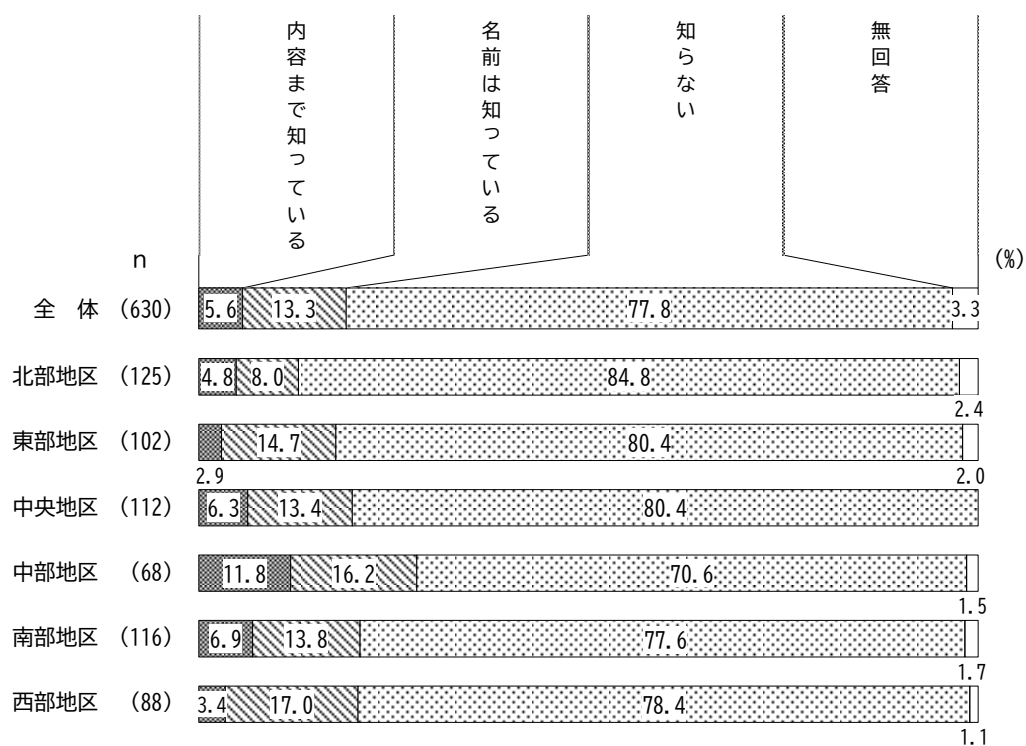
避難行動要支援者制度(登録名簿)の認知度については、「知らない」が77.8%で最も高かった。以下、「名前は知っている」(13.3%)、「内容まで知っている」(5.6%)の順になっている。

図4-4-2 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度 年齢別



年齢別でみると、「知らない」については40～49歳（87.8%）と30～39歳（87.5%）が全体に比べて高くなっている。また、「名前は知っている」については65～74歳（24.4%）が高くなっている。

図4-4-3 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度 地区別



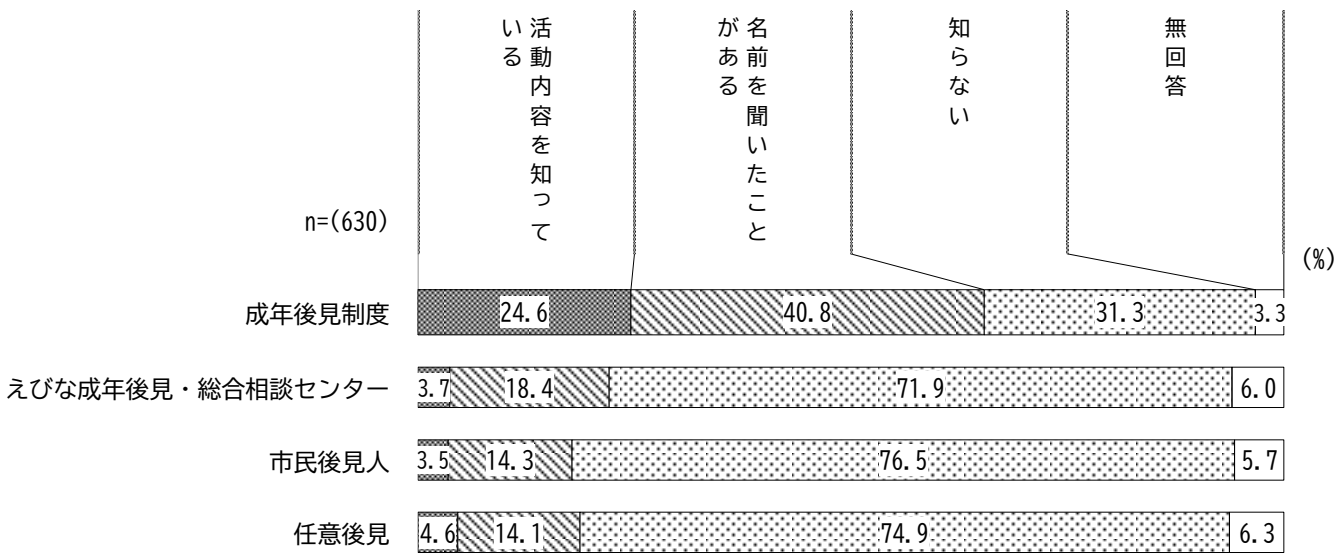
年齢別でみると、「知らない」については北部地区（84.4%）が全体に比べて高くなっている。また、「名前は知っている」については西部地区（17.0%）が高くなっている。

5. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度に関する認知度

問22 あなたは、次のような制度や施設をご存知ですか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図5-1-1 成年後見制度に関する認知度 全体

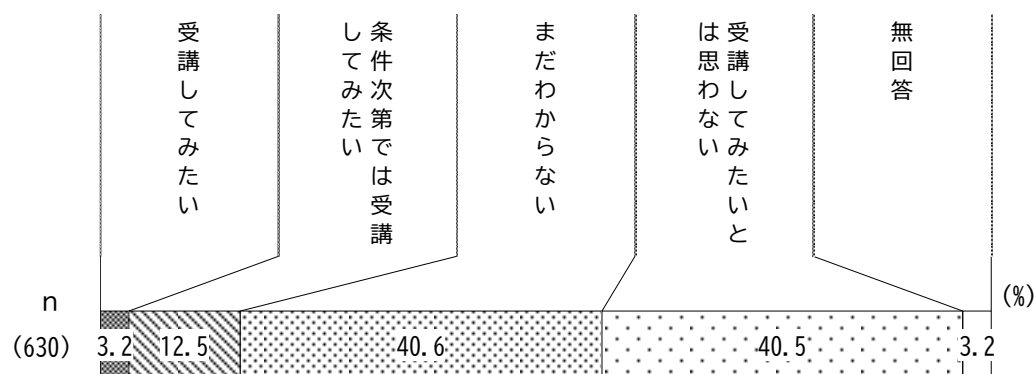


成年後見制度に関する認知度について、「活動内容を知っている」は「成年後見制度」が24.6%と最も高く、次いで「任意後見」が4.6%であった。一方で「知らない」は「市民後見人」が76.5%と最も高く、次いで「任意後見」が74.9%、「えびな成年後見・相談支援センター」が71.9%と7割が「知らない」という回答であった。

(2) 市民後見人になるための養成講座の受講意向

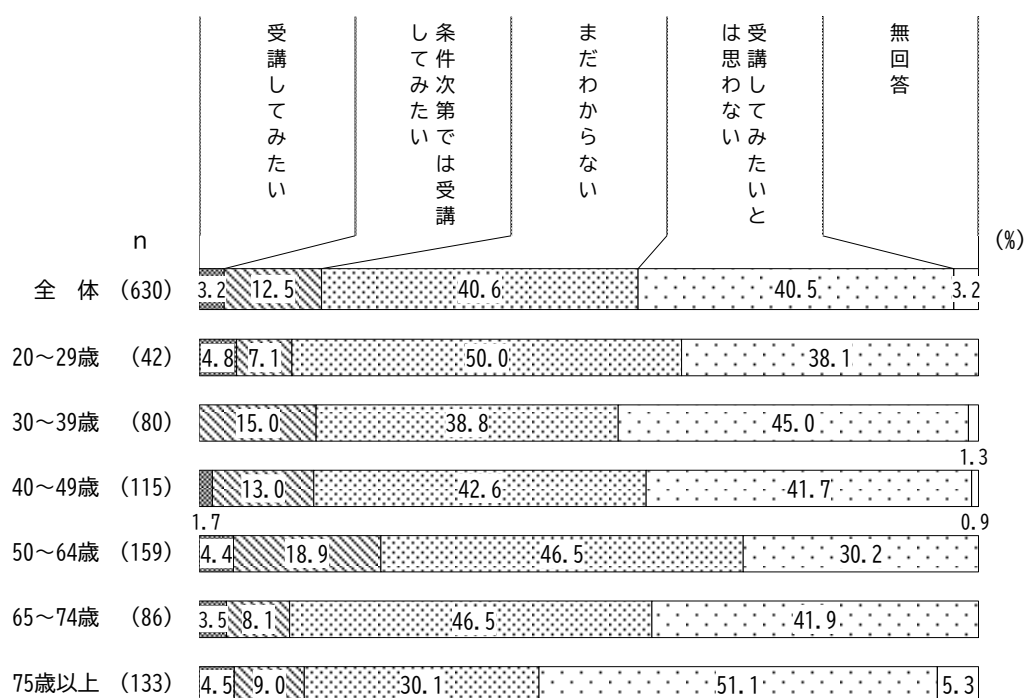
問23 市民後見人になるために必要な知識などを身に付けてもらうため養成講座について、あなたは受講してみたいと思いますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図5-2-1 市民後見人になるための養成講座の受講意向 全体



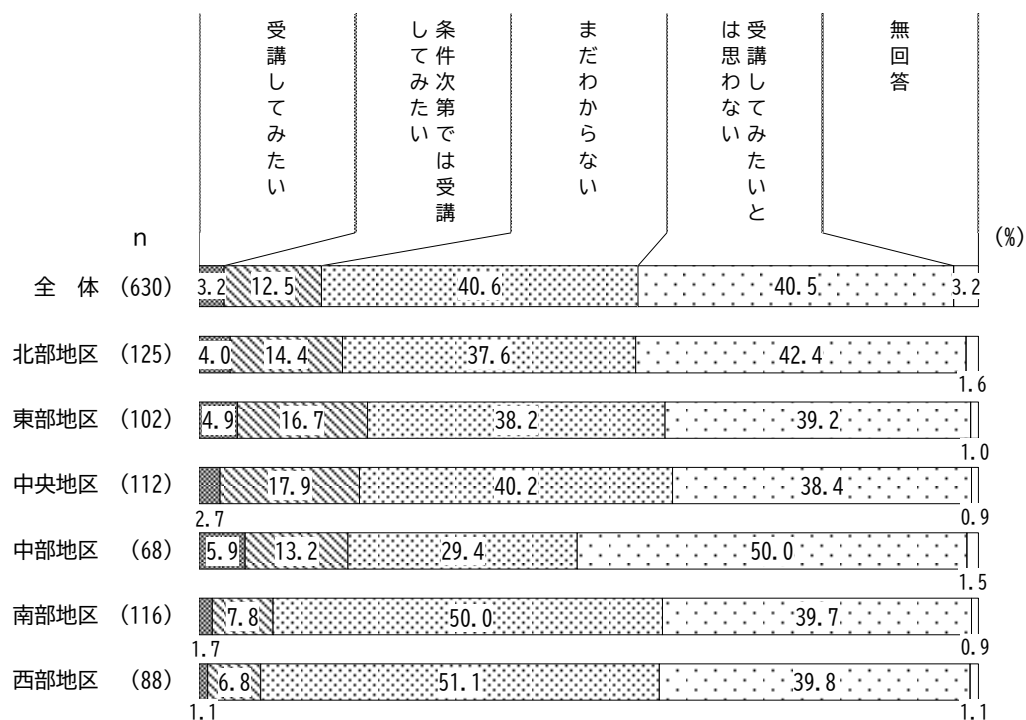
市民後見人養成講座の受講意向については、「まだわからない」が40.6%で最も高かった。以下、「受講してみたいとは思わない」(40.5%)、「条件次第では受講してみたい」(12.5%)の順になっている。

図5-2-2 市民後見人になるための養成講座の受講意向 年齢別



年齢別でみると、「まだわからない」については20～29歳（50.0%）、50～64歳と65～74歳（ともに46.5%）が全体に比べて高くなっている。また、「受講してみたいとは思わない」については75歳以上（51.1%）、「条件次第では受講してみたい」については50～64歳（18.9%）が高くなっている。

図5-2-3 市民後見人になるための養成講座の受講意向 地区別



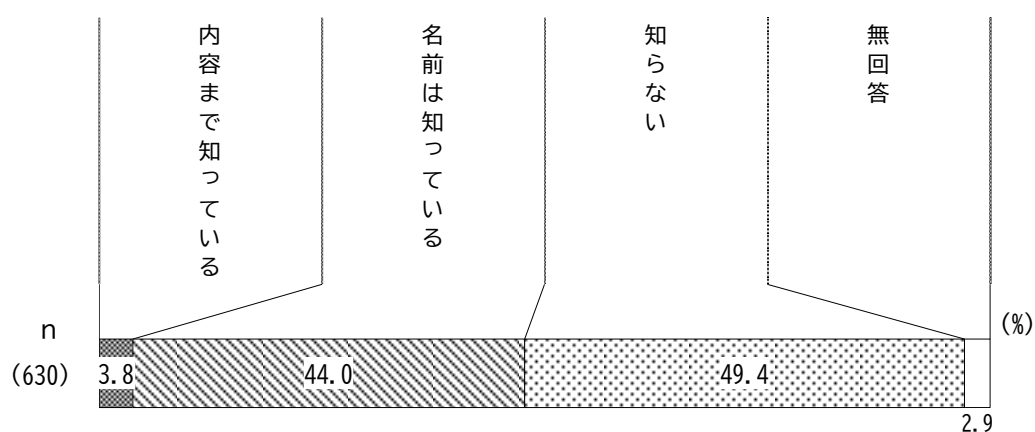
地区別でみると、「まだわからない」については西部地区（51.1%）と南部地区（50.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「受講してみたいとは思わない」については中部地区（50.0%）が高くなっている。

6. 生活困窮者自立制度について

(1) 生活困窮者自立支援制度の認知度

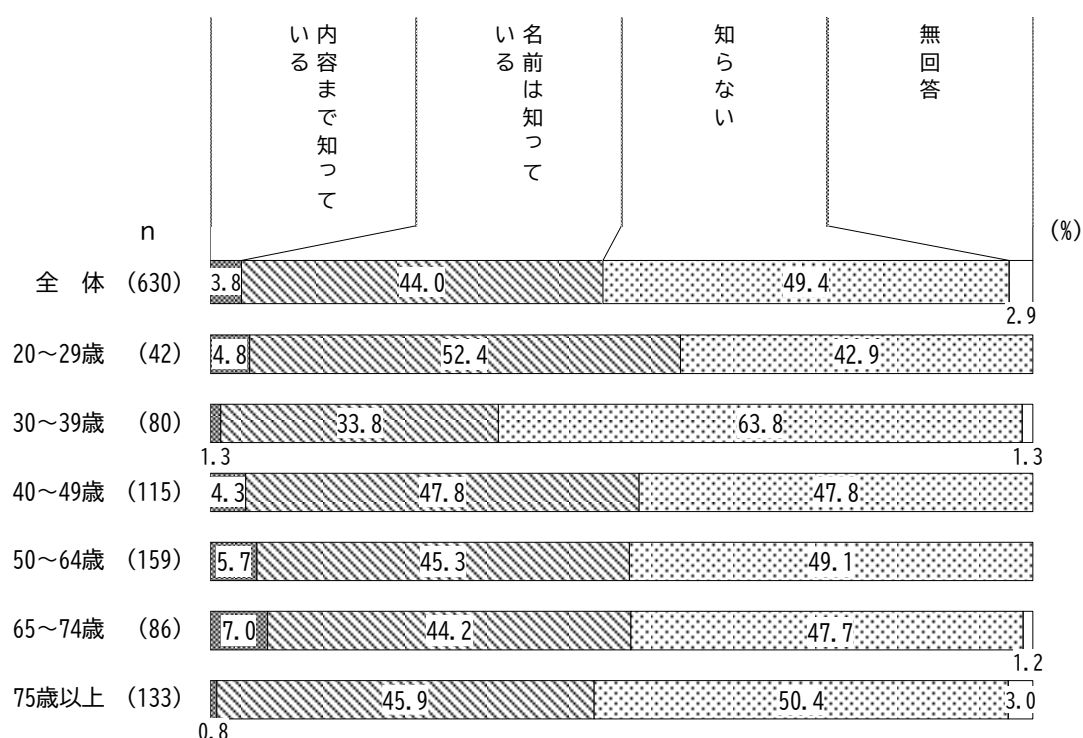
問24 あなたは、生活困窮者自立支援制度をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図6-1-1 生活困窮者自立支援制度の認知度 全体



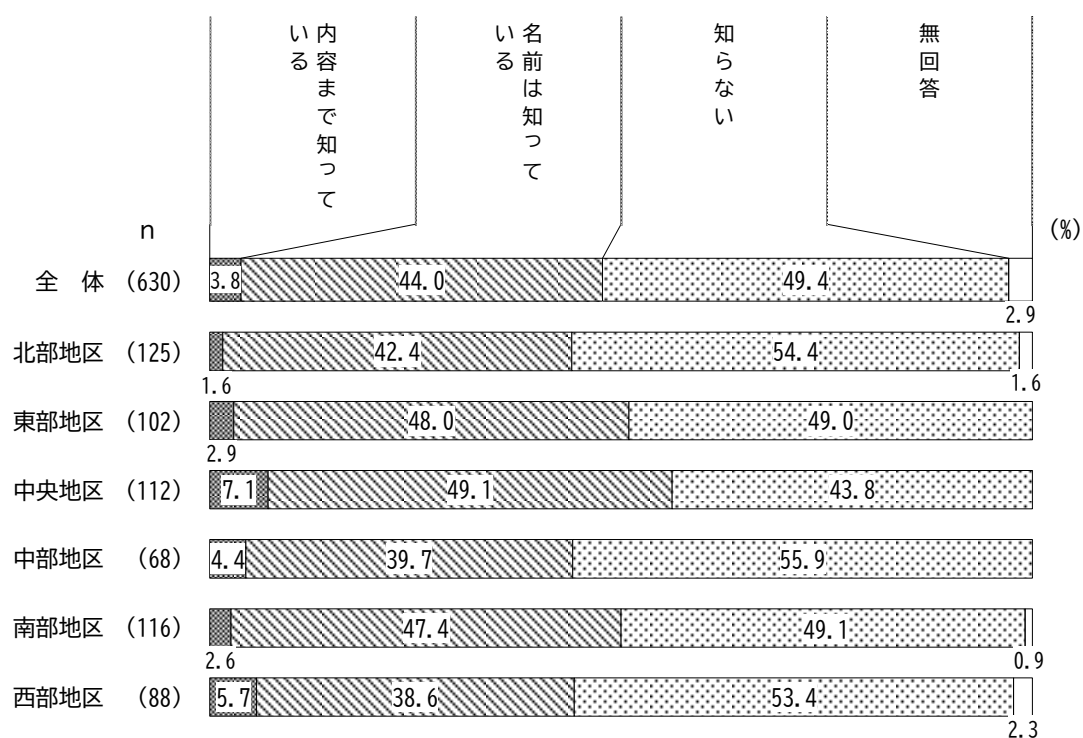
生活困窮者自立支援制度の認知度については、「知らない」が49.4%で最も高かった。以下、「名前は知っている」(44.0%)、「内容まで知っている」(3.8%)の順になっている。

図6-1-2 生活困窮者自立支援制度の認知度 年齢別



年齢別でみると、「知らない」については30～39歳（63.8%）が全体に比べて最も高くなっている。

図6-1-3 生活困窮者自立支援制度の認知度 地区別

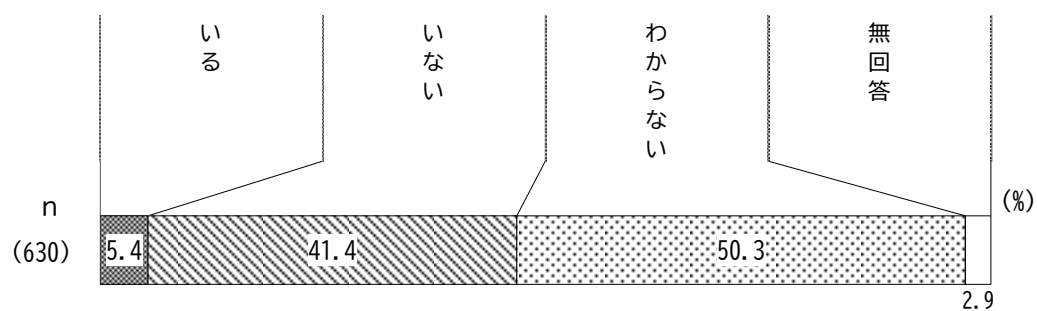


地区別でみると、「名前を知っている」については中央地区（49.1%）と東部地区（48.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「知らない」については中部地区（55.9%）と北部地区（54.4%）、西部地区（53.4%）が高くなっている。

(2) 生活困窮者

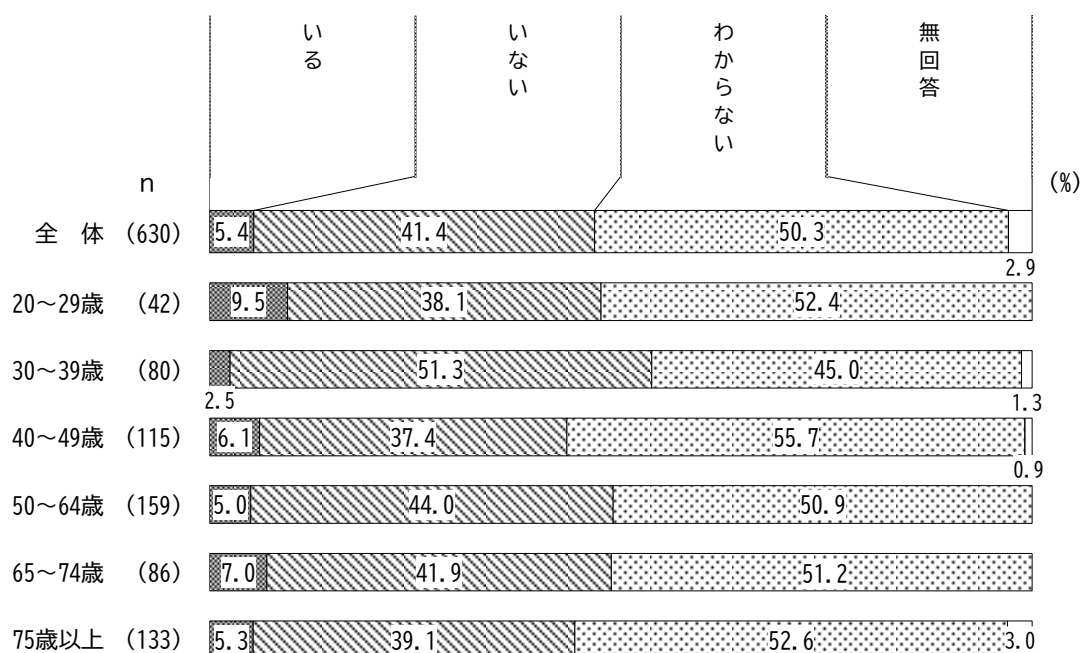
問25 あなたの身の回りには、生活に困っている人がいますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図6-2-1 生活困窮者 全体



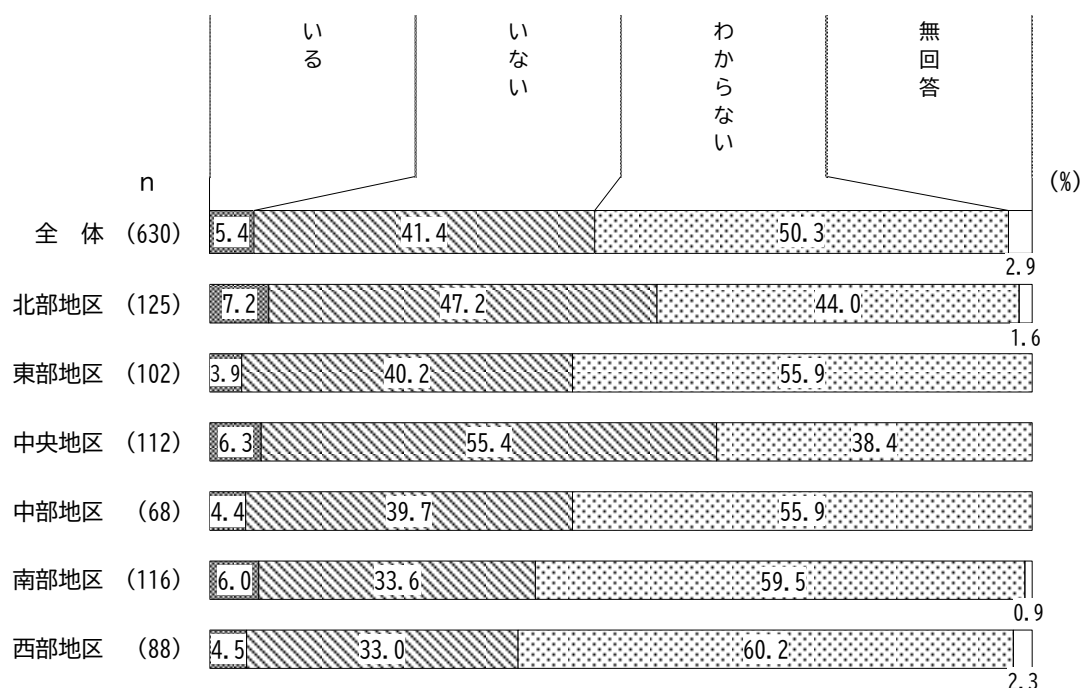
生活困窮者が身の回りにいるかについては、「わからない」が50.3%で最も高かった。以下、「いない」(41.4%)、「いる」(5.4%)の順になっている。

図6-2-2 生活困窮者 年齢別



年齢別にみると、いずれの項目も全体と大きな差は見られなかった。

図6-2-3 生活困窮者 地区別

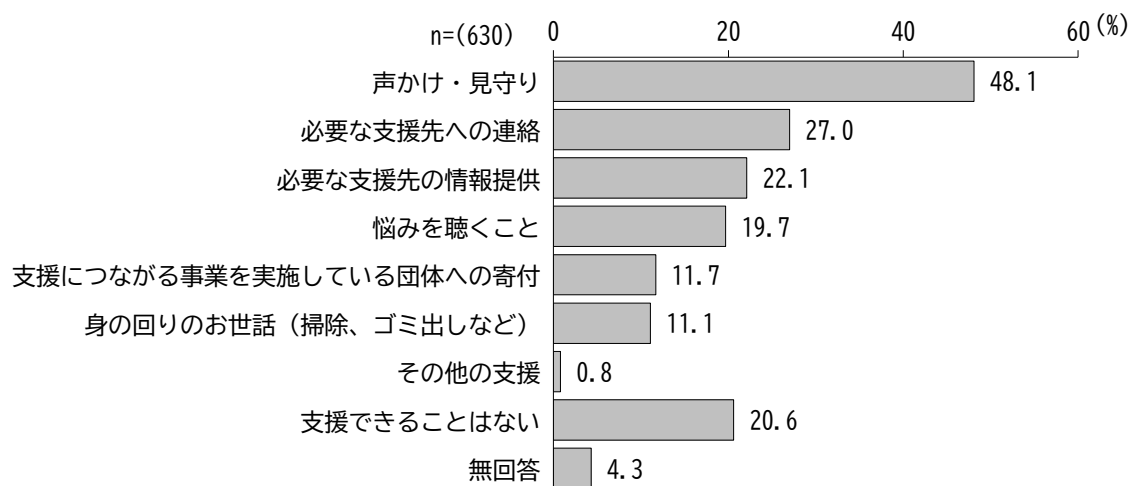


地区別でみると、「いない」については中央地区（55.4%）が全体に比べて最も高くなっている。一方、「わからない」については西部地区（60.2%）が高くなっている。

(3) 生活に困っている人への支援

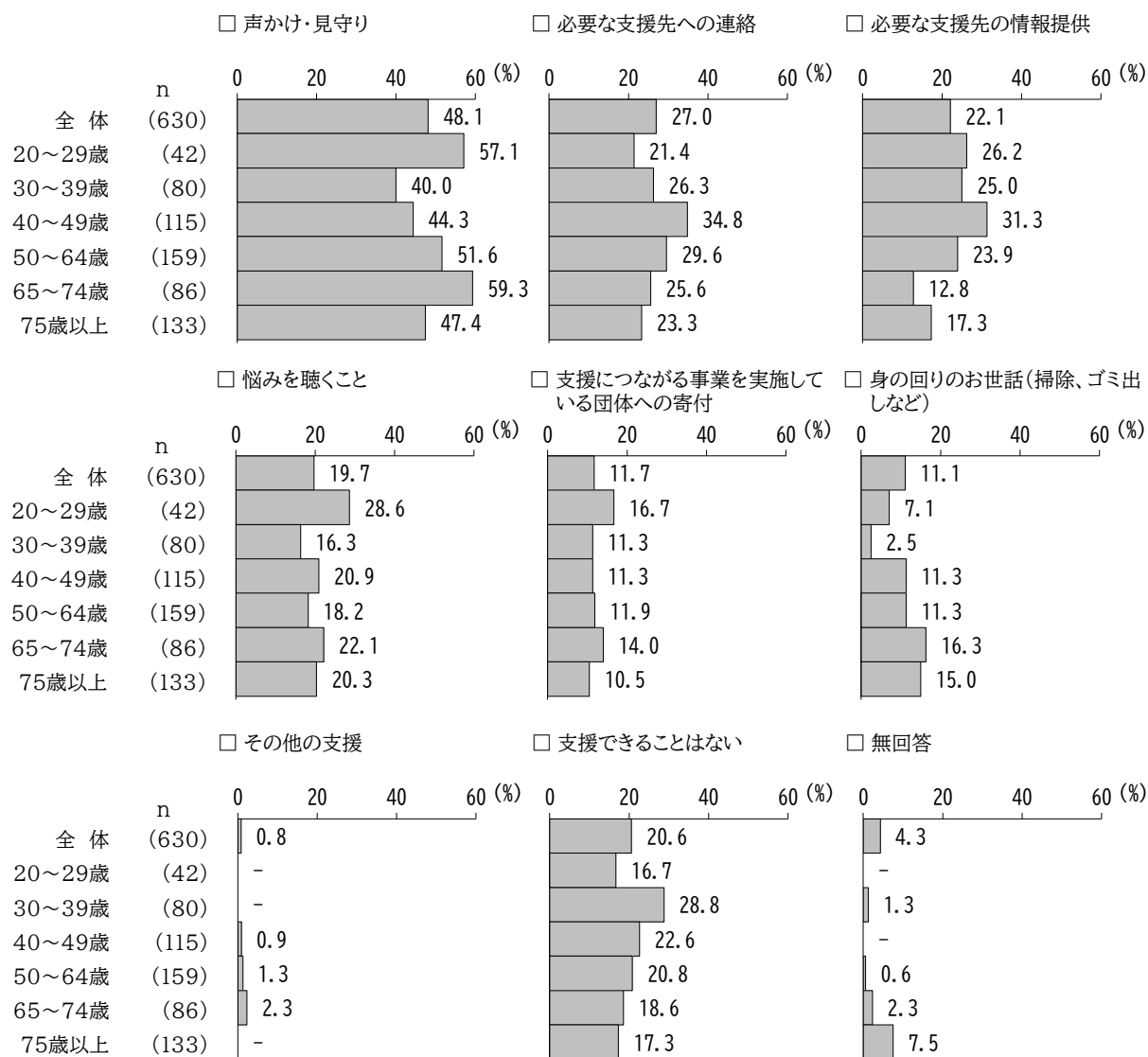
問26 あなたは、どのような事であれば生活に困っている人を支援することができますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図6-3-1 生活に困っている人への支援 全体



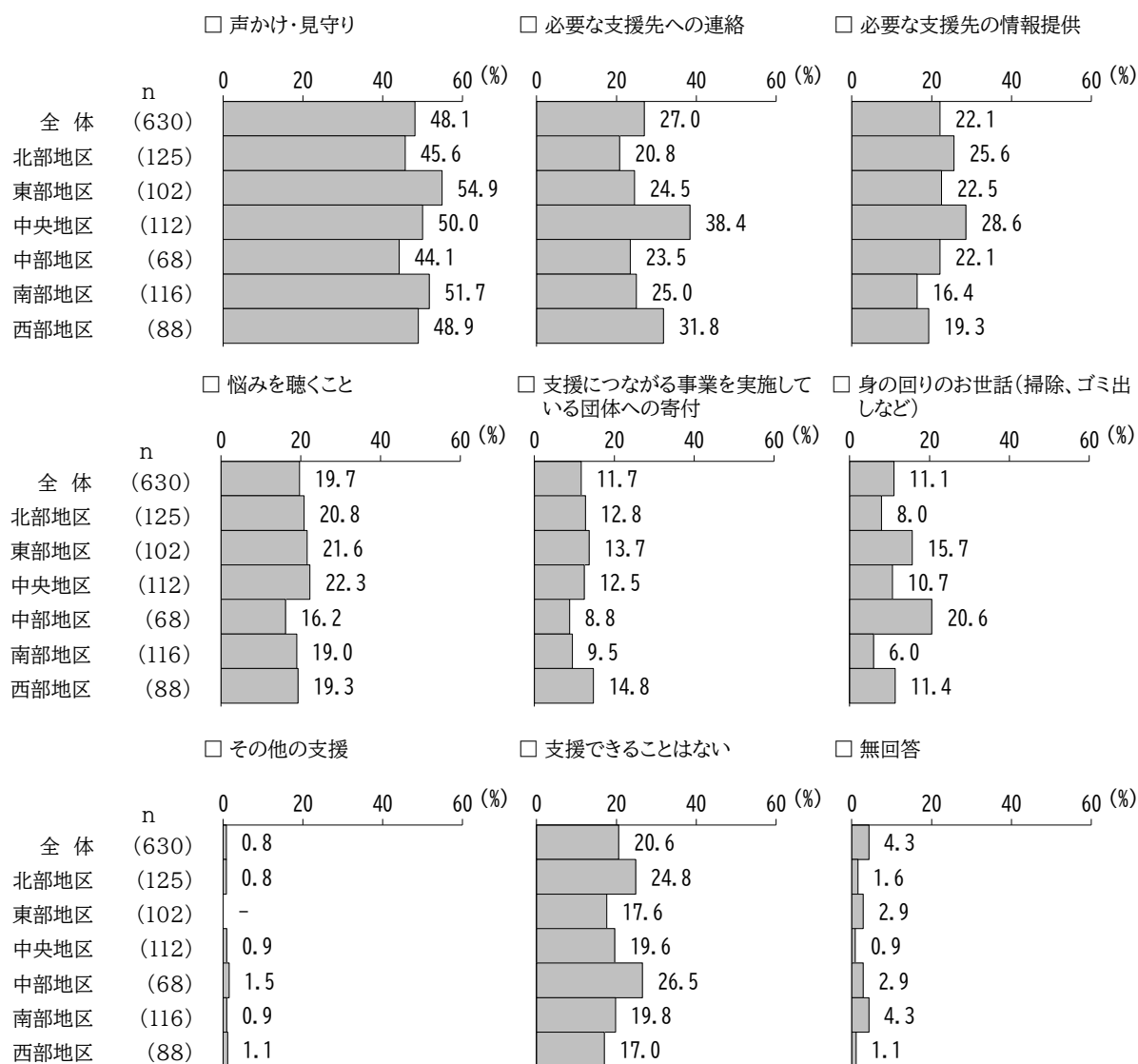
自分でできる生活に困っている人への支援について聞いたところ、「声かけ・見守り」が48.1%で最も高かった。以下、「必要な支援先への連絡」(27.0%)、「必要な支援先の情報提供」(22.1%)の順になっている。

図6-3-2 生活に困っている人への支援 年齢別



年齢別でみると、「声かけ・見守り」については65～74歳（59.3%）と20～29歳（57.1%）が全体に比べて高くなっている。また、「必要な支援先への連絡」については40～49歳（34.8%）、「必要な支援先の情報提供」については40～49歳（31.3%）、「悩みを聴くこと」については20～29歳（28.6%）、「支援につながる事業を実施している団体への寄付」については20～29歳（16.7%）が高くなっている。

図6-3-3 生活に困っている人への支援 地区別



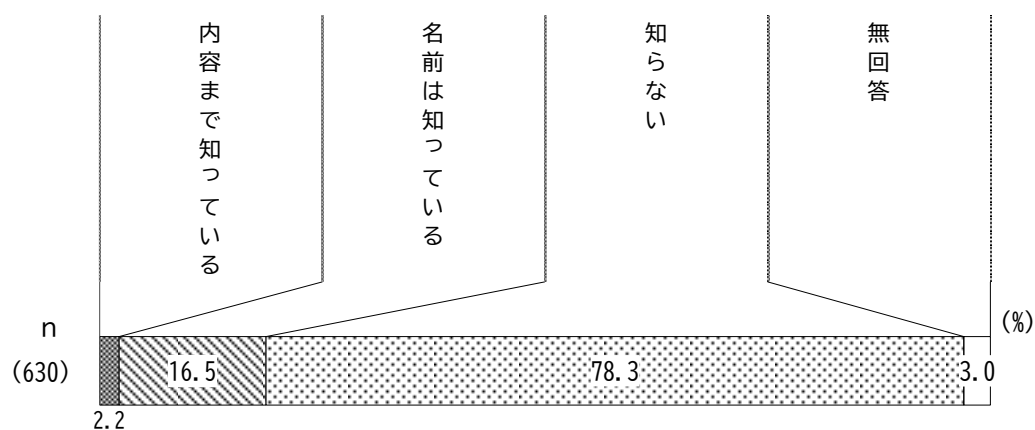
地区別でみると、「声かけ・見守り」については東部地区（54.9%）と南部地区（51.7%）が全体に比べて高くなっている。また、「必要な支援先への連絡」については中央地区（38.4%）、「必要な支援先の情報提供」については中央地区（28.6%）と北部地区（25.6%）、「身の回りのお世話（掃除、ゴミ出しなど）」については中部地区（20.6%）、「支援できることはない」については中部地区（26.5%）と北部地区（24.8%）が高くなっている。

7. 再犯防止対策について

(1) 「社会を明るくする運動」の認知度

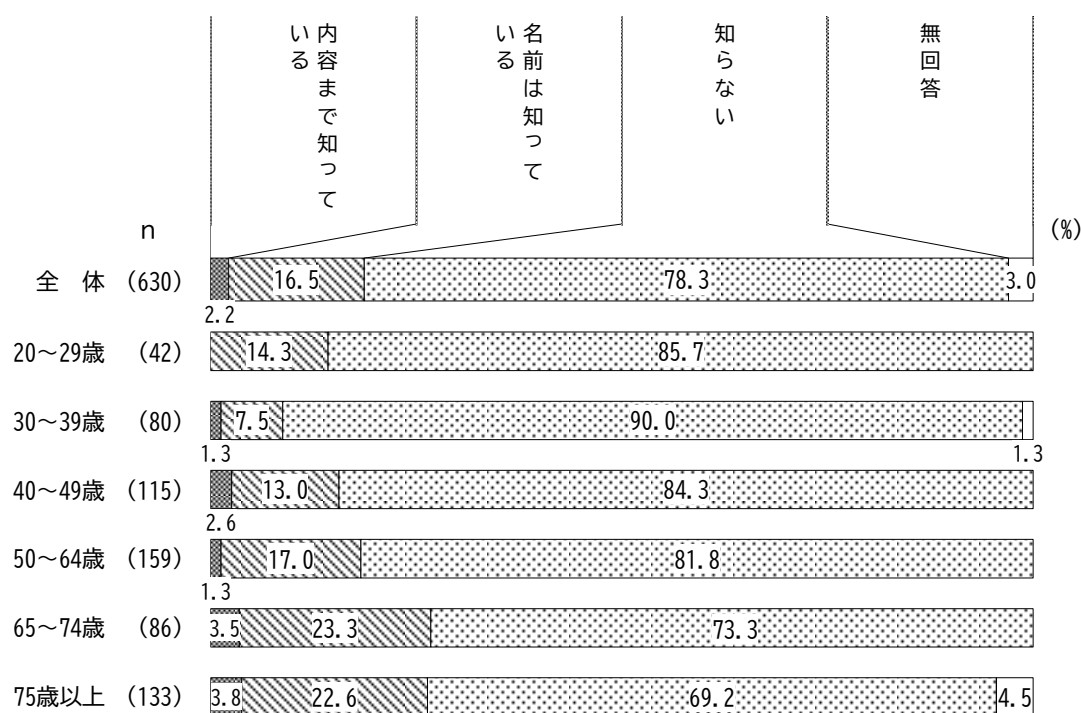
問27 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発の取組である「社会を明るくする運動」をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

図7-1-1 「社会を明るくする運動」の認知度 全体



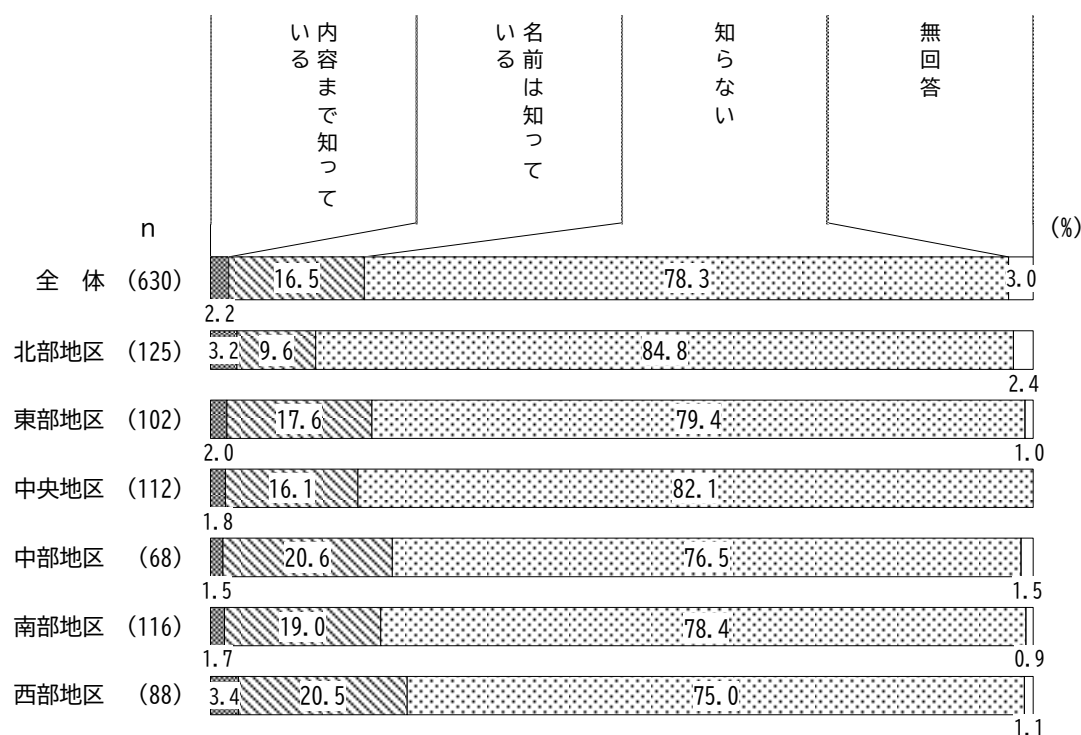
「社会を明るくする運動」の認知度については、「知らない」が78.3%で最も高かった。以下、「名前は知っている」(16.5%)、「内容まで知っている」(2.2%)の順になっている。

図7-1-2 「社会を明るくする運動」の認知度 年齢別



年齢別でみると、「知らない」については30～39歳（90.0%）が全体に比べて最も高くなっている。一方、「名前は知っている」については65～74歳（23.3%）と75歳以上（22.6%）が高くなっている。

図7-1-3 「社会を明るくする運動」の認知度 地区別

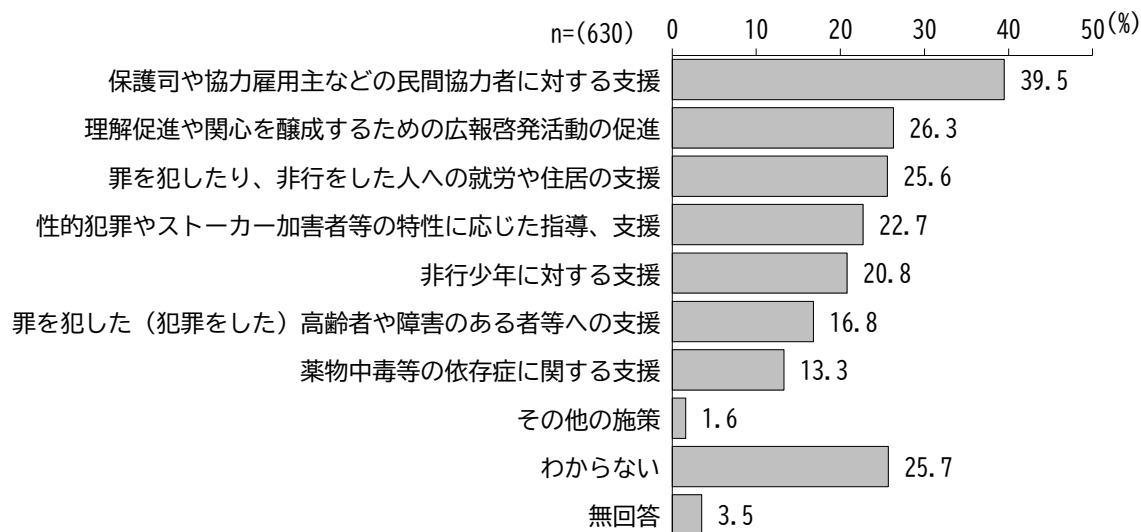


地区別にみると、いずれの項目も全体と大きな差は見られなかった。

(2) 市が力を入れていくべき再犯防止施策

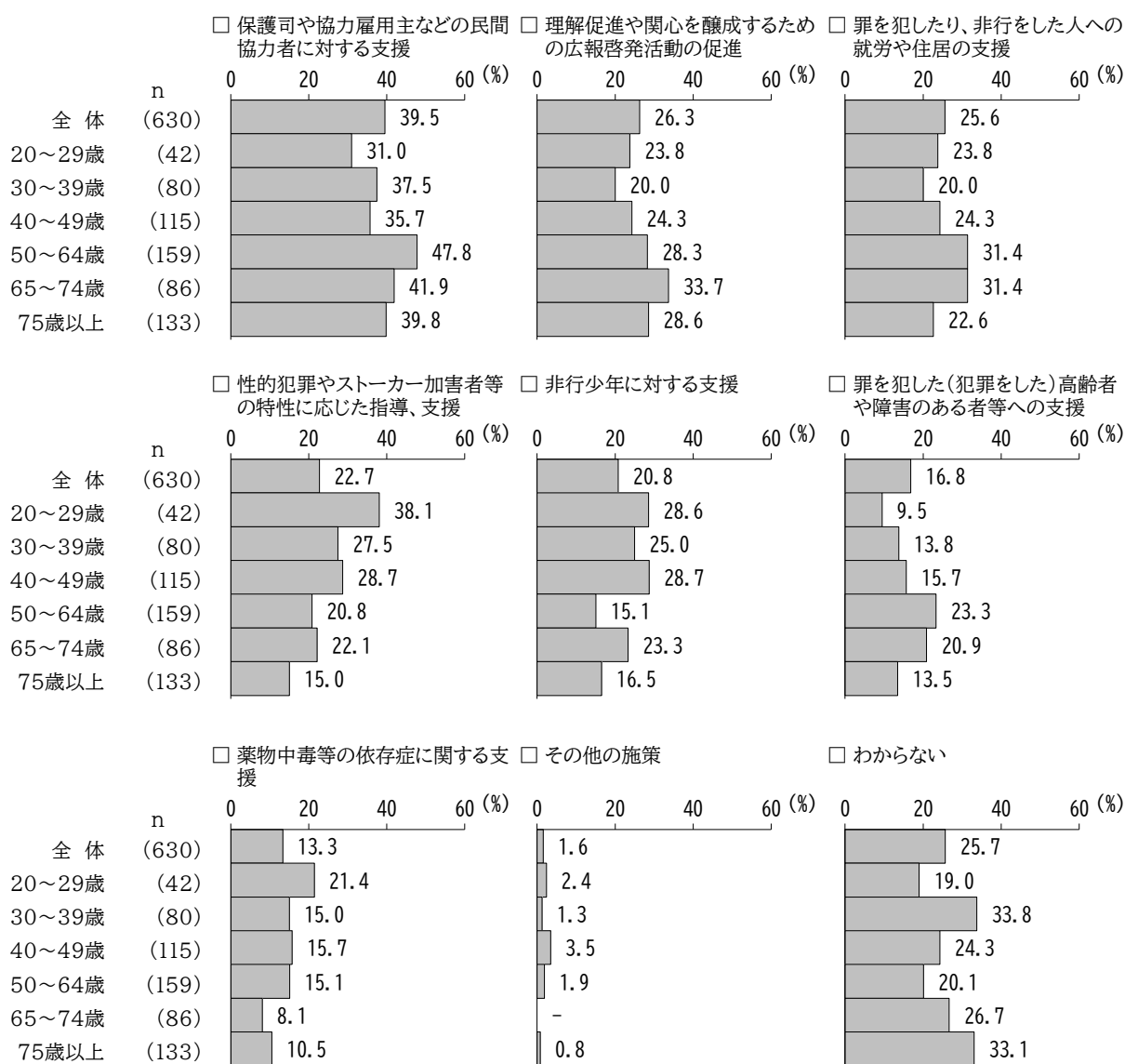
問28 市は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきだと思いますか。
次のうちから3つまで選び、番号に○をつけてください。

図7-2-1 市が力を入れていくべき再犯防止施策 全体



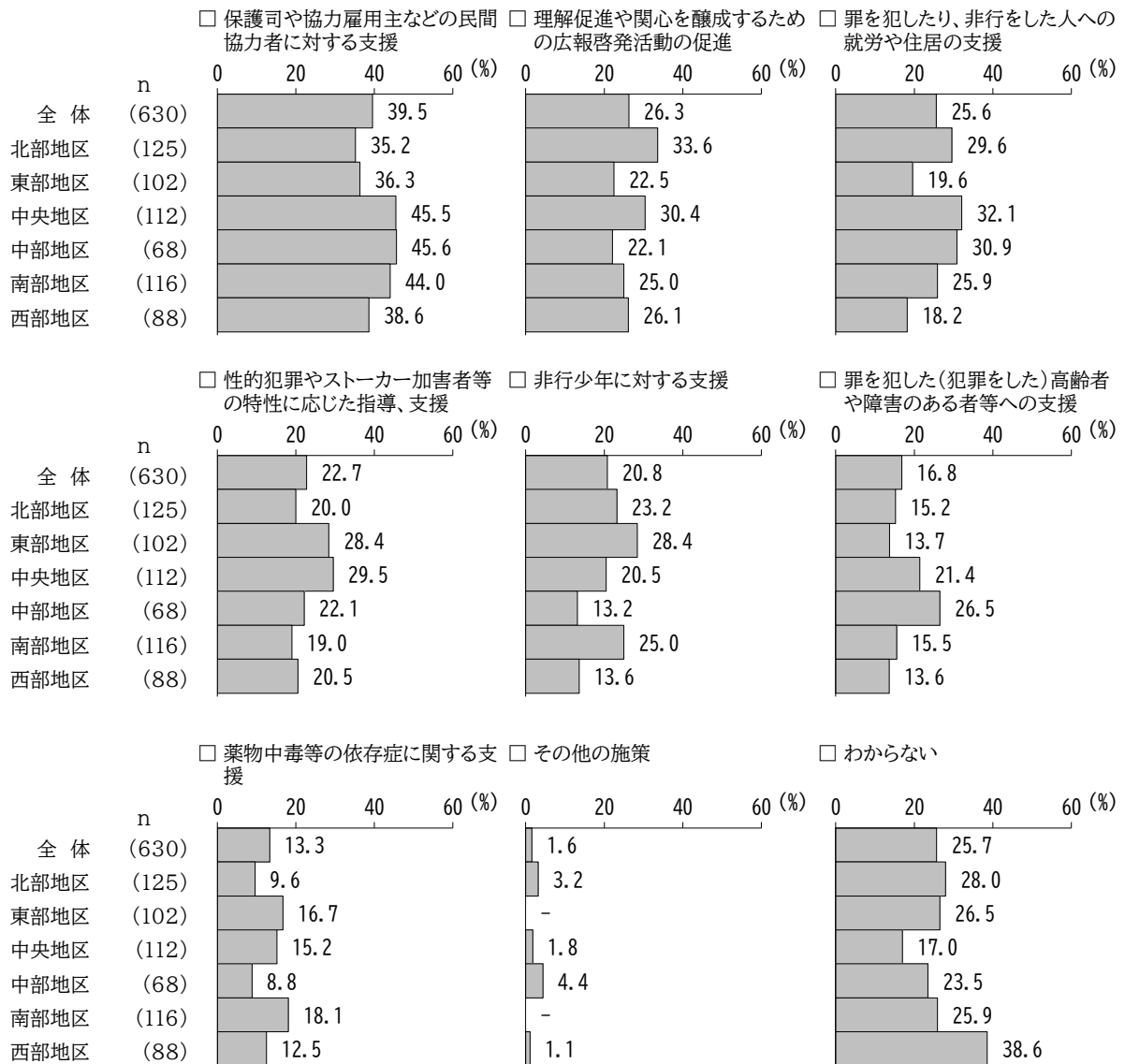
市が力を入れていくべき再犯防止施策について聞いたところ、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」が39.5%で最も高かった。以下、「理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動の促進」（26.3%）、「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」（25.6%）の順になっている。

図7-2-2 市が力を入れていくべき再犯防止施策 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」については50～64歳（47.8%）が全体に比べて高くなっている。また、「理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動の促進」については65～74歳（33.7%）、「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」については50～64歳と65～74歳ともに（31.4%）、「性的犯罪やストーカー加害者等の特性に応じた指導、支援」については20～29歳（38.1%）、「非行少年に対する支援」については40～49歳（28.7%）と20～29歳（28.6%）、「罪を犯した（犯罪をした）高齢者や障害のある者等への支援」については50～64歳（23.3%）が高くなっている。

図7-2-3 市が力を入れていくべき再犯防止施策 地区別(上位9項目)

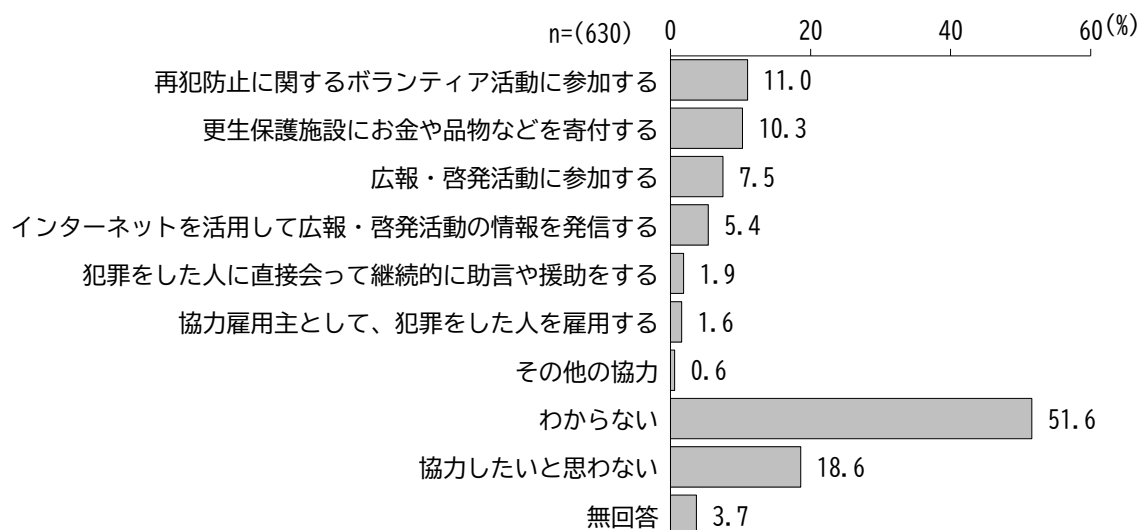


地区別でみると、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」については中部地区（45.6%）、中央地区（45.5%）、南部地区（44.0%）が全体に比べて高くなっている。また、「理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動の促進」については北部地区（33.6%）と中央地区（30.4%）、「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」については中央地区（32.1%）と中部地区（30.9%）、「性的犯罪やストーカー加害者等の特性に応じた指導、支援」については中央地区（29.5%）と東部地区（28.4%）、「非行少年に対する支援」については東部地区（28.4%）、「罪を犯した（犯罪をした）高齢者や障害のある者等への支援」については中部地区（26.5%）が高くなっている。

(3) 再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について

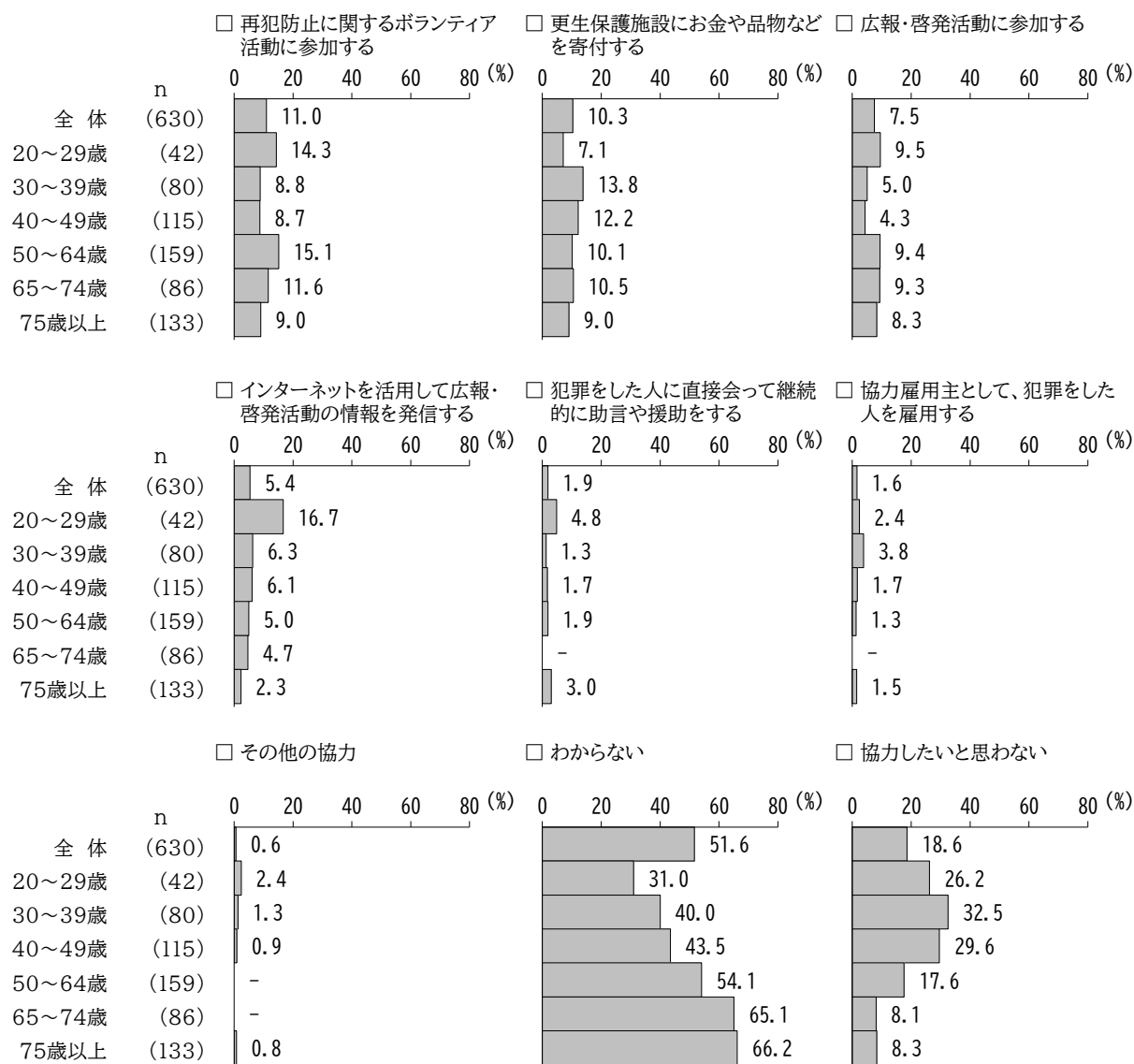
問29 あなたが罪を犯した人の立ち直りに対して協力する場合、どのような協力をしたいと思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

図7-3-1 再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について 全体



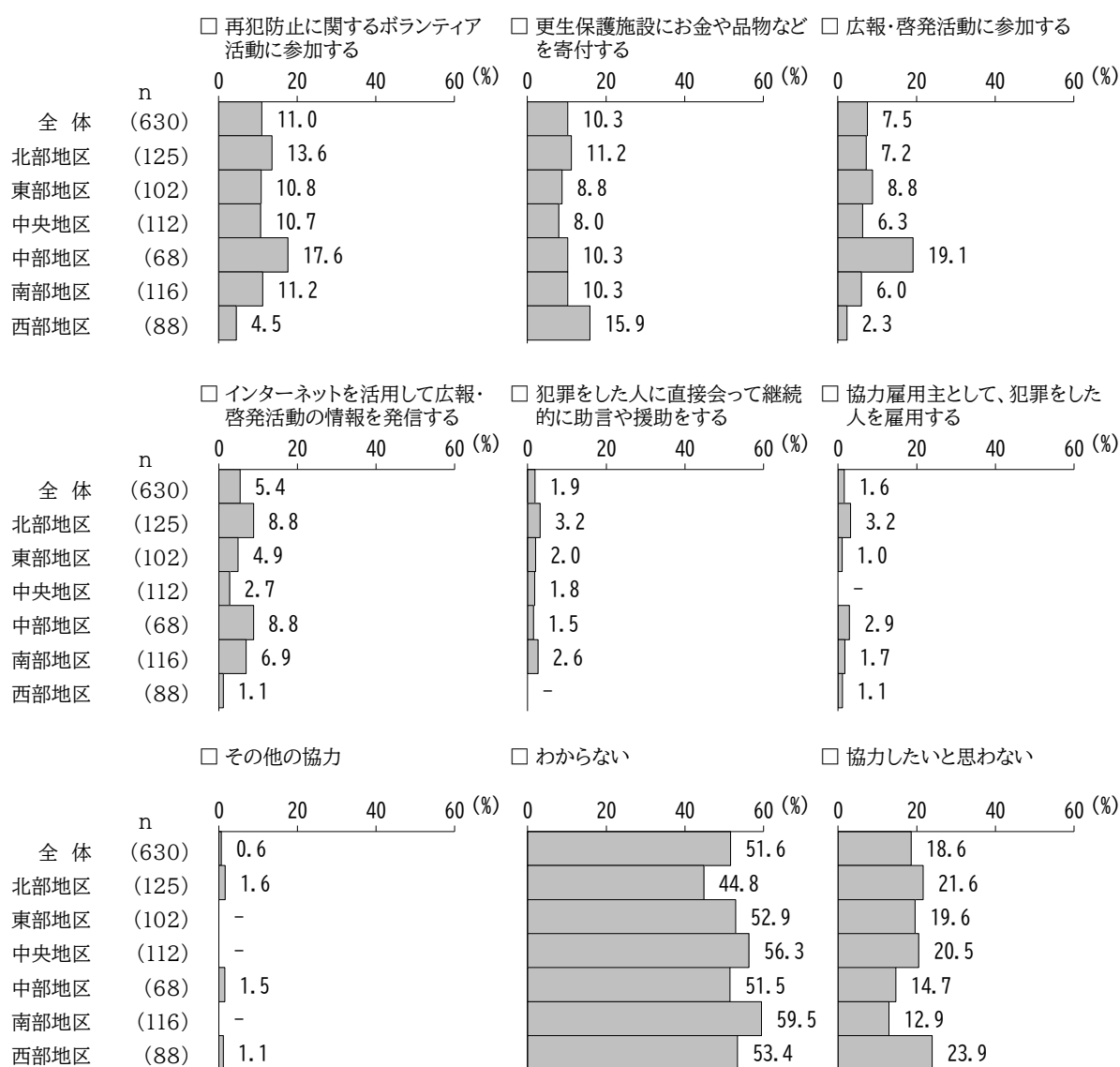
再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について聞いたところ、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が11.0%で最も高かった。以下、「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」(10.3%)、「広報・啓発活動に参加する」(7.5%)の順になっている。

図7-3-2 再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について 年齢別(上位9項目)



年齢別でみると、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」については50～64歳（15.1%）と20～29歳（14.3%）が全体に比べて高くなっている。また、「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」については30～39歳（13.8%）、「インターネットを活用して広報・啓発活動の情報を発信する」については20～29歳（16.7%）が高くなっている。

図7-3-3 再び罪を犯さないように個人でサポートできる取組について 地区別(上位9項目)



地区別でみると、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」については中部地区（17.6%）が全体に比べて高くなっている。また、「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」については西部地区（15.9%）、「広報・啓発活動に参加する」については中部地区（19.1%）が高くなっている。

8. 自由意見

(1) 地域福祉に関するご意見・ご要望

問34 その他、地域福祉に関するご意見・ご要望などがある方はご自由にお書きください。

意見・要望を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼地域での交流に関すること

- ・住まいの近辺は調整地域で家が増えないため、お年寄りが多く、子供達と一緒に住むことが少なく、だんだん空き家が増えて来ています。我が家も三男が住んでいるので今の所は助かっていますが、いなくなったら不便を感じると思います。そんな時に何か手助けを気軽に頼める様な事ができたら良いと思うのですが。つい周りの人に迷惑をかけたくないと思う人が多い様に思います。
- ・現在ワンルームマンション住まいで、自治会にも加入していないため、地域の情報はあまり分からない。ただ自分ができる事、手助けは、何か機会があれば参加したいと思う。
- ・知らない人への支援は信頼関係の構築が何よりも大事だと思う（下手すればプライベートの侵害になりかねない気がする）ので、近所の人などに支援の協力を求めるのならば、一時的にもそれを取り持つ人が必要になると思います。
- ・自治会加入率が下がる中、個人の事情がいろいろある中、自主的に地域活動に参加を促すのは難しい。市が半強制的に全市民が参加するような、総合防災訓練を行い、そこで地域の人々が交流できるようなことを、市が積極的にやってほしい。

▼相談・情報提供に関すること

- ・そもそもどういう事が地域福祉なのか理解できていないので、広報等で教えて頂きたいです。高齢者は市のホームページでと言われても、ホームページを開く事ができない人が沢山いると思います。よろしくお願い致します。
- ・図書館が遠く、子育て支援センターからも距離があります。広報やHPなどで情報は得るようにしていますが、イベント時や相談したい時に今一つ踏み出せないことが多くあります。コミュニティセンターなどを上手く活用できる方法があれば知りたいです。
- ・地域福祉に限らないが、ホームページの見やすさ。現在の構成は新聞のようで、目的をもって情報を探すのがしにくいです。
- ・アンケートに答えている際に、知らない制度が沢山あることが分かりました。当事者にならないと知り得ないものが多いと感じたので、当事者になってから直ぐに調べられるWEBページを市のHP等で展開出来ると助かるのかなと思いました。

▼福祉サービスに関すること

- ・「海老名市は高齢者に対して、支援が不足している」との声をよく聞きます。例えば、東京のように交通機関の乗車料金0円、タクシーの乗車料金の割引等あってもいいのではないのでしょうか？
- ・他県から海老名市へ引っ越して来ました（5年前）。福祉サービスがとっても整っており、海老名市に越して来たことが、生活面でも安心して過ごせることに感謝しております。ボランティアの活動も興味がありますが、仕事が忙しく、もう少し仕事量が減らせたら参加したいなと思います。
- ・You Busと同じく、100円料金の「ぬくもり号」の継続をお願いします。免許証を返納したので、買い物に行くための手段が必要なのでお願いします。

▼子育て・保育に関すること

- ・安心して楽しめる子供の公園を増やして欲しい（トイレ、おむつ替えスペース、じゃぶじゃぶ池の併設など）。海老名駅の西口に直結する公園があると、市の活性化にも繋がると思う。国道246号、市道19号線の騒音（バイク）問題。保育園不足。マンションの建設時には、保育園の設立予定も事前の条件にすべきかと思います。
- ・学童の数が圧倒的に足りません。入所できずに仕事を辞めた人も周りにいます。また民設民営のため、費用も厚木や東京都と比べて倍近くで高いです。マンションや戸建てをどんどん増やし、人口もどんどん増えて、喜ばしいように報じていますが、子供の受け皿は後回しですか？とっても子育て世帯に優しくないまちだと思います。新しく海老名に転入してきて、子供を産み育てる人達はがっかりすると思いますよ。人口を増やすなら、それなりの子供の受け皿を充実させてください。
- ・新築マンションが駅周辺にたくさん建設され、子供が増えています。公園、施設内で遊べる場所が無さ過ぎる。もっと遊べる場所を充実させて欲しい。こどもセンターの親子プレイルームも午前中は予約がすぐに埋まってしまう。
- ・保育園、幼稚園、学童の充実をお願いします。入りたい人が入れる地域にしてください。小学校も10歳頃までは、こども園の様に教育と保育の両面でこどもを支えて貰えませんか？夏休みも給食(こども食堂)などで、子供の食を守って欲しいです。

▼防災に関すること

- ・社家駅での電波が悪いと思う。他にも悪い所（場所）はあるが。災害があった場合に連絡手段が取れるような環境であって欲しいと思う。市の方から働きかけをお願いします。駐輪場を使用しているが、整備されておらず、通路に置かれている場合もしばしば。こちら同様に災害時に不要なケガなどに発展しそうな気がします。
- ・防災放送をしているのは分かるが、内容が分からないので、分かる様にして欲しい。
- ・市の放送が流れるスピーカーの強度、耐震性を至急確認したいです。自宅前に設置されており、大地震の際に倒れるのではないかと不安でなりません。どこに確認すれば答えが得られますか？

▼交通環境・道路に関すること

- ・歩道の雑草がすれ違う度に引っ掛かるので、草や雑草を清掃してください。道路の白いラインが薄くなっている所は、渡る場所が分かりづらくなって事故に繋がります。先日、ご高齢者が散歩中に上手く歩けず田んぼに落ちてしまいました。そういう時は、どこに連絡すればよいか迷いました。平日の夕方や土日祝などの緊急先などは警察なんですか。こういう時こそ地域の見守りの人がいるといいですね。
- ・週末のららぽーと付近の車の混雑が酷い。住民の誘致はほどほどにして、住みやすい街を目指して欲しい。国道246号線の暴走族がうるさ過ぎる。
- ・南部地域と駅周辺の生活の格差が出てきていると思います。駅へ行くため歳老いても車が手放せなかったり。その理由は交通費のコミバス、JRと高額になります。中心部へ行かずとも住みやすい、ずっと住み続けたい生活していける歩道の整備など。倉庫ばかりではなく大型商業施設などがあればコミュニティも広がってゆくと思います。

▼暮らしやすさに関すること

- ・住みたい町のランキングに海老名市は上位に入っていますが、いつも未成熟な部分を感じます。まず、道路の酷さ、歩道の酷さ、街路樹の無さです。そして小・中学校の学校図書館への司書の配置も遅れています。中央図書館は選書について、当初危ぶまれていましたが、まだ過去の遺産があるため、信用度はあると思いました。しかし、今後はどうでしょうか。高齢者対策として、各家庭の努力に依存している部分が海老名市も大変多くあると思います。
- ・海老名では人口が急激に増え、不確かですが、保育園、学童保育が不足していると聞いています。商業施設と道路整備、人口増加と保育園など、同時進行できない開発はしないで欲しいです。私の地域では、土地開発のために田がなくなり、今は草ボウボウです。未来の緑地が減ることがとても心配です。もうこれ以上、未来の海老名市民のため、子供達のために緑地、農地を減らさないでください。夏の気温の上昇にも影響すると思います。
- ・マンションが建って、活気もあって良いが、日常的に必要なスーパーが異常に混んでいたり、ホームセンターも遠く、車が無いといけない距離にある。おしゃれなお店をつくるのは良いが、日常生活に即した店が不足している。まだまだマンションが建ち、人口が増えることを考えると不安。「ずっと住み続けたい町」を掲げているなら、生活に即した企業誘致をして欲しいし、すべきだと思う。
- ・外国人が増えて、ゴミ出しが分からない人やルールが理解できていない人が多くなった。もっと防犯カメラを増やして欲しいです。
- ・古墳や田畑、富士山の見える歴史のある風景。そのような素敵な土地柄を活かして市民が誇りを持って生活出来るように希望します。最近ゴミ出しのマナー違反が目立ちます。狭い路地をスピードを出して走る車や、外国人労働者が運転するトラックが一時停止を無視して事故寸前など、怖い思いもしています。市民が安心安全に生活出来ることを希望します。

第4章 調査票

海老名市 地域福祉に関する住民アンケート調査

市民のみなさまにおかれましては、日頃より海老名市の福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

海老名市では、社会環境の変化に伴い、多様化・複雑化している福祉ニーズに対応するため、「海老名市地域福祉計画」を策定しております。この度は、令和7年度の改定にあたり、市民のみなさまの身近な生活課題や地域での支えあいに関するお考えを把握したうえで検討を進めてまいりたいと考えており、アンケートをみなさまにお願いすることといたしました。

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方から1,400人を無作為に選ばせていただきました。本調査票は無記名でご提出していただくもので、個人が特定されることはありません。いただいた回答は本調査の目的以外に使用することはありませんので安心してご回答ください。

何かとお忙しいこととは存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年6月

海老名市長 内野 優

【回答のしかた】 次の2つの方法からいずれか1つを選び回答してください。

1. 調査票（この冊子）に直接記入し郵送（返信用封筒を同封しております）。
→下記【記入に際してのお願い】をご覧ください。
2. パソコン・タブレット・スマートフォンでオンライン回答
→別紙「インターネットによる回答方法」をご覧ください。

【記入に際してのお願い】

- 1) 回答は原則として宛名のご本人が記入してください。もし、ご本人が記入できない場合は、ご家族や代理の方がご本人の考えを聞きながら記入してください。
- 2) 質問は問34まであります。回答は番号を○で囲んでください。なお、回答の中で「その他」を選択された場合は、お手数ですが（ ）の中に具体的な内容を記入してください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

7月21日（日）までに ご投函ください。

◆このアンケートに関するお問い合わせ先◆

海老名市役所 保健福祉部 福祉政策課

〒243-0492 海老名市勝瀬175-1

電話 046-235-4820（直通） FAX 046-235-7015（保健福祉部）

※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません。

※回答の重複を避けるためにIDを付番しています。個人を特定することはありません。

※「紙の調査票によるご回答」と「インターネットによるご回答」の両方をしていただいた場合、前者が優先されます。

ID:

1. 地域との交流についてお尋ねします。

問1 あなたはお住いの地域での暮らしについてどう思われますか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
① 近隣の生活マナー	1	2	3	4	5
② 病院など医療関係施設	1	2	3	4	5
③ 道路や交通機関などの使いやすさ	1	2	3	4	5
④ 公園や緑地などの自然環境	1	2	3	4	5
⑤ 図書館やコミュニティセンターなど公共施設の充実	1	2	3	4	5
⑥ 地域の雰囲気や治安の良さ	1	2	3	4	5

問2 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- 1 大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）
- 2 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）
- 3 近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）
- 4 自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）
- 5 高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯（8050問題）
- 6 子育てと親の介護を一人で同時に抱えている世帯（ダブルケア）
- 7 未成年の子どもが家族の介護などによって、自分の時間をもてない世帯（ヤングケアラー）
- 8 家族の間で虐待が疑われる世帯（虐待）
- 9 上記以外で、深刻な課題を抱えていると思われる世帯（具体的に： ）
- 10 見たり、聞いたりしたことはない

問3 あなたはお住いの地域で孤立感を感じることがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|---|-----------|---|---------|
| 1 | 感じる | 4 | あまり感じない |
| 2 | やや感じる | 5 | 感じない |
| 3 | どちらともいえない | | |

問4 あなたは普段、となり近所の人とどの程度お付き合いをしていますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|----------------------|
| 1 何か困った時に助け合う親しい人がいる |
| 2 互いに訪問し合う人がいる |
| 3 立ち話をする程度の人ならいる |
| 4 あいさつをする程度の人がある |
| 5 ほとんど付き合いがない |

問5 あなたは、となり近所の人に手助けしてもらおうとしたら、どんなことをしてほしいですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 安否確認の声かけ | 7 家事の手伝い |
| 2 災害時の手助け | 8 ごみ出し |
| 3 高齢者などの見守り | 9 話し相手 |
| 4 短時間の子どもの預かり | 10 その他の手助け() |
| 5 病院などの外出の手伝い | 11 何もしてほしくない |
| 6 買い物の手助け | |

問6 あなたは、となり近所の助け合いとして、何ができると思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1 安否確認の声かけ | 7 家事の手伝い |
| 2 災害時の手助け | 8 ごみ出し |
| 3 高齢者などの見守り | 9 話し相手 |
| 4 短時間の子どもの預かり | 10 その他の助け合い() |
| 5 病院などの外出の手伝い | 11 助け合いたいが、自分自身に余裕がない |
| 6 買い物の手助け | 12 何もしたくない |

問7 近隣住民同士がともに支え合う地域づくりのために、市としてはどのような支援を行う必要があると思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | |
|------------------------------------|
| 1 地域の町内会活動やボランティア活動等への参加促進や活動支援をする |
| 2 支え合う地域づくりに関する意識啓発をする |
| 3 地域で活動する様々な団体同士の交流を進める |
| 4 その他の支援() |
| 5 特になし |

問8 あなたは、くらしの中で困りごとや悩みごとが生じた場合、誰に（どこに）相談したいと思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 家族・親族 | 7 福祉施設・サービス提供事業者 |
| 2 友人・知人・近所の人 | 8 こどもセンター |
| 3 行政機関の窓口 | 9 自治会・町内会 |
| 4 民生委員・児童委員 | 10 警察 |
| 5 海老名市社会福祉協議会 | 11 その他の相談先（ ） |
| 6 地域包括支援センター | 12 特に相談したいとは思わない |

2. ボランティア・市民活動についてお尋ねします。

問9 あなたは、これまでにボランティア・市民活動をしたことがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1 現在、活動している |
| 2 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない |
| 3 活動したことがない → 次ページの問12にお進みください |

問9で「1. 現在、活動している」、「2. 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方はお答えください。

問10 どのような活動をしていますか。（していましたか）。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 高齢者支援に関する活動 | 7 自治会・子ども会・PTAに関する活動 |
| 2 障がい者支援に関する活動 | 8 教育・文化・スポーツの振興に関する活動 |
| 3 子育て支援に関する活動 | 9 交通安全に関する活動 |
| 4 健康づくり・医療に関する活動 | 10 まちづくり活動 |
| 5 地域での清掃活動 | 11 その他の活動（ ） |
| 6 防犯・防災などの活動 | |

問9で「1. 現在、活動している」、「2. 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方はお答えください。

問11 活動のきっかけはなんですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1 家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて | |
| 2 通っている学校での授業や活動、行事を通じて | |
| 3 自治会や子供会など地域の活動を通じて | |
| 4 所属する団体やサークルなどの活動を通じて | |
| 5 勤め先での研修や活動を通じて | |
| 6 インターネットや電子メールを通じて | |
| 7 新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て | |
| 8 ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて | |
| 9 SNS (X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook、YouTube など) を通じて | |
| 10 その他のきっかけ (|) |
| 11 特にきっかけはない | |

問12 あなたは、今後ボランティア・市民活動に参加したい、あるいは続けたいと思いますか。
次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 活動したい | 3 あまり活動したくない |
| 2 できれば活動したい | 4 活動したくない |
| | 5 活動したいが、活動できない |

問12で「3. あまり活動したくない」、「4. 活動したくない」、「5. 活動したいが、活動できない」と回答した方はお答えください。

問13 あなたがボランティア・市民活動をしたくない・できない理由は何ですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 活動や行事の内容に興味や関心がないから | 6 自分の趣味や余暇活動を優先したいから |
| 2 何を、いつ、どこでやっているのかが分からないから | 7 活動するための技術や能力がないから |
| 3 病気や障がいなどの理由で参加しづらいから | 8 付き合いがわずらわしいから |
| 4 知り合いで参加する人がいないから | 9 その他の理由 (|
| 5 仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから | 10 特に理由はない |

3. 福祉サービスについてお尋ねします。

問 14 高齢者・障がい者・子育て支援などに関する市の福祉サービス※について、あなたを含め家族の中で、これまでに福祉サービスを利用したことがありますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 自分自身が利用した | 3 自分と家族の双方が利用した |
| 2 家族が利用した | 4 利用しなかった |

※市民の生活の質を向上させ、困難を抱える人々を支援するために提供される各種の公的サービスです。

【介護サービスの事例】…訪問介護サービス、デイサービス など

【障がい福祉サービスの事例】…就労支援サービス、生活介護サービス など

【保育サービスの事例】…一時預かり保育、子育て支援センター など

問 14 で「1. 自分自身が利用した」、「2. 家族が利用した」、「3. 自分と家族の双方が利用した」と回答した方はお答えください。

問 15 福祉サービスの利用にあたって、困ったことは何ですか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1 利用したいサービスではなかった |
| 2 利用したい期間（日数）を利用することができなかった |
| 3 サービスを利用する場所が遠いため、通うことに不便を感じた |
| 4 制度上、サービスの提供ができないと言われた |
| 5 その他の困ったこと（ ） |
| 6 困ったことは特になかった |

問 16 あなたは、市の福祉に関する情報を主にどこから入手していますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 広報えびな | 8 自治会回覧板 |
| 2 市のホームページ | 9 友人、知人、近所の人 |
| 3 市の公式 SNS | 10 民生委員・児童委員 |
| 4 市の担当課・窓口 | 11 地域包括支援センター |
| 5 海老名市社会福祉協議会の広報紙 | 12 福祉関連施設（こども・高齢者・介護・障がい） |
| 6 テレビ・ラジオ | 13 その他の情報源（ ） |
| 7 タウン誌 | 14 特に入手していない |

問17 あなたは、次のような地域福祉活動の組織や拠点をご存知ですか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

	活動内容を 知っている	名前を 聞いたことがある	知らない
① 民生委員・児童委員	1	2	3
② 海老名市社会福祉協議会	1	2	3
③ 地区社会福祉協議会	1	2	3
④ ボランティアセンター (海老名市社会福祉協議会内)	1	2	3
⑤ 地域包括支援センター	1	2	3
⑥ 子育て支援センター	1	2	3

4. 防災についてお尋ねします。

問18 あなたは、お住まいの地域の災害時の避難場所を知っていますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|--------|
| 1 実際に行ったことがある | 3 知らない |
| 2 場所（名称）は知っている | |

問19 あなたは、日頃からお住まいの地域の防災訓練に参加していますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 何度も参加している | 3 参加したことはない |
| 2 一度だけ参加したことがある | |

問20 あなたは、災害時の避難や対応について不安に思うことはありますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 情報を得られるか | 6 避難所で必要な手当を受けたり、薬をも
らえたりするか |
| 2 緊急事態であることを人に知らせられるか | |
| 3 まわりの人に助けてもらえるか | 7 避難所に必要な設備があるか |
| 4 避難所まで行くことができるか | 8 自分のけがや病気の状態が悪くならないか |
| 5 避難所で介護、看護をしてもらえるか | 9 その他の不安（ ） |
| | 10 特に不安はない |

問21 あなたは、避難行動要支援者登録制度（登録名簿）※をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

1 内容まで知っている	3 知らない
2 名前は知っている	

※避難行動要支援者登録制度（登録名簿）とは

災害が発生した時に、ひとりで避難することが困難（要介護認定を受けている方や障害のお手帳をお持ちの方など）、かつ在宅で生活をしている方の名簿を作成し、関係者に提供することで、必要な支援を実施すること目的とした制度です。

5. 成年後見制度についてお尋ねします。

問22 あなたは、次のような制度や施設をご存知ですか。それぞれの項目に、あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

	活動内容を知っている	名前を聞いたことがある	知らない
① 成年後見制度	1	2	3
② えびな成年後見・総合相談センター	1	2	3
③ 市民後見人	1	2	3
④ 任意後見	1	2	3

※成年後見制度（市民後見人）とは

認知症や知的障がい、精神障がいなどにより日常の手続きや金銭管理が難しい方が、後見人による支援を受けられる制度です。市民後見人養成講座を修了し、市の名簿に登録すると、市民後見人として家庭裁判所の選任を受けることができます。

問23 市民後見人になるために必要な知識などを身に付けてもらうため養成講座について、あなたは受講してみたいと思いますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

1 受講してみたい	3 まだわからない
2 条件次第では受講してみたい	4 受講してみたいとは思わない

6. 生活困窮者自立支援制度についてお尋ねします。

問24 あなたは、生活困窮者自立支援制度をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|--------|
| 1 内容まで知っている | 3 知らない |
| 2 名前は知っている | |

問25 あなたの身の回りには、生活に困っている人がいますか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|------|-------|---------|
| 1 いる | 2 いない | 3 わからない |
|------|-------|---------|

問26 あなたは、どのような事であれば生活に困っている人を支援することができますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 声かけ・見守り | 5 身の回りのお世話（掃除、ゴミ出しなど） |
| 2 悩みを聴くこと | 6 支援につながる事業を実施している団体への寄付 |
| 3 必要な支援先への連絡 | 7 その他の支援（ ） |
| 4 必要な支援先の情報提供 | 8 支援できることはない |

7. 再犯防止対策についてお尋ねします。

問27 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発の取組である「社会を明るくする運動」をご存じですか。次のうちから1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|--------|
| 1 内容まで知っている | 3 知らない |
| 2 名前は知っている | |

問28 市は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきだと思いますか。
次のうちから3つまで選び、番号に○をつけてください。

- 1 理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動の促進
- 2 保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援
- 3 罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援
- 4 罪を犯した（犯罪をした）高齢者や障害のある者等への支援
- 5 非行少年に対する支援
- 6 性的犯罪やストーカー加害者等の特性に応じた指導、支援
- 7 薬物中毒等の依存症に関する支援
- 8 その他の施策（
- 9 わからない

問29 あなたが罪を犯した人の立ち直りに対して協力する場合、どのような協力をしたいと思いますか。次のうちからあてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- 1 再犯防止に関するボランティア活動に参加する
- 2 更生保護施設にお金や品物などを寄付する
- 3 広報・啓発活動に参加する
- 4 犯罪をした人に直接会って継続的に助言や援助をする
- 5 インターネットを活用して広報・啓発活動の情報を発信する
- 6 協力雇用主として、犯罪をした人を雇用する
- 7 その他の協力()
- 8 わからない
- 9 協力したいと思わない

8. あなた自身についてお尋ねします。

それぞれの項目から、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

問30 あなたの年齢（令和6年7月1日現在）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20~29歳 | 3 40~49歳 | 5 65~74歳 |
| 2 30~39歳 | 4 50~64歳 | 6 75歳以上 |

9. 自由意見

問34 その他、地域福祉に関するご意見・ご要望などがある方はご自由にお書きください。

アンケートは以上です。長時間にわたるご協力、誠にありがとうございました。

海老名市地域福祉に関する住民アンケート調査
－ 報告書 －

令和 7 年 3 月

発行：海老名市

編集：保健福祉部 福祉政策課

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

電話 046-231-2111（代表）
